

第八類 財務 第一章 會計

但明治二十二年內務省訓令第三十六號及明治二十九年拓殖務省訓令第四號ハ之ヲ廢止ス

內務省及所管廳物品取扱規程

第一章 總則

第一條 本規程ニ物品ト稱スルハ物品會計規則第一條ニ定ムル諸品ヲ云フ

第二條 本規程ニ部局長ト稱スルハ內務大臣官房會計課長、復興事務局長、社會局長官、職業紹介事務局長、癡兵院長、造神宮副使、內務省土木出張所長、土木試驗所長、衛生試驗所長、警察講習所長、武藏野學院長、榮養研究所長、警視總監、北海道廳長官、北海道廳出張所長及府縣知事ヲ謂フ

第三條 物品ノ出納ハ物品會計官吏ヲシテ之ヲ行ハシム

第四條 物品會計官吏及分任物品會計官吏ハ各廳便宜ノ箇所ニ設置スヘシ

第五條 物品會計官吏、代理官、計分任官、物品會計規則第十條ノ二第十一條第十二條ノ検査ノ官吏及第十五條第二項但書ノ官吏ハ部局長之ヲ命スヘシ

第六條 部局長必要アリト認ムルトキハ物品會計官吏ノ下ニ物品取扱主任ヲ置キ共用物品等ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第七條 (削除)

第二章 物品出納 帳簿

第八條 (削除)

第九條 薪炭油、郵便切手類、各材料品等ニシテ需要見込額ヲ以テ交付スル場合ハ物品取扱主任ニ假渡ヲ爲シ便宜ノ時期ニ於テ精算ヲ爲サシムヘシ

第十條 物品會計官吏ハ別記様式ニ據リ出納簿ヲ設備シ其出納ヲ登記スヘシ

第十一條 物品ノ出納ハ直チニ帳簿ヘ登記スヘシ但シ消耗品類ノ拂出ハ一箇月間取纏メ記帳スルコトヲ得

第三章 保管 責任

第十二條 貯藏ノ物品ハ物品會計官吏共用ノ物品ハ物品取扱主任各自使用ノ物品ハ各自之ヲ保管スヘシ

第十三條 物品會計官吏ハ既ニ交付シタル物品ト雖モ取纏上ニ關シテハ總テ監督ノ責任アルモノトス

第十四條 (削除)

第十五條 本規程第十二條ノ保管ノ責アル者其物品ヲ故意若クハ怠惰ニ由リ亡失毀損シタルトキハ部局長ハ之ニ對スル

辨償ヲ命スヘシ

第十六條 直接ニ保管ノ責ナキ者ト雖モ故意怠惰ニヨリ物品ヲ亡失毀損シタルトキハ仍前條ニ依ル

第四章 計算書

第十七條 物品會計官吏ハ物品會計規則第十五條ニ依リ物品出納計算書ヲ調製シ證據書類ヲ添へ部局長ニ差出スヘシ部局長ハ直ニ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第十八條 (削除)

第十九條 會計検査院ヨリ委託検査ニ係ル物品ハ計算書ヲ省略シ帳簿ヲ以テ出納ヲ證明スヘシ

(別記様式)

考	備	在	項	計

右ニ付本年七月十三日發第六八一號ヲ以テ御照會ノ趣了承右
ハ御見込ノ通ニ有之候

●府縣警察費ニ對スル國庫下渡金ノ割合

明治二十一年八月七日
勅令第六十一號

沿章 大正七年三月勅令第二四號、一四年一〇月第二九
四號 改正

朕地方稅中警察費ニ對スル國庫下渡金改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ
之ヲ公布セシム

明治十四年二月第十六號布告府縣警察費ニ對スル國庫下渡金
ノ割合左ノ通改定ス

第一條 (地方稅)中警察費及警察廳舍建築修繕費ニ對スル國
庫下渡金ノ割合ハ東京府ハ其總高ノ十分ノ六トシ其他ノ府
縣ハ六分ノ一トス但シ東京府ニ付テハ大正十二年九月ノ震
災ニ基ク警察廳舍ノ復舊ニ要スル建築修繕費ヲ除キ其ノ總
高一千六百萬圓ヲ超過スル額ニ對シテハ十分ノ三半トス
第二條 前條割合ノ外警察官吏並ニ之ニ準スヘキ備内外國人
ノ諸給警視廳ノ廳費ハ從前ノ通國庫ヨリ支給ス

第三條 本令ハ明治二十二年度ヨリ施行ス

●警部補ニ關スル諸費支辨ニ關スル件

明治四十三年三月八日
勅令第十六號

朕警部補ニ關スル諸費支辨ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布
セシム
警部補ニ關スル諸費ハ巡查ニ關スル諸費ヲ負擔スル經濟ヨリ
之ヲ支辨ス

附則

本令ハ明治四十三年勅令第十二號、明治四十三年勅令第十三
號及明治四十三年勅令第十四號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●衛生職員ニ要スル經費ニ關スル件

大正十一年八月十五日
警沖第一九號

沖繩縣知事照會 大正十一年七月二十四日
警第一四七號

(衛六)

從來ノ警察醫居畜檢査技手藥品其ノ他衛生ニ關スル技術員ハ
大正十年十一月勅令第四百三十五號廳府縣衛生職員制ニ依リ
衛生技師、衛生技手ト相成候處該職員ニ要スル經費ハ警察醫
ノ例ニ依リ警察費ニ計上差支無之候豫算編成上聊疑義有之
候條至急何分ノ御意見承知致度此段及照會候也
警保局長回答 大正十一年八月十五日
警沖第一九號
七月二十四日附警第一四七號ヲ以テ衛生職員ニ要スル經費ニ
關シ御照會相成候處右ハ衛生職員中元ノ警察醫ニ關スル人員
ノ分ニ限リ從前ノ通り警察費ニ計上スヘキ義ト御了知相成度
候

●國産品ノ使用獎勵ニ關スル件

昭和五年六月三日
發社第七九號

(内務次官、大藏次官、商工次官、文部次官ヨリ
警視 總 監 宛 通 牒)
地方 長 官 宛 通 牒

國産品ノ使用獎勵ニ關スル件依命通牒
標記ノ件ニ付テハ曩ニ昭和四年八月十六日發社第四九號及同
年十二月九日發社第一〇號依命通牒ノ次第モ有之既ニ之カ
趣旨ノ普及ト實行ノ促進トニ努メラレツツアルコトト被存候

第八類 財務 第一章 會計

得共國民多年ノ弊習タル舶來品偏重ノ迷妄ハ未ダ之ヲ一洗ス
ルニ至ラス爲ニ輸入超過ノ趨勢ヲ助長シ國內産業ノ發達ヲ阻
害スル等其ノ影響スル所頗ル甚大ナルモノアルノミナラス既
ニ金輸出解禁ヲ斷行シテ經濟更生ノ一途ニ國民ノ努力ヲ傾倒
スヘキ時期ニ際シ能ク國民精神ノ緊張ヲ持續シ一層國産品愛
用ノ氣風ヲ旺ニシテ國內産業ノ振興ヲ圖リ國際貸借ノ改善ヲ
促シ以テ我國經濟力ノ充實發展ヲ期スルハ正ニ刻下ノ急務ナ
ルニ鑑ミ五月二十六日第四回公經濟緊縮委員會ニ於テ別紙ノ
通決定相成全國的ニ國産品愛用ノ一大國民運動ヲ起シ國力ノ
充實伸張ヲ期スルコトト相成候ニ付テハ今後委員會決定ノ趣
旨ニ依リ地方ノ實情ニ應ジ夫々適切有效ナル計畫ヲ樹テ舉國
一致國産品ノ使用勵行ニ努メ以テ本運動所期ノ目的ヲ達成ス
ル上ニ於テ萬遺憾ナキヲ期セラレ度

國産品使用獎勵ニ關スル件

(昭和五年五月二十六日)
公私經濟緊縮委員會決定)

國産品ノ使用獎勵ニ關シテハ既ニ之カ趣旨ノ普及ト實行ノ促
進トニ努メツツアル所ナルモ外國品輸入ノ現狀ニ徴スレハ敢
テ輸入ニ俟ツノ必要ナキモノ渺シトセサルノミナラス之カ爲
國內産業ノ發達ヲ阻害スルノ憾アルハ眞ニ國家ノ深憂タリ、

今や經濟更生ノ一途ニ國民ノ努力ヲ傾倒スヘキ時期ニ際シ、一層國産品愛用ノ氣風ヲ旺ニシテ國內産業ノ振興ヲ圖リ國際貸借ノ改善ニ資スルハ正ニ刻下ノ急務ト謂ハサルヘカラス仍テ左記各項ニ依リ公私經濟ノ各方面ニ亙リテ地方ノ實情ニ適切ナル方法ヲ以テ國産品ノ使用ヲ勵行シ我國經濟力ノ充實發展ヲ期スルノ要アリト認ム

記

- 一、産業、貿易ニ關スル主管省ト密接ナル聯絡ノ下ニ舶來品偏重ノ迷妄ヲ打破シ國産品愛用ノ觀念ヲ普及徹底セシムルコト
- 二、實業團體、教化團體、婦人團體、新聞雜誌等ト協力シテ左記事項ヲ參酌シ適切有效ナル施設ヲ講スルコト
- イ、國産品愛用ニ關スル講演會、講習會、協議會等ヲ開催スルコト
- ロ、國産品愛用週間ヲ設定スルコト
- ハ、國産品ト輸入品トノ對比展覽會其ノ他ノ展覽會施設ヲ行フコト
- ニ、公私經濟緊縮ニ關スル申合、規約等ニハ必ス國産品愛用ニ關スル事項ヲ加ヘ其ノ勵行ニ努メシムルコト
- ホ、優良國産品並ニ外國品ニ代用若ハ匹敵シ得ヘキ品名ヲ

中央ト連絡シテ可成具體的ニ調査シ又ハ國産品愛用ノ實行事例ヲ蒐集シテ其ノ結果ヲ廣ク發表スルコト
ハ、國産品愛用ニ關スル標語ポスター其ノ他ノ資料ナ市町村役場、青年團、町會其ノ他ノ掲示板告知場等ニ掲載スルコト
三、各種ノ學校教育ニ於テ一層國産品愛用ノ觀念ヲ涵養シ特ニ小學兒童ノ學用品ニ付テハ必ス國産品ヲ使用セシムルコト
四、道府縣市町村ニ於テモ必要ニ應ジ政府ノ國産品獎勵ノ爲メ會計法ノ特例ニ關スル法律ニ倣ヒ會計規則ニ付特例ヲ設クルコト

昭和五年六月十二日
發社第八二號

（社會局社會部長產業管理局第二部長ヨリ
縣知事宛 宛 通 牒）

國産品ノ使用獎勵ニ關スル件
標記ノ件ニ付テハ本月三日發社第七九號ヲ以テ内務、大藏、商工、文部次官ヨリ依命通牒相成候處之カ具體的施設ニ關シテハ左記御了知ノ上夫々實施方御取計相成度

〔衛六〕

〔衛七〕

- 一、講演會開催ニ付テハ大體別紙豫定ノ下ニ中央ヨリ講師派遣ノ見込ナルモ之カ實施方ニ付テハ更メテ當方ヨリ協議スヘキニ付御了知ノコト（左ノ括弧内ハ別表以外ノ縣へ通牒セルモノナリ）
- （一）、縣主催ノ講演會ニ中央ヨリ講師派遣ノ希望アル向ニ於テハ少クとも十日間ノ餘日ヲ置キ開催日時、場所及大體ノ聴取者種別ヲ記シ講師派遣方申請アリタキコト
- 二、國産品ノ愛用週間ノ設定ハ大體左記ニ據ルコト
- （イ）時期ハ地方ノ實情ニ應ジ適當ニ定メ少クとも年二回之ヲ實施スルコト
- （ロ）愛用週間中ニ國産愛用ニ關スル講演會、協議會、活動寫眞會、ポスター、リーフレット等ノ文書宣傳其ノ他適當ナル施設ヲ行フコト
- （ハ）實業團體、百貨店、商工業者ノ組合等ト密接ナル聯絡ヲ圖リ可成店頭裝飾包裝紙等ニ國産愛用ノ趣旨ヲ加味セシムルコト
- 三、國産品ト輸入品トノ對比展覽會ニ關スル資料ハ目下商工省ニ於テ夫々準備中ニ付右完成ノ上ハ更メテ之カ開催方ニ關シ當方ヨリ照會スヘキニ付御了知ノコト
- 四、國産品使用獎勵ニ關スル資料トシテ家庭用品、事務用品

道府縣	派遣豫定地	時期
東京市	東京市	六月中
神奈川市	横浜市	
大阪府	大阪市	
兵庫市	神戸市	
京都市	京都市	

愛知市	名古屋市	廣島市	岡山市	福岡市	長崎市	熊本市	長野市	静岡市	新潟市	石川市	宮崎市	秋田市	札幌市	小樽市	函館市	松山市	根室市
七月下旬	七月下旬	七月中旬	七月中旬	七月上旬	七月上旬	七月上旬	七月上旬	七月上旬	七月上旬	七月上旬	七月上旬	七月上旬	七月上旬	七月上旬	七月上旬	七月上旬	七月上旬

〔備六〕
 衛生病院費中ノ一科目トシ(地方税)ヨリ支辨スヘシ

明治二十一年八月十日
 閣令第十三號

本年閣令第十二號ハ明治二十二年度ヨリ施行ス

●府縣管理ニ係ル公園飲用水道
 及公葬墓地ノ維持保存方法經
 費徵收方法等伺出及報告ノ件

明治二十年十月十九日
 内務省訓令第四十四號

府縣

府縣管理ニ係ル公園飲用水道及公葬墓地ノ維持保存方法經費徵收及其所屬現在ノ建物種類(煉瓦塗家石造又ハ木造ノ類)軒數坪等取調本年十二月限届出仍ホ將來之ヲ變更増減スルトアルニ於テハ其都度可伺出經費ノ義ハ收出豫算並精算共毎年(豫算ハ前年度一月限リ精算ハ翌年度九月限リ)當省へ報告スヘシ

●國庫補助ニ係ル上下水道及其

●貸座敷引手茶屋娼妓ノ賦金賦
 課地方税編入及警察機密費檢
 査費支辨方

明治二十一年八月七日
 閣令第十二號

沿章 明治二十二年二月閣令第二八號 改正

貸座敷引手茶屋娼妓ノ賦金ハ府縣知事ニ於テ適宜ニ之ヲ賦課シ(地方税)ニ編入スヘシ
 警察機密費(高等警察ニ屬ス)ハ警察費中ノ一科目トシ檢査費

ノ他土木工事ノ竣工等祝典ニ
關スル費用ノ件

大正四年十二月
發土第一〇八號

(各地方長官宛
土木局長通牒)

國庫補助ヲ受ケタル上下水道其ノ他土木工事ノ起工又ハ竣工等
ノ祝典ニ要スル費用ハ國庫補助ニ關スル費用ヲ以テ支辨スル
コトヲ不得義ニ候條其ノ旨爲念願係公共團體ヘ第示達相成度

●水道其ノ他土木事業ノ紀念品
寄贈方ニ關スル件

大正五年十二月
土祕發第一一號

(各地方長官宛
土木局長通牒)

公共團體ニ於テ水道其他ノ土木事業ノ起工又ハ竣工等紀念ノ
爲關係者ヘ金品ヲ寄贈スルモノ往々有之候處公費ヲ以テ是等
ノ支出ヲ爲スハ不可然義ト存候條爾今右様ノ事無之様豫メ御
部内ヘ御諭達相成度

●汚物掃除法施行上ニ必要ナル
諸費負擔ニ關スル件

明治三十三年六月
衛甲第六一號

(衛生局
長通牒)

汚物掃除法第十一條ニ依リ同法ノ全部又ハ一部ヲ町村内ノ一
部ニ準用スルトキハ其施行上必要ナル汚水溜、溝渠便所等ノ
費用ハ町村制(第九十九條第二項)ニ依リ其施行地一部ノ負擔
ヲラシムルヲ得ヘク又汚物蒐集費監視吏員ノ俸給其他施行ニ
要スル一切ノ費用ニ關シテハ町村制(第二百二十七條第七項)ニ
依リ掃除法準用區域ト其他トノ間ニ附加税ニ相當ノ等差ヲ設
ケ不均一ノ賦課ヲ爲スカ如キ方法ヲ取ラハ略ホ負擔ノ權衡ヲ
保チ得ヘシト存候間合ノ向モ有之候ニ付爲念此段及通牒候也

●監視員給料及旅費支辨方ノ件

明治三十一年七月二十八日
庶甲第一五九號

明治三十一年六月七日
德島縣知事照會 內四甲第二四四號

賣藥品試驗施行ニ要スル費途區分之儀ニ付二十七年八月高知
縣何ニ對シ貴省御指令之趣キニ依レハ藥品巡視規則第一條ノ

(衛六)

(衛四)

明治四十年四月
衛宮第六一號

(各地方長官宛
衛生局長通牒)

監視員給料及旅費ハ府縣費支辨ニ屬スルモノ、如シト雖トモ
爾テ實際事務及經費支辨ノ途ヲ講究スレハ地方官制上其事務
ハ警察部ニ屬シ又經費ハ警察部俸給旅費ノ外府縣費ノ支辨ニ非
ラス果シテ然ラハ右監視員タル衛生官吏藥劑師等ヲ判任官ニ
任シ檢査事務執行セシメタル場合ヲ指稱セシモノニシテ官制
上判任ノ名稱ナキモノヲシテ該事務ニ從事セシメタルトキノ
給料及旅費ハ主管ノ事務タル警察費ヨリ支辨シ差支無之哉聊
カ疑義ニ涉リ及御問合候條至急何分ノ指示相成度候也
追テ二十二年貴省訓令第三十八號中木文費用支辨方ハ官制
改正ノ爲メ自然消滅セシモノト存候條爲念申添候也
庶務局長 回答 明治三十一年七月二十八日
縣治局長 庶甲第一五九號
本年六月七日內四甲第二四四號ヲ以テ監視員給料及旅費支辨
方ノ義ニ付問合ノ超了承右監視員ハ判任官タルト一時雇上ケ
タルモノト問ハス其給料旅費及試驗諸費トモ府縣經費ヨリ
支辨相成可然ト存候經何ノ上此段及回答候也
追テ二十二年當省訓令第三十八號中木文費用支辨方ハ官制
改正ノ爲消滅セシモノニ無之ト存候此段申添候也

●藥品巡視費ニ關スル件

藥品巡視費ノ件ニ付宮崎縣ヨリ別紙寫ノ通り照會ニ付左記ノ
通り回答候條爲念此段及通牒候也
宮崎縣知事照會 明治四十年四月
甲第六五四號
本年三月三十日內務省衛甲第一七號ヲ以テ藥品巡視ニ要スル
費用通牒相成候處右費用ハ藥品巡視費ノミニ使用シ他ノ用途
ヘ流用スヘカラサルハ勿論ニ候得共從來ノ藥品巡視員(國庫
支辨技手ニシテ藥劑師)ヲシテ同取締ノ目的ヲ貫徹スル爲メ
配付ノ旅費ヨリ支辨シ其ノ事務ヲ補助監督セシムルハ敢テ差
支ナキカ如ク有之候得共該通知書中ニ其件明示無之尙ホ本縣
ノ如キハ土地廣漠加フルニ交通不便ノ場所多ク從テ御配付ノ
旅費二百三圓ニテハ假令一名ノ技手旅費トシテ縣下主ナル箇
所ヲ漸ク一週シ得ルニ止マリ其以外僻陬ノ村落ノ醫師、默醫
ヲ調査スルハ到底不可能ノ義ト思料セラレ候右ハ今回御配付
ノ豫算定額内ニ於テ出張ヲ斟酌シ執行可然哉或ハ必要上旅費
増額可相成見込ニ有之候哉前件ニ關シ何分ノ義御回示相成度
候
追テ從來ノ藥品巡視員ハ其儘存置スルモノニ有之候哉併テ

御示シ相煩度候

右之件及照會候也

衛生局長回答 明治四十年四月

衛甲第一〇〇號

四月十八日付甲第六五四號ヲ以テ藥品巡視費ノ件御照會ノ處
今回藥品巡視員ヲ配置シ之ニ要スル費用ヲ配付相成タルハ從
來藥品巡視ニ要シタル人員經費ニ加フルニ今回ノ人員經費ヲ
以テシ依テ以テ藥品ノ取締ヲ周到ナラシムルノ趣意ニ有之換
言スレハ從來ノ人員經費ニ代フルニ今回ノ分ヲ以テシタルニ
ハ無之候間其趣旨ニ依リ取締ノ目的ヲ貫徹セシメ候様御配意
相成度此段及回答候也

追テ旅費等ハ各地方へ配付切ニ付増額難相成御合相成度候

●精神病者檢診醫師ニ支給スヘ

キ手當ハ警察費ヨリ支出スヘ

キ件

明治三十三年十月
衛甲第一〇三號

(衛生局
長通牒)

精神病者監護法第十一條ニ依リ行政廳ニ於テ精神病者ヲ檢診
セノメ若ハ其家宅等ニ臨檢セシムル醫師ニ手當支給ヲ要スル
トキハ所屬警察費中ヨリ支出相成度此段及御通牒候也

●府縣ニ於テ精神病者監置ニ要
スル費用ハ歳出豫算中ニ一費
目ヲ設ケ支出スヘキ件

明治三十三年八月
衛甲第一〇〇號

(衛生局
長通牒)

精神病者監護法ニ依リ市區町村長ニ於テ監置スル費用ヲ府縣
ニテ支出スル場合ニ於テハ府縣歳出豫算中教育費救助費中ニ
精神病者監置ニ要スル一費目ヲ設ケラレ支出相成度此段及御
通牒候也

●市區町村ニ於テ監護スル精神
病者死亡シタル場合費用ノ支
辨及追徴ニ關スル件

明治三十四年七月十三日
衛生局回答

(衛)

大分縣知事照會 明治三十四年六月二十四日
兵第八二二號
精神病者ヲ市區町村ニ於テ監護スル場合ニ於テ之レカ爲要ス
ル費用ノ支辨及追徴ノ方法ハ精神病者死亡シタル場合ニ在テ

モ尙總テ該項ノ規定ヲ準用シ可然御旨趣ニ候哉至急何分御回
示相成度此段及照會候也

衛生局長回答 明治三十四年七月十三日

無號

兵第八二二號ヲ以テ市區町村ニ於テ監置スル精神病者死亡ニ
關スル費用支出ノ件御問合ノ處右ハ御見込ノ通御取計相成可
然ト思考致候條此段及御回答候也

追テ本件ハ當局ノ主管ニ付小官ヨリ及御回答候也

●監護中ノ精神病者死亡シタル
場合ノ埋葬費ハ監護費中ニ包
含スルヤ否ノ件

明治三十九年六月四日
衛廣第一一一號

廣島縣知事照會 明治三十九年五月二十九日

警坤第一八〇號

明治三十三年三月法律第三十八號精神病者監護法第六條ニ依
リ廣島市長ニ於テ監護中ノ精神病者同市居住阪田ハル死亡シ
之カ埋葬ノ費用ヲ該病監護費中ニ加ヘ支辨方請求候處右ハ同
法第十條第二項ニ「市區町村長ニ於テ監護スル場合ニ於テ之
カ爲要ニル費用ノ支辨方法及其追徴方法ハ行旅病人及行旅死
亡人取扱法ノ規定ヲ準用ス」トノ明文アルニ埋葬費ニ當リテ

ハ費用ノ性質ヲ異ニシ之ヲ監護費中ニ含有セシムヘキモノニ
アラスト認メ候得共御意見如何ニ候乎差懸リタル事件有之候
條至急何分ノ御回報相成度此段及問合候也

●行旅精神病者取扱方並其費用ニ
關スル件

明治三十九年十二月二十八日
衛東第四九一號

東京府知事照會 明治三十九年十二月十日

午一發第三〇七九號

行旅精神病死者ニ關シテハ總テ行旅病人及行旅死亡人取扱法
ニ依リ取扱來リ候處三十三年十一月大阪府知事ノ照會ニ對シ
精神病者監護法ニ依リ「市區町村長ノ監護セル精神病者死亡
ノ場合ニ於ケル埋葬ノ事ハ監護義務ノ終局ニシテ勿論公吏ノ

責任ヲ以テ從事スヘキモノニ有之從テ其費用ハ同法第十條第二項ニ依リ支辨スヘキモノナル旨御回答相成居候趣ニ有之候ヘ共右ハ精神病者カ行旅病人又ハ準行旅病人ニアラサル場合ノ御趣旨ニ候哉將又其行路病人準行路病人タル場合ト否トヲ論セス一ハ精神病者監護法ニ依ルノ御趣旨ニ有之候哉至急何分ノ御意見承知致度此段及照會候也

追テ右後段ノ御趣旨ニ候得ハ墓標費公告料ハ埋葬費中ハ包含シ遺留金品等ハ賣却ノ上該費用ニ充當シ扶養義務者ニアラサル其相續人ニ對シテモ辨償不足額ノ追徴手續ヲ爲シ得ヘキ義ト心得可然哉御意見ノ程併セテ承知致度此段申添候也

衛生局長回答 明治三十九年十二月二十八日 衛東第四九一號

十二月十日午一發第三〇七九號御照會ノ行旅精神病死者ニ關シテハ市區町村ノ監護セル場合ニ精神病者監護法ニ依ルヘク又其費用ノ支辨方法ハ同法第十條第二項ニ依リ行旅病人及行旅死亡人取取扱法ヲ準用スヘキ義ト御承知相成度此段及御回答候也

●精神病者護送費ニ關スル件

明治三十九年十二月二十八日 衛東第四七一號

東京市知事照會 明治三十九年十一月二十九日 午一發第三〇三六號

精神病者監護法第六條ニ依リ區町村長カ精神病者ヲ監護スル場合ニ於テ扶養義務ナキ監護義務者ヲ發見シ之カ引渡ヲ爲スコトニ關シ地方長官ノ認可ヲ得タル場合等ニ在リテハ右監護義務者ノ所在地迄精神病者ヲ護送スル爲メニ要スル費用ハ同法ニ依リ支辨シ得ヘキ筋ト心得可然哉何分ノ義至急御回答相成度此段及照會候也

衛生局長回答 明治三十九年十二月二十八日 衛東第四七一號
十一月二十九日午一發第三〇三六號御照會ノ區町村長カ監護セル精神病者ヲ扶養義務ナキ監護義務者ニ引渡ス場合ニ於テ其護送費ハ監護費ヨリ支辨可相成義ト御承知相成度此段及御回答候也

●癩患者タル精神病者ノ救護費支辨ニ關スル件

大正七年一月 衛熊第一三號
熊本縣知事照會 大正七年一月二十一日 衛收第一二四九二號

療養所ニ收容中ノ癩患者精神病ニ罹リ監置ノ必要アル者ハ精

【衛五】

精神病者監護法第六條ニ依リ所在市區町村長ニ於テ監置スヘキモノタルコトハ客年九月衛阪第二四八三號御通牒ノ次第モ有之候處此場合該市區町村長ヨリ療養所ニ委託ヲ爲スニ於テハ委託後ノ監護ニ要スル費用ハ從前ノ通り癩患者トシテ療養所費ヨリ支辨スヘキモノト認メ可然哉聊カ疑義相生シ候條一應

貴局ノ御意見承知致度此段及照會候也
衛生局長回答 大正七年一月 衛熊第一三號
本月二十一日衛收第一二四九二號ヲ以テ御照會相成候療養所ニ收容中ノ癩患者精神病ニ罹リ精神病者監護法ニ依リ監置ヲ要スル場合ニ於テ當該市區町村長ヨリ療養所ニ對シ之カ監置方委託アリタル場合ニ於ケル費用ノ件右ハ精神病者トシテノ監置ノ爲特ニ要スル費用ニ付テハ療養所費ヨリ支辨スルノ限ニ無之ト存候

●精神病者ノ所持スル金品ヲ繰替費ニ充用シ差支ナキヤ否ノ件

明治三十八年四月十四日 三七東甲第九〇三號

東京府知事照會 明治三十七年十月二十七日 甲第四一〇八號二
精神病者監護法第六條ニ依リ市區町村長ニ於テ監護シアル住居者二名並扶養義務者共不明ノ行旅精神病者ニシテ多用ノ金品ヲ所持スルモノアリ右金品ヲ以テ直ニ繰替費ニ充用シ差支無之哉或意思能力ノ全然欠缺セル者ニ付後見人ノ定リタル後ニアラサレハ徵收シ能ハサルモノナルヤ一應御意見承知致度此段及御照會候也
衛生局長回答 明治三十八年四月十四日 三七東甲第九〇三號
十月二十七日付一甲第四一〇八號二ヲ以テ精神病者ノ所持スル金品ヲ直ニ繰替費ニ充用シ差支ナキヤ否ノ件御照會ノ趣了承右ハ後段ノ通ト御承知相成度此段及御回答候也

●市區町村長ニ於テ監護スヘキ精神病者ノ所持スル金品等ノ保管ニ關スル件

明治四十二年一月六日 四一衛甲第八八號

(各地方長官宛 衛生局長通牒)

市區町村長ニ於テ監護スヘキ精神病者ノ所持スル金品等ノ保管ニ關シ別紙ノ通り東京府ト照覆致候條爲御參考及通牒候也
東京府知事照會 明治四十一年六月九日
申庶甲第一〇四四號ノ二
精神病者監護法ニ依リ市區町村長ニ於テ監護スヘキ精神病者ニ於テ金品等ヲ所持セル場合ハ富該市區町村長ニ於テ之ヲ保管スヘキ儀ナルヤ果シテ然ラハ保管ニ要スル費用ハ市區町村費ヲ以テ繰替支辨スヘキヤ又ハ金品等ノ保管ハ該監護法ノ範圍外ト心得可然哉御意見承知致度此段及照會候也
衛生局長回答 明治四十二年一月六日
四一衛甲第八八號
本年六月九日付申庶甲第一〇四四號ニ以テ市區町村長ニ於テ監護スヘキ精神病者ノ所持スル金品等ノ保管ニ關シ御照會ノ處右ハ病者ノ親族、後見人戶主等無キ場合又ハ之レ有ルモ金品等ノ保管ヲ爲スコト能ハサル事由アル場合ハ監護ニ關聯スル事務トシテ市區町村長ニ於テ之ヲ保管シ保管ニ要スル費用ハ市區町村費ヨリ繰替支辨シ可然義ト御承知相成度經何ノ上此段及回答候也

● 行旅病人、行旅死亡人等救護及取扱費用辨償ノ件

行旅病人行旅死亡人救護及取扱費用負擔方ニ關シテハ從來關係府縣知事ノ伺出ニ對シ通牒相成タル例モ有之候處今回生活ノ本據ト爲ス本人ノ意思明瞭ニシテ現ニ生活ノ本據ト爲シ居ル事實存在スルモノノ外ハ住所ナキモノ若ハ住所分明ナラヤルモノトシテ救護若ハ取扱ヲ爲シタル府縣ニ於テ其ノ救護及取扱ノ費用ヲ負擔スヘキコトニ決定相成候條爲念此段及通牒候也

明治三十六年九月

(各地方長官宛 地方局長通牒)

● 白骨死體取扱方ニ關スル費用ノ件

昭和五年三月六日
收社第八三號ノ二
白骨死體取扱方ニ關スル件通牒
(此令局社會部長ヨリ 各地方長官宛通牒)
標記ノ件ニ關シ三重縣知事ヨリ伺出ニ係ル別紙甲號ニ對シ乙號ノ通回答致置候條御了知相成度
(別紙)
(甲號)

社會第一、二六四號

昭和四年十二月十二日

三重縣知事

社會局長官宛

白骨死體取扱ニ關スル件

縣下名賀郡花垣村山林内ニ於テ死後推定ニケ年位經過全身腐爛シテ白骨ト化シ相貌更ニ不明ナルモ骨格ニヨリテ女性ナルヲ知り得ルモノヲ發見シタルモ右取扱費ハ行旅死亡人トシテ教育費ヨリ支出スヘキヤ將々警察費ヨリ支出スヘキヤ明治三十四年愛知縣伺出ニ對シ同三十四年八月地方局長

回答ノ次第モ有之疑義相生シ候ニ付何分ノ御指示相成度此段相候候也

(乙號)

收社第八三號

昭和五年三月六日

社會局社會部長

三重縣知事宛

白骨死體取扱方ニ關スル件回答

客年十二月十二日社會第一、二六四號ヲ以テ伺出ニ係ル標記ノ件右ハ前段御見込ノ通ト存候

●恩賜濟生會國庫補助救療費ニ關スル件

昭和五年三月十五日
衛乙發第八號

(內務省衛生局長ヨリ
廳府縣長官宛通牒)

恩賜濟生會國庫補助救療費ニ關スル件
財團濟生會ヨリ會計検査院ニ提出スヘキ收支計算
標記ノ件ニ關シ濟生會ヨリ會計検査院ニ提出スヘキ收支計算
書作製上必要有之趣ヲ以テ同會ヨリ申越候ニ付右補助金ニ依
ル救療費ニ關シ當該事項完結後一ヶ月以内ニ左記ニ依リ御報
告相成度

記

一、委託診療費(國庫補助金配當)

二、右診療成績

(備考) 委託診療成績ニ付テハ國庫補助配當額ニ依ルモノ
分別出來得レハ其ノ數又分別出來難キ場合ニハ本年度救
療費總額(國庫補助金配當額ヲ含ム)ト患者延總數ヨリ國
庫補助配當額ニ對スル割合ヲ以テ延人員ヲ算出セラレヌ

●恩賜濟生會救療金取扱方ニ關スル件

大正三年四月二日
會秋第一三號

(各地方長官宛
會計課長通牒)

別紙甲號照會ニ對シ乙號ノ通り回答致候
秋田縣知事照會 大正三年三月二十四日
會秋第一七二號
本月十二日付形第八號ヲ以テ御通牒ノ次第ニ依レハ濟生會救
療金ハ歲入歳出外現金出納官吏トシテ取扱フヘキ義ニ有之就

〔書五〕

テハ會計年度ノ如キモ政府ニ屬スル歳入歳出外現金ト同一ノ
取扱ヲ爲シ翌年三月三十一日ヲ以テ打切り計算スル義ト心得
可然哉又ハ救療金ニ限リ政府ノ會計年度ニ依ラス濟生會所定
ノ年度(七月一日ヨリ翌年六月三十日ニ至ル)ニ依リ仕拂執行
スヘキモノナルヲ果シテ然ラハ會計規則第九十一條ノ定期檢
査ノ如キモ自然執行ノ必要無之ヲ至急何分ノ御指示相成度此
段及照會候也
會計課長回答 大正三年四月二日
會秋第一三號
三月二十四日秋發會第一七二號ヲ以テ御照會相成候標記ノ件
ハ年度其他總テ取扱上他ノ歳入歳出外現金ト異ナルコト無之
候

●恩賜濟生會救療費増額要求方ニ付注意ノ件

大正四年一月二十一日
愛衛第六號

(各地方長官宛
內務次官通牒)

恩賜濟生會救療事業ノ遂行ハ尤モ普及ヲ要スルハ今更申ス迄
モ無之候得共其範圍配當ノ豫算内タラサルヘカラサルコト勿

論ニ有之然ルニ單ニ救療患者増加ノ故ヲ以テ年度央ニシテ往
々救療費増額申出ララル向有之候ハ共同會ニ於テ豫算ノ制限
有之特種ノ理由アリ特ニ承認ヲ經タル以外ニ於テハ到底増額
ノ詮議不相成次第ニ有之候條御承知置相成度爲念通牒候也

●恩賜濟生會救療費増額要求ニ關スル件

大正十三年九月二十四日
衛豫第七七二號

(各地方長官宛
衛生局長通牒)

恩賜濟生會救療費ニ關シテハ往々其年度内ニ於テ單ニ救療患
者増加等ノ理由ヲ以テ増額配付方申請ノ向モ有之候處同會ニ
於テモ豫算ノ制限有之特種ノ事情アリテ特ニ承認ヲ經タル以
外ニ於テハ増額配付難相成候條右了知ノ上經費ト事繼トノ調
節ヲ圖リ適當ニ措置セララル様致度本件ニ付テハ義ニ通牒ノ
次第モ有之候得共爲念重ネテ申進候也

●恩賜濟生會肺結核療養費補助

金ノ殘金ヲ一般救療費ニ流用ノ件

大正七年二月二十二日
石川縣知事照會 大正七年一月十九日
發濟第八號

恩賜濟生會肺結核患者救療ノ爲金澤病院ニ設置セラレタル特設病床十五床使用ニ應シ一日一病床ニ付三十錢宛補助金交付相成居候處本縣救療事業實施規定ハ入院料一日七十五錢ト相成候爲之ヲ大日本赤十字社支部肺結核依託患者入院料六十五錢ト權衡ヲ保タシメシカ爲特ニ之ト同額トシ特設病床使用數ニ對シ一日一床二十錢ノ割合ニテ交付致居候ニ付自然殘餘ヲ生スル義トナリ現ニ前年度ヨリ繰越サレタル七圓三十錢ノ剩餘金モ有之次第ニシテ此儘ニ推移スルトキハ逐年殘高相嵩ミ整理上ニモ差支候間之カ殘金ハ一般救療費ニ流用ノコトニ處理致度此段及照會候也
衛生局長回答 大正七年二月二十二日
衛生第一〇號
本件ニ關シ一月十九日發濟第八號ヲ以テ御照會ノ處右ハ御意見ノ通り御處理相成可候

恩賜濟生會救療費補助ニ關スル件

昭和四年二月六日
發濟第七三四號

(內務省衛生局長ヨリ
廳府縣長官宛通牒)

恩賜濟生會救療費補助ニ關スル件
恩賜濟生會救療事業ハ逐年其ノ成績ヲ舉ケ同事業ニ對スル社會ノ要望モ益熾烈ヲ加フルノ實情ニ有之候處同會本年度事業費ニ付テハ既ニ御了知ノ通一般金利ノ低下ニ依ル收入減少ニ伴ヒ從來ノ配當額ヲ維持スルコト不可能ト相成候爲經費補充積立金ヨリ拾萬餘圓ヲ特ニ支出シ以テ地方ニ於ケル事業ノ頓挫ヲ幸クモ防止シタル次第ニ有之隨テ明年度以降ニ於テハ場合ニ依リテハ多少ノ減額配當ヲ爲スノ不得已狀況ニ有之候ニ付テハ右御諒悉ノ上同業普及充實ノ極メテ緊切ナル現況ニ鑑ミ極力未納寄附金ノ整理ニ依ル濟生會地方救療基金ノ設定其ノ他適當ノ方法ニ依リ少クトモ事業ノ縮少ヲ避ケ更ニ進ンテ健全ナル發展ニ資シ以テ社會ノ要望ニ副ハルル様特ニ御配慮相煩度本件ニ付テハ既ニ再三同會ヨリ御依頼致置候等ニ候得

共右特ニ得貴意候也

傳染病豫防法第二十五條ノ規定ニ依ル庫補助ニ關スル件

大正十一年九月三十日
勅令第四百二十一號

朕傳染病豫防法第二十五條ノ規定ニ依ル國庫補助ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
傳染病豫防法第二十五條ノ規定ニ依ル國庫補助ハ左ノ區別ニ依リ支出精算額(事業ニ伴フ收入又ハ寄附金アルトキハ之ヲ控除シタル額)ニ對シ之ヲ爲ス

- 一 「コレラ」及「ハスト」ノ豫防ニ關シ特ニ要シタル費用 三分ノ一
- 二 其ノ他ノ諸費 六分ノ一

附則
本令ハ大正十一年法律第三十二號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
(大正十一年十月一日ヨリ施行)

〔附八〕

傳染病豫防法ニ依ル國庫補助支出ニ關スル件

明治三十四年十月
廣甲第二〇一號ノ内

(內務省總健司
會計課長通牒)

三十年三月法律第三十六號第二十五條ノ國庫補助ハ同法第二十二條及第二十四條ノ支出額ニ對シ各別ニ算出スル儀ト御承知有之度爲念此段及通牒候也

マラリア豫防撲滅費國庫補助ニ關スル件

昭和五年十月三日
內務省發濟第一五〇號

(內務省衛生局長ヨリ
各地方長官宛通牒)

「マラリア」豫防撲滅費補助ニ關スル件依命通牒
道府縣其ノ他公共團體ニ於テ行フ「マラリア」豫防撲滅ノ爲道府縣ノ支出セル經費ニ對スル國庫補助ハ本年度ニ於テモ大體從前ノ例ニ依リ配付ノ見込ニ有之候ニ付テハ右御了知ノ上本年度ニ於ケル豫防撲滅費豫算議決書寫並事業計畫書相添ヘ至急補助申請相成度尙事業計畫無之向ハ其ノ旨御回報相成度

●傳染病豫防補助及警察費連
帶支辨金算出區分ニ關スル件

明治三十六年十二月
會甲第一九六號

傳染病豫防費補助及警察費連帶支辨金ノ義從來傳染病豫防費補助ニアリテハ傳染病豫防費、市町村傳染病豫防費補助警察費連帶支辨金ニ在テハ警察費、警察廳會修繕費、警察廳會建築費ノ支出額ニ對シ各別算出ノコトニ相成居候處將來右區分ノ外尙連帶、市部郡部ノ各經濟ニ分別シタルモノニ對シ算出スヘキコトハ決定相成候條此段及通牒候也

●傳染病豫防費補助其他補給金
ハ場合ニ依リ計算書提出セシ
ムルノ件

明治三十四年十月
檢甲第二一號

(臨時檢疫局
長官通牒)

補助費中左記ノ事項ハ從來計算證明ヲ省キ置候處自今場合ニ依リ計算書ヲ提出セシメ又ハ實地檢査ヲ執行候義モ可有中旨會計檢査院ヨリ通知之有候ニ付當該團體ハ御通達相成度此段依命及通牒候也

- 左記
- 傳染病豫防費補助
- 警察費連帶支辨金
- 古社寺保存補助及補給費
- 地方費補給

〔審1〕

●行政執行法第三條ニ所謂療用
ノ費用ニ關スル件

昭和四年四月十七日
內務省廣警第二號

(內務省 警保局長ヨリ
廳府縣長官宛(東京府及廣島ヲ除ク) 通牒)

行政執行法第三條ニ所謂療用ノ費用ニ關スル件依命通牒

行政執行法第三條第一項ニ依リ傳染性疾患ニ罹リタル者ヲ病院ニ入院セシメタルトキ右病院ニ於テ賄、夜具貸付等ヲ請負制ト爲シ賄料及夜具損料等ニ付テハ患者直接ニ該請負人ニ支拂ヲ要スル場合本人又ハ媒介者ニシテ之カ支拂能力無之ニ於テハ同條第二項ニ依リ廳府縣警察費ヲ以テ支辨相成可然ト存候本件ニ關シ疑義ヲ挿マレ候向モ有之候趣ニ付御參考迄ニ右申進候

●傳染病豫防法施行規則改正ニ
關スル通牒ノ件

大正十一年九月十三日
衛發第五三二號

五九

(各地方長官宛
衛生局長通牒)

糞ニ傳染病豫防法中改正法律公布セラレタル結果現行ノ傳染病豫防法施行規則ヲ改正シ本年十月一日ヨリ施行セラルル豫定ニ有之候處就中北海道地方費又ハ府縣ヨリ市町村ニ對スル補助ニ關シテハ別記ノ通規定セラルル管ニ有之從テ現行ノ道府縣制定ニ係ル當該規程モ亦自然改正ヲ要スル次第ニ可有之相當御準備ノ都合モ可有之ト存シ豫メ及内報候

左記

地方長官ハ左ノ各號ニ從ヒ傳染病豫防法第二十四條ニ依リ北海道地方費又ハ府縣ヨリ市町村ニ交付スヘキ補助ニ關スル規定ヲ定ムヘシ

一傳染病豫防法第二十一條及第二十三條第二項ノ支出額ニ對シ北海道地方費又ハ府縣ヨリ市町村ニ補助スル歩合ハ「コレラ」及「ベスト」ノ豫防ニ關シ特ニ要シタル費用ニ付テハ支出精算額ノ三分ノ一以上、其ノ他ノ傳染病豫防費ニ付テハ支出精算額ノ六分ノ一以上トス但シ支出ニ伴フ收入及寄附金アルトキハ支出精算額ヨリ之ヲ控除シタル額ニ對シ其ノ歩合ヲ定ム

二傳染病豫防法第二十一條及第二十三條第二項ノ支出中特ニ

費途ヲ指定シ別段ノ補助歩合ヲ定メ指定シタル費途ニ限リ補助ヲ爲シ又ハ市町村ノ負擔ニ應シ別段ノ補助歩合ヲ定ムルコトヲ得但シ本號ニ依リ算出シタル補助ノ金額ヲシテ前號三分ノ一又ハ六分ノ一ヲ下ラシムルコトヲ得ス
三支出ニ伴レ收入及寄附金控除シタル一會計年度ノ支出精算額五十圓未滿ナルトキハ補助セサルコトヲ得
四補助ハ現品ヲ以テ之ヲ交付スルコトヲ得但シ金額ハ換算スヘシ
五市町村ヨリ申請セル支出精算額過當ト認ムルトキハ之ヲ査定シ其ノ査定額ニ對シ補助スルコトヲ得

●市町村傳染病豫防費補助ノ支出ニ伴フ收入ノ解釋ニ關スル件

明治三十一年十月
臨時検査局
長官通牒
縣甲第三九號

傳染病豫防法第二十四條ニ依リ府縣稅又ハ地方稅ヨリ市町村傳染病豫防費ニ對シ補助ヲ爲スニ方リ郡ノ補助金又ハ篤志者

ノ寄附金ハ控除スヘキヤ否ノ件ニ付往々問合來候向有之候處右ハ支出ニ伴フ收入ニアラサルヲ以テ控除スヘカラサル旨意ニ有之候條依命此段及通牒候也
追テ本文ニ概觸スル從前ノ指令通牒ハ總テ取消サレ候

●府縣ヨリ市町村費ニ對スル補助金年度區分ニ關スル件

明治三十一年九月
縣甲第九二號

茨城縣知事照會 明治三十一年七月十九日
第五五九號

傳染病豫防法第二十四條ニ依リ府縣ヨリ市町村ニ其費用ヲ補助スルハ客年七月御省令第十八號ニ依リ精算額ヲ以テ其歩合ヲ定ムル次第ナルモ市町村ノ精算整理期限ト府縣ノ精算整理期限トハ同一ナレハ事故ノ爲メ市町村ニ於テ其精算ノ整理期限迄遅延スルトキハ爲ニ府縣ニ於テモ其補助手續ヲ同期間順延セサルヲ得サ。等府縣ノ出納整理上其タ差支ヲ生スル次第ト存候條御省令ノ精算額云々ハ市町村豫防費ノ年度所屬ト府縣補助費ノ年度所屬ト必スシモ同一ニ出テサルモ精算額ヲ以テ補助スル御旨趣ニ戻ラサル限リハ差支無之モノト解釋シ右補助費支出ノ年度區分ハ年度末日迄ニ於ケル市町村ノ支出ヲ

以テ分界トシ例令ハ甲年度末日迄ニ於ケル市町村支出額ニ對シ府縣ハ甲年度豫算ヨリ補助スルハ勿論ナルモ四月以降ハ市町村甲年度ノ支出ニ對スルモノアリト雖モ府縣ハ乙年度分ヨリ補助スル事ニ致シ差支無之候乎差掛リ疑義ニ互リ候間至急御明示相成度此段及御照會候也
縣治局長回答 明治三十一年九月
縣甲第九二號ノ内
傳染病豫防法ニ依リ府縣ヨリ市町村ニ補助スル費用ノ年度區分方ニ付七月十九日第五五九號ヲ以テ御照會ノ趣了承右ハ市町村ニ於テ仕拂ヒタル費用ノ精算額ニ依リ補助ノ稟請ヲ爲シタルモノニシテ年度末日迄ニ其ノ稟請ヲ受ケタルモノハ其ノ年度ノ支出トシ年度後ニ至リ補助ノ稟請ヲ受ケタルモノハ其ノ年度ノ支出トシ可然ト存候候何ノ上此段及回答候也
追テ傳染病豫防費ノ場合ハ自然概算渡ヲ爲スハ不得止義ト存候ヘ共其ノ場合ニ於テハ補助豫定額ノ幾分ヲ控除スル等豫テ精算ニ對スル補助額ニ越ヘサル様御取計相成度念爲申添候也

●患家消毒藥品費ハ市町村費支辨ニ關スル件

明治四一年五月
阪甲第一七三號

(大阪府知事照會)

法律第三十六號ヲ以テ傳染病豫防法御改正相成其第五條ニ於テ消毒藥費等ハ患家負擔ニ規定相成候處抑々豫防消毒ノ事務ハ最敏速ヲ要スルハ論ヲ竣サル次第ニ候然ルニ之ヲシテ患家ノ支辨ニ屬セシメンカ傳染病發生ノ通報ニヨリ當該者患家ニ臨檢シ消毒ヲ執行セントスルモ藥品器具ノ設備ナク消毒人夫ニ於テモ其時々雇ヒ入レサルヘカラス好シ消毒藥ノ如キハ一時之レカ補足ヲナスモ獨リ消毒人夫ニ至リテハ普通人ノ應スルモノナク遠ク其人ヲ需メサルヘカラス夫レ斯クスルトキハ一人ノ患者ニ對シ十數時間ヲ要シ一日數十名ノ患者ヲ發生スル場合ニ於テハ其消毒已済ニ至ルハ數日ヲ費ササルヘカラス殊ニ各自雇入レル消毒人夫等ノ消毒ヲモ一々執行セサレハ之ヨリ病毒ノ傳播ヲナス虞アルヨリ一定ノ方法ヲ設ケ消毒人夫等ハ區役所若ハ警察署ニ常設シ何時ニテモ實用ニ應スルノ準備ヲナシ從來ヨリ豫防消毒ニ要スル費用ハ全然市ノ負擔ヲ以テ支辨シ來リ豫防消毒ノ實ヲ舉ケ來リタルニ該法律ノ改正ニ伴ヒ市費支辨ノ良習慣ヲ破リ因習ノ久ツキ今日ニ於テ俄カニ患家ノ負擔トセンカ市費支辨ノ消毒法スラ實行上困難ナリ況

ンヤ各自支辨ニ於テテ到底言フヘクシテ行ハレ難ク豫防上大ナル關係ヲ來シ候次第ニ候間市ニ於テ必要ヲ認メ市ノ任意ニヨルトキハ從來ノ如ク市費支辨致テ差支ヘ無之哉至急何分ノ御指示相成度此段相伺候也

臨時檢疫局長回答 明治四十一年五月
阪甲第一七三號

右患家消毒ノ義務ハ新法ニ依リ新タニ制定セラレタルモノニ無之從前ト雖トモ患家ニ於テ消毒スヘキモノナレトモ之ヲ施行セス又ハ遲滯スルノ狀況ニシテ患家ニ任スルトキハ不十分ナルヲ以テ市町村費ヲ以テ消毒ヲ行ヒ來リタルモノニ有之市町村內患家ノ狀況右ノ如クナルニ於テハ新法施行後ト雖トモ市町村費ヲ以テ消毒ヲ施行スヘキモノニ有之豫防法第二十六條ノ精神亦此ニ外ナラサル儀ト存候ニ付從來ノ慣行ニ依リ市費ヲ以テ患家ノ消毒ヲ施行セラレ差支無之ト存候候何ノ上此段及通牒候也

●傳染病豫防法第十八條ノ疑義
ニ關スル件

大正十一年十二月二十二日
衛防第二五三一號

ル場合ナルト否トニ拘ラス傳染病豫防法第十八條第三項ニ依リ地方長官ニ對シ請求シ得ルモノト存候條御了知相成度

●傳染病患者及病毒感染ノ疑アル患者ヲ傳染病院又ハ隔離所ニ收容シタル場合ニ於ケル費用ノ負擔方ニ關スル件

大正九年三月二十四日
衛防第二〇五四號

警察講習所長稟伺(大正八年十一月十七日)
發衛一七號
本所第二回刑事講習生三重縣警部某ハ本年十一月十五日入所同十六日囑託醫師診察ノ結果腸チフス病ナルコト發見同日東京市駒込病院ニ託シ十一月五日迄二十一日間入院全治シタル次第ニ候處右ハ傳染病豫防法第二十條第一項ニヨリ患者ヲ病院ニ送致スル送ノ通用ハ豫防法ヲ施行シタルモノトシテ官廳ニ於テ支辨スヘキモノト被認候ヘ共入院中ノ食費藥代ハ豫防法施行ト難認患者ニ於テ支辨セシムヘキ義ト被存候ヘ共聊カ疑義相生候ニ付稟伺候也
鐵道院經理局長照會 大正八年十一月二十八日
鐵經會第二三九八號

(各地方長官宛(東京ハ警視總監東京府
衛生局長通牒
知事連署 茨城縣ヲ除ク))

標記ノ件ニ關シ今回茨城縣知事ヨリ別記甲號伺出ニ對シ乙號ノ通回答候條爲念御參考及通牒候

別記

茨城縣知事照會 大正十一年十一月九日
衛防第四六二號

標記ノ件ニ關シ左記ノ通疑義相生シ候條至急何分ノ御指示相成度及伺候

一傳染病豫防法第十八條第三項ニ依リ船舶檢疫ヲ施行シタル際船籍所屬ノ町村ニ歸來シタル漁船中ニ於テ發見シタル場合其ノ患者ノ收容及隔離等ニ要シタル費用ハ同法第二十二條ニ依リ府縣ノ負擔ニ屬スルモノナリヤ尙同法第十八條第三項後段ノ「但シ之カ爲特ニ要シタル費用」トハ如何ナル費用ヲ指スモノナリヤ

衛生局長回答 大正十一年十二月二十二日
衛防第二五三一號

標記ノ件ニ關シ十一月九日衛防第四六二號ヲ以テ御照會相成候處傳染病豫防法第二十二條ニ所謂第十八條ノ諸費中ニハ市町村立ノ傳染病院又ハ隔離所ニ於テ傳染病患者又ハ病毒感染ノ疑アル者ヲ引取リタル以後之ニ關シ要シタル費用ヲ含マサル義ニ有之此ノ種ノ費用ハ船舶カ船籍所屬ノ町村ニ歸來シタ

當院又ハ當院指定官舎(居住ノ義務アルモノ)ニ於テ傳染病發
生シタル場合傳染病患者又ハ病毒感染ノ疑アルモノヲ市町村
立ノ傳染病院隔離所其他適當ノ場所ニ送致スルトキハ之カ爲
メニ生シタル送致費治療費及食費藥價其ノ他ノ諸費ハ何レニ
於テ負擔スヘキ筋ニ有之候哉傳染病豫防法適用上聊カ疑義有
之候條御意見承知致度

追テ貸付官舎(居住ノ義務ナキモノ)ニ付テハ全然一般民家
ノ場合ト同様ニ承知致シ可然哉
衛生局長回答 大正九年三月二十四日
衛省第二〇五四號
客年十一月十七日發衛第一一號(警察講習所長)客年十一月
二十八日鐵經會第二 三九八號(經理局長)ヲ以テ標記ノ件ニ
付御照會相成候處貴所(警察講習所)貴院(鐵道院)ニ於テ支辨
可相成モノト存候右ニ御了知相成度

●傳染病豫防法第二十一條ノ疑義ニ關スル件

大正十一年九月二十七日
衛防第一五七四號
岐阜縣知事照會 大正十一年九月二十日
衛發第一號

包含スルヤノ點ニシテ問題トナレルハ

縣下大垣市ニ於テ最近傳染病豫防法第二十一條市町村ノ費
用負擔ニ關シ左ノ如キ解釋ヲ爲セリ
傳染病豫防法第二十一條第一項第三號ニ據レハ
豫防救治ノ爲メ雇入レタル醫師其ノ他ノ人員竝ニ豫防上必
學ナル器具藥品其ノ他ノ物件ニ關スル諸費トアルヲ以テ
豫防救治ノ爲メ雇入レタル醫師其ノ他ノ人員ニ係ル費用ハ
勿論患者發生ヨリ轉歸ニ至ル迄市ノ負擔ナルモ後段ハ
豫防上必要ナル器具藥品其ノ他ノ物件ニ關スル諸費云々ト
アリテ豫防救治ト規定セサル爲メ患者治療ニ要シタル費用
ハ包含セサルニ依リ市ニ於テ負擔ス可キ義務ナク隨テ患者
ニ負擔セシムヘシト云フニ在リ
以上ニ對スル御意見承知致度此段再應及照會候也
衛生局長回答 大正十一年十月二十四日
衛防第一五七四號
本月十三日衛發第二八號ヲ以テ市町村立ノ傳染病院隔離病舎
ニ收容シタル患者ノ治療ニ要スル器具藥品其ノ他ノ諸費ノ負
擔區分ニ關スル疑義ニ付御照會相成候處右ハ法第二十一條第
四號ニ依リ市町村ニ於テ負擔ス可キモノト存候右ニ御了知相
成度
追テ傳染病豫防法施行規則第三十條ニ依リ食費藥價ヲ徵收

傳染病豫防法第二十一條第一項第三號中法文上ヨリ解スルト
キハ「豫防救治ノ爲メ」トアルハ患者ノ發生ヨリ轉歸スル迄豫
防並ニ治療スルヲ意味シ「豫防」上必要ナル器具云々トアルハ
患者發生ニ於ケル豫防事務ノミニ限ルカ如キモ一面ヨリ廣
義ニ解スルトキハ「豫防救治」ト「豫防」トハ敢テ區別ヲ要セサ
ルカ如シ何トナレハ患者ヲ一定ノ場所ニ隔離治療スルハ他ニ
傳播ヲ防止スル即チ豫防事務タルヲ免レサルモ特ニ「豫防救
治」ト「豫防」ト區別シアルハ前段解釋ヲ至當ト存セラレ候モ
聊カ疑義相生シ候ニ付御意見承知致度差掛リタル義有之至急
御回示相煩度此段及照會候也
衛生局長照會 大正十一年九月二十九日
衛防第一五七四號
標記ノ件ニ付九月二十日衛發第一號ヲ以テ御照會相成候處御
問合ノ要點明瞭ヲ缺クモノアル等旁寧ロ問題トナレル事實ニ
就キ疑義トナレル點ヲ御回示相成候様致度
岐阜縣知事回答 大正十一年十月十三日
衛發第二八號
客年二十九日付衛防第一五七四號ヲ以テ傳染病豫防法中疑義
ニ關スル件御回答ニ依レハ其要點不明瞭ノ趣ナルモノハ傳染
病豫防法第二十一條第一項第三號中ニハ市町村立ノ傳染病隔
離病舎ニ入院セシメタル患者治療上ニ要セシ器具藥品其ノ
他ノ物件ニ關スル諸費ハ包含スルヤ若シ包含セストセハ何レ

スルコトヲ得ル儀ニ候條爲念

●傳染病患者ニ要シタル費用負擔區分ニ關スル件

大正十一年八月十一日
衛防第一二六三號
岐阜縣知事照會 大正十一年八月八日
傳染病豫防法上ニ關シ左ノ疑義相生シ候ニ就テハ至急何分ノ
御意見拜承致度此段及照會候也
一 甲村住民ニシテ乙村ニ一時滞在中傳染病ニ罹リ乙村ノ隔離
病舎ニ收容治療セル場合ニ於テ其患者ニ對スル諸費ハ甲乙
兩村何レカ負擔義務ヲ有スルヤ
衛生局長回答 大正十一年八月十一日
衛防第一二六三號

●船舶内ニ乗客ヲ停留シタル場
合費用ノ支辨ニ關スル件

本月八日付ヲ以テ傳染病患者ヲ隔離病舎ニ收容治療セル傳染
病者ニ要シタル費用負擔區分ニ關スル件ニ付御照會相成候處
右ハ乙村ニ於テ負擔スヘキモノト存候右ニ御了相成度

大正五年九月六日
防疫課回管

大分縣警察部長照會大正五年九月五日
船舶検査ニ際シ船舶ニ停泊ヲ命シ身體検査ニ要スル期間其ノ
船舶内ニ乗客ヲ停留シタル場合ノ費用ニシテ本人ヨリ徴收シ
難キ分ハ縣費ヨリ支辨差支ナキヤ何分返乞フ
防疫課長回答大正五年九月六日
船舶内ニ乗客ヲ停留シタル場合ノ費用ハ凡テ縣費ヨリ支辨ス
ヘキモノト存ス

●汽車検査法施行ニ係ル費用及
碇泊セル外國艦船等ニ於ケル
費用ニ關スル件

明治二十七年三月
内甲第二九號
神奈川縣知事伺 明治二十七年二月十六日
發第二五四號
傳染病豫防費負擔方ノ儀今般勅令第十四號ヲ以テ制定相成候
處去ル二十三年七月御省第四五二號訓令汽車検査法施行ニ係
ル費用ハ右(勅令第十四號第三條)ニ準據シ地方稅ヲ以テ支辨

致可然哉又(外國人居留地内)並碇泊ノ外國艦船等ニ於ケル費
用ノ如キハ從前ノ通其館主若クハ船長等ト協議シ施行ノ上實
費ヲ賠償セシメ可然哉何分ノ御指示相成度此段相伺候也
明治二十七年二月
內務大臣指令 内甲第二九號
本年二月十六日付發第二五四號何傳染病豫防費支辨方ノ件ハ
伺之通

●船舶検査及汽車検査ヨリ發見
シタル軍人軍屬ニ係ル患者入
院料及賄費支辨方ニ關スル件

明治二十八年六月
內務省訓第四四四號
船舶検査及汽車検査ヨリ發見シタル軍人軍屬ニ係ル患者入院
料及停留者ノ賄費等ハ凱旋ノ軍人軍屬並ニ管内居住ノ下士以
下ニ係ルモノニ限り陸軍省ヨリ支辨ノ答ニ付右ノ費用ヲ要シ
タルトキハ陸軍省ヘ請求セラルヘシ
右訓令ス

●帝國軍艦ノ消毒ヲ爲シタルト

キ其ノ費用請求方ニ關スル件

明治三十四年七月
內務省訓第六四四號

海港検査所

帝國軍艦ニ於テ海港検査法規定以外ノ傳染病患者若ハ死者ア
リタル爲メ海軍省ノ依頼ニ應シ軍艦ノ消毒ヲ施行シタルトキ
ハ其ノ消毒費ハ左ノ標準ニ依リ請求セラルヘシ
右訓令ス

軍艦消毒費	拾圓
排水量百噸未満	貳拾圓
同上 上百噸以上千噸未満	參拾圓
同上 上千噸以上二千噸未満	參拾圓
同上 二千噸以上八千噸未満	拾圓ヲ加フ
乗組員ノ衣服手荷物所持品ノ消毒費	一人分ニ付 壹圓
准士官以上	同 拾錢
下士官	同 拾錢

●船舶ノ依頼ニ應シ鼠族ノ驅除
ヲ行ヒタル場合ニ於ケル費用

徵收額ノ件

明治四十年十一月
內務省訓第一〇一三號

其ノ縣(港務部)ニ於テ自今船舶ノ依頼ニ應シ鼠族ノ驅除ヲ施
行シタル費用ハ海港検査法施行規則第十六條ニ定メタル鼠族
驅除費ニ準シ其ノ額ヲ定メ徵收スヘシ
右訓令ス

●瓦斯發生船使用ニ關スル鼠族
驅除費徵收ノ件

明治四十年十一月十六日
神甲第一五〇號
明治四十年十月二十五日
申丁第六八號

神奈川縣知事上申
逕信省令船舶検査規程ニ依リ船舶ノ定期若ハ特別検査施行ノ
際又ハ外國船舶ノ購入若ハ借入ノ場合ニ於テ除鼠的清潔方法
施行ノ際本縣所屬瓦斯發生船ヲ使用シタルトキハ其費用ハ勿
論當該船舶ノ負擔ニ屬スルモノト被存候處同瓦斯船ヲ使用ス
ル場合ハ其ノ運轉及瓦斯検査ノ經驗ヲ重キタル當局官吏出盡
ノ上自ラ之ニ當ラシメサレハ其ノ實效ヲ收メ難ク且危險ナキ

ヲ保シ難キニ付當局官吏ニ於テ之ヲ實施セシメ右費用ハ海港
檢疫法施行規則第十六條ニ準據シ本縣ニ於テ定メラレタル費
額ヲ徵收シテ國庫ノ歲入ト致候様致度右ハ差掛リタル義ニ有
之候條至急何分ノ御指揮相成度此段上申候也

衛生局長通牒 明治四十年十一月十六日
神甲第一五〇號

右者本日訓第一〇一三號ヲ以テ訓令相成候通除鼠費用ノ徵收
ハ單ニ瓦斯船ヲ使用シタル場合ニ限ラス他ノ方法ヲ以テ除鼠
施行ノ際ト雖モ費用ヲ徵收スヘキコトニ決定セラレ候次第ニ
付御承知相成度尙瓦斯發生船ヲ使用セラルル場合ハ〔港務部〕
官吏ヲシテ實施セシメ危害豫防上嚴密注意方法御取計相成度
此段及通牒候也

●傳染病ニ感染シ又ハ死亡シタ

ル官吏ニ支給スヘキ手當金費

途ノ件

明治三十年十月
發第八二〇號

香川縣知事照會明治三十年十月
官吏ニシテ傳染病豫防救治ニ從事シ爲メニ感染シ又ハ死亡シ

タルモノニ給スル手當金ハ從前其官吏ノ身分所屬ノ經費ヨリ
支出シ來リ候處傳染病豫防法ニ依リ設ケタル檢疫委員ニ給與
ヲ要スル場合ハ其費用ハ同法第二十二條第一號ニ屬スルモノ
トシ身分ノ所屬ニ拘ラス總テ地方稅傳染病豫防費ヨリ支給シ
未タ檢疫委員タラサル官吏ニ給與ヲ要スル場合ハ從前ノ通身
分所屬ノ經費ヨリ支給可然推察セラレ候得共爲念貴意承知致
度此段及御問合候也

臨時檢疫局長通牒 明治三十年十月
發第八二〇號

右ハ見込之通ニテ可然ト存候經何ノ上此段及通牒候也

●檢疫委員タル巡查ニ給與スヘ

キ療治料其他費途ニ關スル件

明治三十四年十二月
警甲第三八號

香川縣知事照會
巡查ニ檢疫委員ヲ命シ其檢疫委員トシテ職務ノ爲メ赤痢病ニ
感染シタル場合ハ全治者ナレハ會テ別紙寫ノ通牒ノ次第モ
有之候ニ付其給助料ハ明治十九年訓令第二十三號ニ依リ傳染
病豫防費ヨリ支給シ其療治料及死亡給助ハ巡查看守給助例ニ

〔備〕

依リ警察費ヨリ支給シ來候處本年七月勅令第四百九十九號ヲ以
テ巡查看守療治料給助料及弔祭料給與令發布施行相成候ニ付
テハ其後ニ保ルモノハ假令檢疫委員ト雖モ該給與令ニ照シ通
常巡查ト一般總テ警察費ヨリ支給スヘキモノトスレハ單ニ給
助料ノミニ止ラス療治料及弔祭料等ヲモ傳染病豫防費ヨリ支
給セサレハ稍々當ヲ得サルヤノ感アリ聊カ疑義ヲ生シ日下差
掛リ支給ヲ要スヘキ廉有之候ニ付何分ノ御明示有之度此段及
御問合候也

警保局長回答 明治三十四年十二月
警甲第三八號

右ハ本年法律第三十八號及本年勅令第四百九十九號ヲ適用シ法
律第三十八號ニ依ル費用ハ警察費ヨリ勅令第四百九十九號ニ依
ル費用ハ傳染病豫防費ヨリ支給可然ト存シ經何ノ上此段及回
答候也

宮城縣知事照會 大正四年十二月十日
衛發第一〇七九號

檢疫委員タル巡查ニシテ傳染病豫防救治ニ從事中其ノ病毒ニ
感染療養全治シタル場合ハ從來明治十九年七月訓令第二十三
號ニ依リ療治料及救助料等支給シ居リ候處明治三十三年四月
勅令第一四二號ヲ以テ該訓令第一項中ヨリ「準官吏」ナル文字
ヲ削除セラレタル結果今日ニ於テハ巡查看守療治料給助料及

弔祭料給與令ニ依リ支給スヘキモノト思料セラレ候モ明治三
十三年四月秘甲第一〇九號內務省監獄警保兩局長依命通牒ノ
次第モ有之聊カ疑義ナシ候右ハ何レニ依リ支給スヘキヤ目
下差掛リタル件有之候條至急何分ノ御意見承知致度此段及照
會候也

追テ巡查看守療治料給助料及弔祭料給與令ニ依ル場合ニ於
テハ警察費ヨリ支給スヘキモノナルヤ又衛生費ヨリ支給ス
ヘキモノナルヤヲモ併テ御意見承知致度申添候

衛生局長回答 大正四年十二月二十三日
衛城第二五〇號

本件ニ關シ本月十日衛發第一〇七九號ヲ以テ御照會相成候
處右ハ明治三十四年十二月二十日警甲第三八號警保局長通牒
ノ通明治三十四年法律第三十八號及同年勅令第四百九十九號ヲ
適用シ法律第三十八號ニ依ル費用ハ警察費ヨリ勅令第四百十
九號ニ依ル費用ハ傳染病豫防費ヨリ支給スヘキモノト存候右
ニ付御了知相成度

●傳染病豫防救治從事者ニ給ス
ル特別手當費途ノ件

大正六年三月
發衛第四九號

(各地方長官宛
衛生局長會計課長通牒)

明治二十八年六月勅令第七十一號ニ依リ傳染病豫防救治從事者ニ給與スヘキ特別手當ハ勅令ノ但書ニ依リ地方費支辨ニ係ル者ニ給スル手當ハ地方費ノ負擔タルコト明ナルニモ不拘客年十二月本省ヨリ配布相成候金額ヲ以テ地方費支辨ニ係ル者ニモ給與セラレタル向有之哉ニ相聞ヘ候處果シテ事實ニ候ハハ不都合ニ付至急相當御措相成度爲念

●傳染病豫防費旅費支給ニ關スル件

大正十四年四月二十七日
衛防第五一三號

警視總監照會 大正十四年四月十六日
衛防第一二六號
傳染病豫防事務ノ爲メ若ハ傳染病豫防ニ關スル計劃ヲ樹ツル必要上國庫支辨ノ職員ヲシテ檢疫事務ノ爲メ出張ヲ命シタル場合ニ於テ其ノ旅費ヲ傳染病豫防費檢疫諸費ヨリ支出スルコトハ差支無之儀ト存候得共爲念貴局ノ御意見承知致度
衛生局長回答 大正十四年四月二十七日
衛防第五一三號

標記ノ件ニ關シ四月十六日附衛第一二六號ヲ以テ御照會相成候處右ハ配付豫算ノ範圍ニ於テ防疫醫、防疫監吏ノ出張旅費ニ支障ヲ來ササル場合ニシテ且ツ可成管内ノ出張ニ限り差支無之

●臨時防疫費旅費ヲ以テ管外出張其他ニ關スル件

大正十四年三月
衛甲第一八號

(各地方長官宛
衛生局長通牒)

傳染病豫防費臨時防疫費旅費ヲ以テ管外ヘ出張ヲ要スル場合ハ其必要ナル理由ヲ具シ稟議相成度又兼任臨時防疫書記手當ハ毎月ノ給與ヲ廢シ數月ヲ合シ稟議ノ上給與相成度依命此段及通牒候也

●上海駐在當省防疫事務囑託消毒所視察ニ要スル馬車借上賃支給ノ件

大正八年十一月二日
衛書第七二二號

スル件

大正十一年三月九日
衛書第六五號

(各地方長官宛
衛生局長通牒)

右ニ付甲號ノ通埼玉縣知事ヨリ照會有之候ニ付乙號ノ通回答致置候條御合意申進候也

埼玉縣知事照會 大正十一年三月七日
衛發第三四三號

當縣防疫醫並防疫監吏ヲシテ他府縣防疫事務ノ實況ヲ視察セシムルノ必要有之候ニ付豫テ御配付相成居ル豫算ノ範圍ニ於テ出張セシメ差支無之ヤ爲念御意見承知致度此段及御問合候也

衛生局長回答 大正十一年三月九日
衛書第六五號

右ニ付本月七日付衛發第三四三號ヲ以テ御問合ノ趣了承右ハ可成管外ニ出張セシメラレサル様御取計相成度若シ檢疫事務上必要止ヲ得ス出張セシムル場合ト雖モ特ニ嚴重ニ御取締相成候様致度

入倉防疫事務囑託申請

今何御許可相成候條黒木保經營ノ消毒所ハ當所ヨリ四哩餘ヲ離レタル遠隔ノ地ニ有之候間當業者ハ特ニ監督官ニ任意自動車ノ使用ヲ任シタレトモ監督官トシテ被監督者ノ供給ニ係ル自動車ヲ利用スルハ體面上及執務上面白カラサル義ニ付左記ノ通り自動車又ハ馬車ヲ常履致度候ニ付相當料金支拂方御採用願上度候

記

一自動車 一日一乃至二時間

一馬車 一ヶ月百七十五弗五十仙

一馬車 半日

一ヶ月六十弗

衛生局長通牒 大正八年十一月二日
衛發第七二二號

上海ヨリ内地ヘ輸入スヘキ襪類類消毒ノ監督ノ爲メ一ヶ月六十弗ノ豫定ヲ以テ馬車借上ノ儀詮議相成候ニ付テハ借入方可然御取計相成度尙其ノ費用ハ毎月本人ヨリ請求書ヲ徴シ且右請求書記載ノ事實ニ對スル貴職ノ證明書ヲ添付シ當局ヘ御送付相成度

●防疫醫防疫監吏管外出張ニ關

●港務部、臨時海港檢疫所職員
管外出張ニ關シ通牒之件

大正十一年四月十七日
衛發第二三一號

(關係各府縣長官宛
衛生局長、會計課長通牒)

港務部臨時海港檢疫所職員ニシテ海港檢疫費、檢疫諸費ヲ以テ管外出張ハ可成ナサシメサル様御取扱相度若シ檢疫上必要止ムヲ得ス出張セシムル場合ト雖モ嚴重ニ御取締相成候様致度爲念特ニ及通牒候也

●癩豫防ニ關スル件ニ依ル國庫補助ノ件

明治四十年八月五日
勅令第二百八十五號

朕明治四十年法律第十一號第八條ニ依ル國庫補助ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
明治四十年法律第十一號ニ依ル道府縣ノ支出精算額ニ對シ國庫ハ同法第八條ニ依リ左ノ區別ニ從ヒ補助ス但シ事業ニ伴フ收入又ハ寄附金等アルトキハ之ヲ控除シタル額ニ對シ補助

- 一 療養所創設費、擴張費及之ニ伴フ初度調辨費 二分ノ一
 - 二 被救護者又ハ其ノ扶養義務者ヨリ辨償ヲ得サル無籍者又ハ本籍不明者ノ救護費 二分ノ一
 - 三 其ノ他ノ諸費 六分ノ一
 - 四 私立代用療養所ノ創設費、擴張費及之ニ伴フ初度調辨費ニ對スル補助費 二分ノ一
 - 五 私立ノ代用療養所ニ對スル其ノ他ノ補助費 六分ノ一
- 附則
本令ハ明治四十年法律第十一號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(明治四十二年四月一日ヨリ施行)

●癩患者ノ救護ニ要スル費用ノ支費、追徴及負擔ニ關スル件

明治四十年七月十日
勅令第二百六十二號

朕癩患者ノ救護ニ要スル費用ノ支辨、追徴及負擔ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
第一條 明治四十年法律第十一號第三條ニ依リ癩患者及其ノ同伴者又ハ同居者ノ一時救護ニ要スル費用ハ必要アルトキ

ツルコトヲ得

第六條 本令ニ依リ道府縣ニ於テ繰替支辨シ又ハ負擔スヘキ費用ハ沖繩縣及東京府下伊豆七島、小笠原島ニ於テハ國庫ノ支辨トス

第七條 本令ニ於テ市町村又ハ市町村長ト稱スルハ市制町村制ヲ施行セサル地ノ之ニ準スヘキモノヲ包含ス

附則

本令ハ明治四十年法律第十一號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(明治四十二年四月一日ヨリ施行)

●癩豫防法ニヨリ被救護者又ハ其ノ扶養義務者ニ對シ辨償ヲ求ムヘキ救護費ノ件

明治四十年十月
衛甲第八九號

(各地方長官宛
衛生地方局長通牒)

癩豫防ニ關スル本年法律第十一號ニ依リ被救護者又ハ其ノ扶養義務者ニ對シ辨償ヲ求ムヘキ救護費ハ左ノ通御心得相成度尙一時救護ノ費用ハ行旅病人取扱ニ關スル規定ニ準シ豫メ其

ハ救護地道府縣ニ於テ之ヲ繰替支辨スヘシ

市町村長ニ於テ一時救護ヲ爲ス場合ニ要スル費用ハ必要アルトキハ市町村ニ於テ繰替支辨スヘシ

第二條 前條ニ依リ繰替支辨シタル費用ハ被救護者ニ、被救護者ヨリ辨償ヲ得サルトキハ其ノ扶養義務者ニ其ノ辨償ヲ求ムヘシ此ノ場合ニ於テ必要アルトキハ義務者ノ住所地方若ハ所在地ノ地方長官又ハ市町村長ニ其ノ徵收ヲ委託スルコトヲ得

辨償金ノ徵收ニ關シテハ府縣稅徵收ノ例ニ依ル

市町村ニ於テ繰替支辨シタル費用ニシテ前二項ニ依リ辨償ヲ得サルモノハ救護地道府縣ニ其ノ辨償ヲ求ムヘシ

第三條 一時救護ニ要シタル費用ニシテ被救護者又ハ其ノ扶養義務者ヨリ辨償ヲ得サルモノハ救護地道府縣ノ負擔トス

第四條 療養所ニ於ケル救護費ニシテ被救護者又ハ其ノ扶養義務者ヨリ辨償ヲ得サルモノハ被救護者ノ本籍地、本籍地ナキカ又ハ不明ナルトキハ救護地ノ屬スル療養所設置區域内道府縣ノ負擔トス療養所ニ送致スル費用ニ付亦同シ

第五條 癩患者死亡シタルトキハ救護ノ費用ハ其ノ遺留ノ金錢又ハ有價證券ヲ以テ之ニ充テ仍足ラサル場合ニ於テ扶養義務者ヨリ辨償ヲ得サルトキハ遺留物件ヲ賣却シテ之ニ充

ノ範圍並其ノ限度ヲ定メ御報告相成候様致度依命此段及通牒候也

- 一、療養所ニ於ケル食費藥價其ノ他治療用品費
- 二、送致費
- 三、一時救護ニ要シタル費用

●癩患者送致中ニ要シタル費用

ノ件

用明治四十二年十一月
衛東第五五二號

東京府知事照會 明治四十二年十一月
庶甲第五〇三五號二

各府縣ヨリ癩患者ヲ第一區府縣立全生病院へ送致シタル費用ノ内左記ノ費途ハ送致者手後ニ生シタルモノニ付警察官署ノ監護ニ屬シ居ルヲ以テ一時救護費トシテ所轄府縣ノ負擔ニ屬スヘキカ疑義相生シ候ニ付至急何分ノ御指揮有之度此段及御照會候也

一送致ニ際シ一時救護所若クハ患者居所ヨリ一定ノ箇所ニ集合セシムル爲ニ要シタル借家料諸器具料又ハ借入費、食料、人夫賃、看護ニ要シタル附添人費

二一時救護所又ハ患者居所ヨリ該院迄送致中ニ起リタル應急手當費、宿泊料其ノ他前項ノ諸費

衛生局長回答 明治四十二年十一月
衛東第五五二號

本月二十七日付四庶甲第五〇三五號ニテ御照會ニ係ル癩患者送致ニ要シタル費用ノ件ハ前段御意見ノ通り送致費ニ屬スヘキモノト被存候此段及回答候也

●癩患者送致費ノ繰替支辨ニ關スル件

ノ件

明治四十二年十一月
衛東第一五六號

熊本縣知事照會 明治四十二年十一月
衛第一一九六號

明治四十年法律第十一號第三條ニ依リ癩患者及其同伴者又ハ同居者ノ一時救護ニ要スル費用ニ付テハ同年勅令第二百六十二號第一條ニ繰替支辨ノ規定有之候へ共患者ヲ療養所ニ送致スル費用(護送者ノ旅費ヲ除ク)ニシテ被救護者又ハ扶養義務者ヨリ辨償ヲ得サルモノニ付テハ同勅令第四條ニ被救護者ノ本籍地又ハ救護地ノ屬スル療養所設置區域内道府縣ノ負擔トストノ規定アルノミニテ一時救護費ノ如ク繰替支辨ノ規定無

之候ニ付キ從來護送者ノ私金ヲ以テ一時繰替置後日當該護送所へ請求シ來リ候處當區域内ノ如キ交通不便ノ地ニ於テハ隨分多額ノ送致費ニ要スル場合モ有之實費支辨上困難不辦候就テハ囚人押送ノ例ニ倣ヒ發送ノ官公署經費中ヨリ一時繰替支辨ノ事ニ取計ラハンカト相考へ候得共適確ノ根據法無之疑義ヲ生シ候就テハ右送致費支辨方如何ニ取扱可然哉差掛リタル事件有之候條至急御意見御回報相成度此段及照會候也

衛生局長回答 明治四十二年十一月
衛東第一五六號

本月五日付衛第一一九六號癩患者送致費ニ關スル件御照會ノ趣了承右ハ患者ヲ收容スヘキ療養所ニ於テ其ノ經費中ヨリ必要ニ應シ概算ヲ以テ繰替支辨シ可然ト存候此段及回答候也

●癩患者汽車輸送賃金ニ關スル件

件

大正十年七月二十九日
衛防第一〇一五號

(各地方長官宛)
衛生局長通牒

癩患者汽車輸送賃金ニ關シテハ從來後拂ノ取扱ヲ爲シツツ有之候處今同鐵道省ニ於テ現拂ニ改正相成候爲メ之カ取扱上支

障有之旨申出ノ向モ有之候處右ハ原則トシテ現拂ニ改メタルモ警察官署ニ於テ現金支出上差支アリ其旨當該縣長へ申出タル時ハ縣長ヨリ所屬長へ經何ノ上隨時後拂取扱ヲ爲シ得ル趣ニ付右ニ御了知相成度及通牒候也

(長野縣、新潟縣ニハ本通牒ト同一ノ趣旨ノ回答アリタルヲ以テ略セリ)

●癩患者救護費負擔ノ件

明治四十二年九月
衛東第四〇九號

東京府知事照會 明治四十二年九月
丙庶第五七六號

癩預防ニ關スル法令中左記ノ件聊カ疑義相生シ候ニ付何分ノ御意見承知致度此段及御照會候也

一明治四十年七月勅令第二百六十二號第四條中療養所ニ於ケル救護費ニシテ被救護者又ハ其ノ扶養義務者ヨリ辨償ヲ得サルモノハ被救護者ノ本籍地トアル右本籍地ハ本籍地ノ屬スル府縣ヲ指シタルモノナルヤ將又本籍地ノ屬スル療養所設置區域内道府縣ヲ指シタルモノナルヤ

衛生局長回答 明治四十二年九月
衛東第四〇九號

癩患者救護費ニ關スル件本月十一日付丙庶發第五七六號御照會ノ趣了承右ハ後段御意見ノ通ト存候此段及同答候也

●本籍不明ノ癩患者收容中本籍及氏名詐稱ノ事實發見シタル場合ニ於ケル救護費負擔ニ關スル件

明治四十五年二月 衛甲第六二號 大阪府知事照會 明治四十五年二月 警第一二號

本籍不明ノ癩患者收容中本籍及氏名詐稱ノ事實發見シタル場合ニ於テ其ノ本籍地カ他ノ癩療養所ノ區域内ニ係ルトキハ之カ救護費負擔區分ニ關シテハ明治四十年勅令第二六二號第四條ニ依リ詐稱ノ事實發見以前即チ本籍不明ノ間ニ於ケル救護費ハ救護地ヲ管轄スル癩療養所(療養所設置區域内道府縣ヲ指稱ス以下同シ)ノ負擔トシ本籍判明後ノ救護費ハ本籍地ノ屬スル癩療養所ニ於テ負擔スヘキモノナルヲ將又既往ニ週及シテ全部本籍地ノ屬スル癩療養所ニ於テ負擔スヘキモノナルヲ若後段ノ如ク解釋スルトキハ現ニ過年度ニ週反シテ費用ヲ徵收セ

サルヘカラサル事實發生致居延テ之カ補助費ニモ影響スルコトト相成彼是取扱上疑義相生シ候ニ付至急何分ノ御回報相煩度此段及御問合候也
衛生局長回答 明治四十五年二月 衛甲第六二號
癩患者救護費ノ件ニ關シ本月九日付警第一二號御照會ノ趣了承右ハ前段御意見ノ通ニテ可然存候此段同答候也

●行政官廳ニ於テ救護中死亡シタル癩患者ノ死體取扱費用ニ關スル件

明治四十三年五月 衛第三八六五號

明治四十年十月十六日付衛甲第八九號ヲ以テ癩患者救護費ノ件ニ關シ及通牒候次第モ有之候處救護中死亡シタル場合ニ於ケル患者ノ死體取扱費用亦救護費ノ範圍ニ屬スルモノト御承知相成依命此段及通牒候也
追テ行旅病人トシテ救護ヲ受ケ死後續ト決定シタル場合若

ハ行例レ其ノ他漂著等癩ノ死體ヲ發見シタル場合等ニ於ケル行旅死亡人タルモノノ取扱費用ニ付テハ行旅死亡人ニ關スル規定ニ依ルヲ當然ノ筋ト存候爲念申添候也

●癩患者療養所其ノ他ノ諸費ニ關スル豫算調製等ニ關スル件

明治四十年八月 衛甲第六七號

(各地方長官宛 衛生地方局長通牒)

癩患者療養所其ノ他ノ諸費ニ關スル豫算調製等ニ就テハ左記ノ通御承知相成依命此段及通牒候也

一 癩患者療養所ニ關スル諸費ハ設立地地方長官ニ於テ其ノ額ヲ見積リ關係地方長官ニ協議シ決定ノ上ハ直ニ内務大臣ニ報告スルコト但シ協議調ハサルトキハ内務大臣ノ指揮ヲ請ヒ決定スルコト

一 前號ノ決定額ハ豫テ決定シタル分擔方法ニ依リ各道府縣ニ分割シ各道府縣(設立地府)ニ於テハ其ノ分擔額ヲ療養所費分擔金トシテ衛生及病院費ハ一時救護費及檢診費等ト共ニ編入シ療養所費總額ハ内課ヲ附シ參考ト

シテ道府縣會ニ提出スルコト

一 療養所費中ニ癩患者送致費ヲ見積ルコト
一 國庫補助金ハ各道府縣ヘ其ノ分擔金精算額ニ對シ交付スルコト但シ分擔金中ニ二分ノ一補助ノ分ト六分ノ一補助ノ分トヲ區別スルヲ要ス

●癩療養所費ニ關スル件

明治四十二年十月 衛甲第六八號

青森縣知事照會 明治四十二年九月 衛發第二一四號

癩療養所設置區域内道府縣ノ分擔金ハ癩療養所管理者ヨリ割戻シナキトキハ道府縣ニ於テ其儘精算額トナシ之ニ對シ勅令第二八五號ニヨリ國庫補助金ヲ算出受入ルルハ素ヨリ妨ケナカルヘク而シテ療養所費ノ精算殘餘金ハ其會計ニ於テ之ヲ次年度ニ繰越スコトニ可致考ニ候處別段差支ナキヤ御意見承知致度此段及照會候也

衛生地方局長回答 明治四十二年十月 衛甲第六八號
癩療養所費ニ關スル件本月十一日付衛發第二一四號御照會ノ趣了承國庫補助金ハ事業ニ伴フ收入又ハ寄附金及決算殘餘金

ヲ控除シタル實支出ヲ基礎トシ關係道縣ニ於テハ當初分擔
金支出ノ割合ニ應ジテ其標準ヲ算定スヘキモノト存候尙ホ
決算殘餘金ヲ翌年度ニ繰越スカ將又割戻チナスカハ關係道
縣ノ協議ニ依リ御決定相成度依命此段及回答候也

●癩療養所經費分擔方法ニ關スル件

昭和三年十一月二十二日
衛豫第九三五號

(內務省衛生局長ヨリ
廳府縣長官宛通牒)

癩療養所經費分擔方法ニ關スル件
標記之件ニ關シ香川縣知事トノ間ニ別紙寫ノ通照覆致候ニ付
爲念及通牒候也

(別紙)
三發衛第五八九號

昭和三年十月二十九日

內務省衛生局長宛

癩療養所經費分擔方法ニ關スル件

香川縣知事

癩療養所經費分擔方法ハ其ノ一半ヲ直接國稅額ニ其他ノ一
半ヲ人口ニ比例シ分擔率ト致居候處近來左記ノ如キ議論ヲ
ナスモノ漸次多キヲ以テ之カ實施ニ關シ一應御意旨承知致
度此段及伺候

記

一、收容患者數ノミヲ標準トナスコト

一、直接國稅額、人口、收容患者數ヲ比例シ標準トナスコ
ト

衛豫第九三五號

昭和三年十一月二十一日

內務省衛生局長

香川縣知事宛

癩療養所經費分擔方法ニ關スル件

昭和三年十月二十九日付三發衛第五八九號ヲ以テ御照會相
成候標記ノ件ハ從來直接國稅納額及人口割ヲ以テ分擔額ノ
決定標準トスルヲ公當ト存候條右ニ依リ御取扱相成候様致
度

●癩豫防國庫補助金額算定上ニ
關スル件

大正二年三月
衛第一六六一號

(各地方長官宛
衛生局長通牒)

癩豫防國庫補助金額算定上用品賣拂代及預金利子ハ事業ニ
伴フ收入ニアラサルモノトシ支出精算額ヨリ控除スルヲ要セ
タル儀ト御承知相成度爲念此段及通牒候也

明治四十年法律第十一號第五條ニ依リ被救護者又ハ其ノ扶養義務者ヨリ徵收スヘキ救護費中ニハ患者ヲ療養所ニ送致スルニ要シタル費用ヲモ包含スヘキハ四十年勅令第二百六十二號第四條ノ示ス處ニ有之候ヘ共護送官吏ノ旅費ハ右送致費中ニ包含セサル義ト御承知相成度依命此段及通牒候也

(參照)

静岡縣知事照會 明治三十八年八月一第七〇七八號ノ二

行政執行法第六條中第五條ノ費用中ニハ執行ノ責ニ當ル官吏若クハ吏員ノ旅費モ包含スヘキヤ差掛リ疑義ヲ生シ候間至急御回報ヲ煩度此段及照會候也

地方局長回答明治三十八年九月

客月二十五日一第七〇七八號ノ二ヲ以テ照會相成候行政執行法第六條ニ所謂第五條ノ費用中ニハ執行官吏若クハ吏員ノ旅費ハ包含セサルモノト存候此段及回答候也

●癩患者護送員ノ旅費區分方ノ件

明治四十二年八月 衛甲第五一號

(各地方長官宛 衛生局長通牒)

●癩患者救護費中ニ護送官吏ノ旅費ハ包含セサル件

明治四十二年六月 衛甲第四二號

本年六月衛甲第四二號ヲ以テ及通牒置候癩患者護送官吏及市町村吏員旅費支出方ニ關シ御問合ノ向有之候處該旅費ハ各其身分所屬ノ經費ヨリ支出相成ルヘキ義ト存候條御承知相成度依命此段及通牒候也

●「トラホーム」豫防費補助ニ關スル件

大正十一年五月十八日 衛豫第一七三號

警視總監照會 大正十一年四月二十八日 衛豫第四五號ノ二

「トラホーム」豫防法第六條ノ規定ニ依ル補助ハ市町村ニ於テスルモノニシテ區(東京市ニ於ケル區)ノ支出シタル費用ニ對シ補助シテハ補助スルコト不能ノ義トモ存候得共聊カ疑義有之候間至急何分ノ御指示相成度此段相候也

衛生局長回答 大正十一年五月十八日 衛豫第一七三號

大正十一年四月二十八日付甲衛第四五號ノ二ヲ以テ御照會相成候標記ノ件了承東京市ノ區ニ於テ支出シタル費用ニ就テハ

「トラホーム」豫防法第六條ニ依ル補助ヲ爲シ罷ハサル義ト御了知相成度

●「マラリヤ」豫防撲滅費ニ對スル國庫補助豫算繰越使用ニ關スル件

大正十四年八月二十一日 衛豫第四四五號

(各地方長官宛 衛生局長通牒)

寄生蟲驅除獎勵費及「マラリヤ」豫防撲滅費ニ對スル國庫補助ハ概算拂精算ノ結果過剩トナリタルモノハ之ヲ國庫ニ返納セズ次年度ニ繰越シ使用スルノ取扱ニ有之候處往々右取扱方ニ據ラス返納シタル例モ有之候ニ付テハ將來ニ於テハ如斯事ノ無之様致度爲念及通牒候也

●流行性腦炎研究ヲ要スル爲死體解剖ノ場合遺族ニ謝禮金支出ノ件

大正十三年九月八日
衛防第一九〇二號
鳥取縣知事照會電 大正十三年九月八日 報

流行性腦炎研究ノ爲死體解剖ヲ要スル場合遺族ニ對スル慰藉料ハ検査諸費ノ内ヨリ支出シ差支ナキヤ若シナシトセハ死體一ニ對スル金額回報アリタシ
衛生局長回答 大正十三年九月八日 衛防第一九〇二號
九月八日電報ヲ以テ流行性腦炎研究ノ爲死體解剖ヲ要スル場合遺族ニ對スル慰藉料支出方ノ儀ニ關シ御問合相成候處右ハ慰藉料ニ名義ヲ以テ支出スルハ穩當ニアラスト被存候ニ付テハ今回ニ限り特ニ配付スヘキ検査諸費ノ目中ニ雜費ノ節ヲ設ケラレ同節ヨリ「病原検査上有益ナル材料ヲ提供シタリ」トノ名義ノ下ニ謝禮金トシテ支出セラレ候様致度
追テ右謝禮金額ニ付テハ御考慮ノ上適當ニ御取計相成度

●娼妓ノ入院患者ニ對シ藥價手術料等ヲ負擔セシムルハ隱當ナラサルノ件

院セル娼妓ノ疾患ヲ治療スル爲直接必要アル藥價手術料ノ儀ニ關シテハ明治四十四年五月十一日衛防第四〇五四號ヲ以テ通牒ノ次第モ有之府縣費ヲ以テ支辨セラルル筈ニ候處尙娼妓賦金制度ノ由來モ有之當該患者入院中ノ食費、寢具、入院旅費モ事情ノ許ス限リ府縣費ヲ以テ之ヲ支辨シ又此等ノ疾患治療ニ必要ナル設備ノ如キモ右ノ趣旨ニ依リ一層完備ヲ期セラレ候様致度

●鍼灸按摩術營業者試験委員手當ハ縣費ヨリ支辨ノ件

明治四十四年十一月十一日
衛防第八七八一號
京都府知事照會 明治四十四年十月二十四日
衛防第八五二九號

按摩、鍼灸術營業ヲ爲サントスルモノニ對シテハ本年八月内務省令第十號並ニ第十一號ノ規定ニ依リ試験ヲ行フヘキコトト相成候處該試驗ハ當府官吏ノミニテハ執行シ得サル場合モ可有之旁々他ノ方面ニ於テ之カ試験委員ヲ求メンカ相當ノ報酬ヲ給セサルヘカラス之等試験ニ要スル一切ノ經費ハ試験手数料ヲ以テ充用スヘキ御主旨ニ可有之候得共其支出方ニ關

明治四十四年五月
衛防第四〇五四號

(各地方長官宛
衛生地方兩局長通牒)

明治四十三年勅令第三百十號第一條第一項ニ依リ設立シタル病院ニ行政執行法第三條第一項ノ患者ヲ收容シタル場合ニ於テ其ノ入院治療ニ要シタル費用ハ同條第二項ノ明文モ有之ヲ被收容者等ヨリ徵收スヘキ勿論ニ候處娼妓ノ入院患者ニ對シ其ノ藥價手術料ノ如キ直接治療ニ要シタル費用ヲ負擔セシムルカ如キハ然ルヘカラサル義ト存候條自然右ノ趣旨ニ概觸スル向モ有之候ハハ將來相當改訂方可然御取計相成度爲念依命此段及通牒候也

●娼妓病院入院患者費ハ府縣費ヨリ支辨ノ件

大正七年七月九日
衛防第一號

(各地方(東京ハ東京府知宛)
長官(奉警視總監通名)宛)
地方衛生兩局長通牒)

明治四十三年七月勅令第三百十號ニ依リ設立シタル病院ニ入

シ法律勅令又ハ慣例等ノ據ルヘキモノ無之從テ府縣費ヨリ支出センカ府縣制第二百二條ノ規定ニ概觸スルニアラスト思料セラレ候就テハ前記經費ノ支出方ハ別ニ發令可相成義ニ候哉
貴局ノ御意見承知致度此段及照會候也
衛生局長回答 明治四十四年十一月十一日
衛防第八七八一號
十月二十四日附衛防第八五二九號ヲ以テ鍼灸按摩術營業者試験委員手當支給方ニ關シ御照會ノ趣了承有費用ハ地方稅規則第三條衛生及病院費ニ屬スルヲ以テ必要ニ應シ縣費支辨相成候トモ府縣制第二百二條ノ規定ニ概觸不致義ト被存候條此段及回答候也

●家畜傳染病及畜牛結核病豫防ニ關スル費用負擔區分ノ件

大正十二年一月十九日
勅令第九號

沿章 昭和二年四月勅令第八〇號 改正
家畜傳染病及畜牛結核病豫防ニ關スル費用負擔區分ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
家畜傳染病豫防法第二十三條及畜牛結核病豫防法第十六條ノ

規定ニ依リ家畜傳染病及畜牛結核病豫防ニ關スル費用負擔區分左ノ通定

- 一 左ニ掲クル費用ハ國ノ負擔トス
- 二 市町村吏員タル家畜防疫委員以外ノ家畜防疫委員ノ旅費
- 三 傳染病豫防ノ爲臨時輸入レタル獸醫師ノ手當及旅費
- 四 評價人ノ手當及旅費
- 五 家畜傳染病豫防法第二十四條第一項、第二項及畜牛結核病豫防法第十三條第一項ノ規定ニ依ル手當金
- 六 牛疫免疫血清ノ購入及配送並「ツベルクリン」ノ製造及配送ニ要スル費用
- 七 第三第六號及第四ニ掲クルモノヲ除クノ外傳染病及結核病ノ豫防ニ要スル消毒藥品費
- 八 第三ニ掲クルモノヲ除クノ外家畜傳染病豫防法第二十二條ノ規定ニ依ル検査ノ檢疫及畜牛結核病豫防法第七條ノ規定ニ依ル検査ニ要スル費用
- 九 家畜傳染病豫防法第二十二條ノ三第一項ノ規定ニ依ル手當金ノ三分ノ一
- 一〇 左ニ掲クル費用ハ市町村ノ負擔トス
- 一一 警察官吏又ハ家畜防疫委員カ傳染病豫防ノ爲備入レタル備入ノ費用

ル備入ノ費用

- 一 屍體又ハ物品ヲ埋却シタル土地ノ標示費
- 二 左ニ掲クル費用ハ所有者、管理人、管理者又ハ保管者ノ負擔トス
- 三 家畜ノ牽付、送致、隔離、殺及家畜傳染病豫防法第三條第一項ノ處置ニ要スル費用
- 四 檢疫、検査、隔離又ハ繋留中ニ要スル飼養管理費
- 五 抑留シタル犬ヲ返還スル場合ニ於テ其ノ犬ノ抑留中ニ要シタル飼養管理費及返還ニ要スル費用
- 六 家畜傳染病豫防法第九條又ハ第十一條ノ規定ニ依リ指揮ヲ待タスシテ消毒ヲ行ヒタル場合ニ要シタル費用
- 七 屍體及物品ノ焼却又ハ埋却ニ要スル費用
- 八 家畜傳染病豫防法第八條第二項第五號ニ掲クル家畜ノ殺屍體ノ消毒ニ要スル費用
- 九 屠場、化製場、家畜市場及之ニ附屬スル物品ノ消毒ニ要スル費用ハ場主又ハ開設者ノ負擔トス
- 一〇 前各項ニ掲クルモノヲ除クノ外家畜傳染病又ハ畜牛結核病豫防ニ關スル費用ハ北海道地方費又ハ府縣ノ負擔トス

附則
本令ハ家畜傳染病豫防法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大正十二

年一月二十日
明治三十四年勅令第三百三十九號ハ之ヲ廢止ス

●畜牛結核病豫防費豫算各科目費用區分ニ關スル件

(別紙)

畜牛結核病豫防費目細件表

科	目	細	件
畜牛結核病豫防費			
内 國 旅 費		検査従事ノ警部、技手(獸醫)、巡查、雇獸醫、雇補助獸醫ノ旅費	
雜 給			
獸 醫 手 當		雇獸醫、雇補助獸醫ノ手當	
撲殺及棄却手當		評價人手當、病牛撲殺手當、物品棄却手當	
雜 費		消毒用藥品類	

明治三十六年七月
會甲第一四二號
過般畜牛結核病豫防費豫算訓令相成候處各科目費用區分ノ義ハ別紙細件表ノ通りニ候條右ニ依リ處辨セラルヘク候依命此段及通牒候也

●畜牛結核病検査員及評價人ノ旅費支ニ出關スル件

明治三十六年十一月
課第三二七號

畜牛結核病豫防費ニ付テハ本年七月十四日會甲第一四二號ヲ以テ及通牒置候儀モ有之候處尙検査員及評價人旅費ニ付取扱方區々ニ渉ル尙有之哉ノ趣ニ付左記區分方爲念更ニ及通牒候也

一 評價人旅費

評價人ハ近傍居住ノ者ニ命スレハ別段旅費ヲ要セサルヘシ若シ實際旅費支給ノ必要アルトキハ豫防費中内國旅費ヨリ支出スル事

一 検査員旅費

費目細件表以外ノ屬技手若クハ縣吏員等ニ検査員ヲ命シ検査メ爲メ出張セシムル場合ノ旅費ハ豫防費ヨリ支出スル事、検査員旅費ハ直接検査メ爲メ出張スル場合ニ限ルモノニシテ主務省ノ召喚、事務打合、縣廳ヘ召集講話メ爲メ出張等ノ分ハ豫防費ヨリ支出スルヲ得ス

●輸入畜牛結核病豫防ニ關スル

經費取扱手續

明治四十三年七月
農會發第四二一號

第一條 輸入畜牛結核病豫防費仕拂命令ハ其縣知事ニ委任シ仕拂豫算ハ農商務大臣之ヲ令達スヘシ

第二條 仕拂命令官ハ豫算額内ニ於テ必要ニ依リ目以下ノ金額ヲ流用スルコトヲ得

第三條 輸入獸醫ヲ旅行セシムル場合ノ旅費ハ明治三十年十月内務省令第二十七號警察官吏其他内國旅費概則ニ據ルヘシ

第四條 仕拂命令官ハ左記ノ書類ヲ調製シ期日内ニ差出スヘシ

一 豫備金支出計算書 翌年度七月三十一日限り

一 決算報告書 同 九月三十日限り

第五條 本費ニ屬スル物品ノ出納ハ其廳所管ノ物品「同一」取扱フヘシ

●屠畜取締ノ費用負擔及検査手数料ニ關スル件

明治三十九年六月二十七日
勅令第百七十二號

沿章 大正二年六月勅令第二四六號 改正

朕屠畜取締ノ費用負擔及検査手数料ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 屠畜取締ニ關スル費用ハ北海道地方費又ハ府縣ノ負擔トス但シ東京府下伊豆七島、小笠原島ニ於テハ國庫ノ負擔トス

第二條 道廳府縣ハ検査手数料ヲ徵收スルコトヲ得

第三條 前條ニ依リ徵收シタル手数料ハ北海道地方費又ハ府縣ノ收入トス但シ東京府下伊豆七島、小笠原島ニ於テハ國庫ノ收入トス

第四條 (削除)

附則

本令ハ明治三十九年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二章 租稅

●賣藥稅法廢止ノ件

大正十五年三月二十七日
法律第十九號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル賣藥稅法廢止法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

賣藥稅法ハ之ヲ廢止ス

附則

本法ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前印紙ヲ貼用スヘカリシ賣藥若ハ賣藥類似品又ハ外國輸出ノ爲ニ賣藥稅ヲ免除シタル賣藥若ハ賣藥類似品ニ付テハ仍舊法ニ依ル

賣藥營業者又ハ賣藥類似品營業者本法施行後其ノ所持ニ係ル賣藥又ハ賣藥類似品中性能ヲ失シタルモノヲ廢棄セムトスル

トキハ命令ノ定ムル所ニ依リ既貼印紙稅額ノ五割ニ相當スル金額ノ交付ヲ政府ニ請求スルコトヲ得但シ本法施行後二年ヲ

過キタルトキハ此ノ限ニ在ラス

●賣藥稅法施行規則廢止ノ件

大正十五年三月三十一日
勅令第三十五號

朕賣藥稅法施行規則廢止ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
賣藥稅法施行規則ハ之ヲ廢止ス

附則

本令ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ本令施行前印
紙ヲ貼用スヘカリシ賣藥若ハ賣藥類似品又ハ外國輸出ノ爲ニ
賣藥稅ヲ免除シタル賣藥若ハ賣藥類似品ニ付テハ仍舊令ニ依
ル

- 大正十五年法律第十九號附則第三項ノ規定ニ依リ交付金ノ交
付ヲ請求セムトスル者ハ其ノ賣藥又ハ賣藥類似品ノ品名、數
量、定價及交付ヲ受クヘキ金額ヲ記載シタル申請書ニ其ノ賣
藥又ハ賣藥類似品ヲ添ヘ所轄稅務署ニ提出スヘシ
- 左ノ場合ニ於テハ交付金ヲ交付セス
 - 一 交付ヲ受クヘキ金額カ一口五圓未滿ナルトキ
 - 二 賣藥若ハ賣藥類似品ノ裝置又ハ印紙ノ貼用力不完全ナ
ルトキ
 - 三 既貼印紙カ汚染又ハ毀傷セラレタルモノナルトキ

所轄稅務署ニ於テ交付金ノ交付ヲ爲スヘキモノト認メタルト
キハ既貼印紙ヲ切斷シ又ハ之ニ消印シタル後其ノ賣藥又ハ賣
藥類似品ヲ還付シ交付金交付ノ手續ヲ爲スヘシ

●賣藥稅法

明治三十八年五月六日
法得第七十一號

沿董 明治四三年三月法律第八號、四四年三月第四二號、
大正一二年三月第一一號 改正

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル賣藥稅法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セ
シム

賣藥稅法

- 第一條 本法ニ於テ賣藥營業者ト稱スルハ賣藥法ニ依ル賣藥
營業者ヲ謂フ
- 第二條 賣藥ニハ定價一割ノ賣藥稅ヲ課ス
定價一錢未滿ナルトキ又ハ一錢未滿ノ端數アルトキハ一錢
未滿ノ金額ハ總テ之ヲ一錢トシテ賣藥稅ヲ計算ス
- 第三條 賣藥營業者ハ賣藥ノ容器又ハ包紙等ニ定價ヲ附記シ
其ノ賣藥稅ニ相當スル印紙ヲ貼用シ印紙面ヨリ他所ニカケ

〔舊〕

消印スヘシ

第四條 賣藥營業者ハ賣藥ノ容器又ハ包紙等ニ貼用印紙ヲ破
毀スルニ非サレハ賣藥ヲ取出スコトヲ得サルノ裝置ヲ爲ス
ヘシ

第五條 賣藥營業者定價ヲ增加シテ賣藥ヲ販賣セムトスルト
キハ其ノ定價ヲ改記シ其ノ賣藥稅ニ相當スル印紙ヲ増貼ス
ヘシ

第六條 賣藥營業者、請賣者及行商者ハ帳簿ヲ調製シ賣藥ノ
製造出入ニ關スル事實ヲ詳細明瞭ニ記載スヘシ

第七條 賣藥營業者ハ相當印紙ノ貼用ナキ賣藥、第三條ニ依
リ貼用印紙ニ消印ヲ爲ササル賣藥又ハ第四條ノ裝置ヲ爲サ
サル賣藥ヲ販賣スルコトヲ得ス

賣藥請賣者又ハ行商者ハ相當印紙ノ貼用ナキ賣藥、第三條
ニ依リ貼用印紙ニ消印ヲ爲ササル賣藥又ハ第四條ノ裝置ヲ
爲ササル賣藥ヲ所持スルコトヲ得ス

第八條 收稅官吏ハ前條ニ違反シタル賣藥ヲ發見スルトキハ
處罰セラレタルト否トヲ問ハス賣藥營業者ノ費用ヲ以テ印
紙ヲ貼用シ、貼用印紙ニ消印シ又ハ相當ノ裝置ヲ爲スコト
ヲ得

前項ノ費用徵收ニハ國稅徵收法ノ規定ヲ準用ス

第八類 財務 第二章 租稅

〔舊〕

第九條 收稅官吏ハ賣藥ノ所在ニ就キ検査ヲ爲シ又ハ賣藥營
業者、請賣者及行商者ノ帳簿書類ヲ檢閲スルコトヲ得

第十條 外國ニ輸出スル賣藥ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ
賣藥稅ヲ免除ス

前項ノ賣藥ニ付テハ第二條乃至第五條、第七條、第八條及
第十一條乃至第十三條ヲ適用セス

第十一條 賣藥營業者ニシテ所持ノ賣藥中性效ヲ失シタルモ
ノヲ廢棄セムトスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ既貼印紙
ト新印紙トノ交換ヲ請求スルコトヲ得

第十二條 賣藥營業者相當印紙ノ貼用ナキ賣藥ヲ販賣シ又ハ
附記定價以上ニ賣藥ヲ販賣シタルトキハ脫稅高二十倍ノ罰
金又ハ科料ニ處ス但シ脫稅高二十倍ノ金額五圓ニ達セサル
トキハ五圓ノ科料ニ處ス

賣藥營業者定價ヲ附記セサル賣藥ヲ販賣シタルトキハ二圓
以上三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス因リテ脫稅ヲ爲シタ
ル者ハ前項ニ依リテ處斷ス

第十三條 賣藥營業者第三條ニ依リ貼用印紙ニ消印ヲ爲ササ
ル賣藥又ハ第四條ノ裝置ヲ爲ササル賣藥ヲ販賣シタルトキ
ハ三圓以上五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

賣藥請賣者又ハ行商者相當印紙ノ貼用ナキ賣藥ヲ所持又ハ

販賣シタルトキハ五圓以上百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處シ
第三條ニ依リ貼用印紙ニ消印ヲ爲ササル賣藥又ハ第四條ノ
裝置ヲ爲ササル賣藥ヲ所持又ハ販賣シタルトキハ三圓以上
五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十四條 賣藥營業者、請賣者又ハ行商者賣藥ノ製造出入ニ
關スル帳簿書類ヲ隱匿シタルトキハ五圓以上百圓以下ノ罰
金又ハ科料ニ處シ帳簿ヲ調製セス又ハ其ノ記載ヲ怠リ若ハ
不正ノ記載ヲ爲シタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金又
ハ科料ニ處ス

第十五條

收稅官吏ノ尋問ニ對シ虚偽ノ答辯ヲ爲シ又ハ收稅
官吏ノ職務執行ヲ拒ミ、之ヲ忌避シ若ハ之ニ支障ヲ加ヘタ
ル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス其ノ刑法
ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第十六條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但
書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八
條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用キス

第十七條 賣藥營業者、請賣者及行商者カ未成年者又ハ禁治
産者ナルトキハ本法ノ規定ニ依リ賣藥營業者、請賣者及行
商者ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ
營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ

此ノ限ニ在ラス
第十八條 賣藥營業者、請賣者及行商者ハ其ノ代理人、店主、
家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ
本法ノ規定ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故
ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第十九條 賣藥類似品及其ノ營業者、請賣者及行商者ニ關シ
テハ本法ノ規定ヲ準用ス
賣藥類似品ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

賣藥印紙稅規則ハ之ヲ廢止ス

本法施行ノ際販賣ノ爲賣藥類似品ヲ所持スル者ハ本法施行ノ
日ヨリ三十日以内ニ本法第三條及第四條ニ依リ印紙ヲ貼用ス
ヘシ

附則(大正十二年三月法律第十一號)

本法ハ大正十三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前賦課スヘキ賣藥營業稅ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

賣藥稅法施行規則

明治三十八年五月六日
勅令第五百五十五號

【備】

沿革 明治四三年二月勅令第四四五號、大正一二年一
二月第五二二號 改正

賣藥稅法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

賣藥稅法施行規則

第一條 賣藥營業者ハ賣藥ノ容器又ハ包紙等ニ其ノ住所、氏
名又ハ名稱ヲ記載スヘシ

第二條 賣藥營業者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ
一 製造又ハ輸入シタル賣藥ノ品名、數量、定價及其ノ製
造又ハ輸入ノ日

二 他ニ引渡シタル賣藥ノ品名、數量、價額、引渡ノ日及
其ノ引渡先

三 買入レタル印紙ノ數量、金額及其ノ買入先

四 貼用シタル印紙ノ數量、金額

小賣ノ場合ニ於テハ前項第二號引渡先ノ記載ヲ要セス

第三條 賣藥請賣者及行商者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記
載スヘシ

一 引取リタル賣藥ノ品名、數量、價額、引取ノ日及引取
先

二 他ニ引渡シタル賣藥ノ品名、數量、價格及引渡ノ日

第四條 收稅官吏賣藥稅法第八條第一項ニ依ル處分ヲ爲シタ

【備】

ルトキハ調書ヲ作り違反ニ係ル賣藥ヲ所持スル者ト共ニ署
名捺印スヘシ

前項ノ場合ニ於テ違反ニ係ル賣藥ヲ所持スル者署名捺印ヲ
ナスコト能ハサルトキ又ハ之ヲ拒ミタルトキハ收稅官吏ハ
其ノ旨ヲ調書ニ記載スヘシ

第五條 賣藥ヲ外國ニ輸出シ賣藥稅ノ免除ヲ得ムトスル者ハ
收稅官吏ノ承認ヲ受ケ他ノ賣藥ト區別シテ之ヲ藏置スヘシ

前項ノ賣藥ヲ運搬セムトスルトキハ運搬線路及運搬先又ハ
輸出港ヲ定メ收稅官吏ノ承認ヲ受ケヘシ

前二項ノ場合ニ於テ收稅官吏必要ト認ムルトキハ其ノ賣藥
ニ封印ヲ施シ又ハ之ヲ護送スルコトアルヘシ

第六條 前條第一項ノ承認ヲ受ケタル後六箇月ヲ過キ賣藥ヲ
輸出セサルトキハ承認ハ其ノ效力ヲ失フ

前條第一項ノ承認カ效力ヲ失ヒタルトキ又ハ輸出ノ目的ヲ
廢止シタルトキハ賣藥營業者又ハ輸出者ニ於テ其ノ賣藥ニ
印紙ヲ貼用シ收稅官吏ノ承認ヲ受ケヘシ但シ收稅官吏ノ承
認ヲ受ケ賣藥ヲ廢棄スルトキハ印紙ノ貼用ヲ要セス

前項輸出者ニ關シテハ賣藥營業者ノ例ニ依ル

第六條ノ二 第五條ノ藏置又ハ運搬中賣藥ノ裝置ノ變更ヲ要
スルニ至リタルトキハ收稅官吏ノ承認ヲ受ケ製造場ヘ戻入

第八類 財務 第二章 租稅

スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第五條第三項ノ規定ヲ準用ス
前項ノ賣藥ヲ輸出セムトスルトキハ更ニ第五條ノ承認ヲ受クヘシ

第七條 賣藥稅法第十一條ニ依リ印紙ノ交換ヲ請求セムトスル者ハ賣藥ノ品名、數量、定價及交付ヲ受クヘキ印紙各種枚數ヲ記載シタル書面ニ其ノ賣藥ヲ添ヘ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第八條 左ノ場合ニ於テ所轄稅務署ハ印紙ノ交換ヲ爲サス

- 一 既貼印紙ノ金額一口十圓未満ナルトキ
- 二 賣藥ノ裝置又ハ印紙ノ貼用不完全ナルトキ
- 三 既貼印紙汚染又ハ毀傷ニ係ルトキ

第九條 印紙ノ交換ハ左ノ割合ニ依ル

- 一 既貼印紙 二十圓未満一圓ニ付 新印紙 八十錢
- 二 既貼印紙 二十圓以上一圓ニ付 新印紙 八十五錢

第十條 所轄稅務署ニ於テ印紙ノ交換ヲ爲スヘキモノト認メタルトキハ既貼ノ印紙ニ消印シ又ハ之ヲ切斷シタル後其ノ藥賣ヲ下戻シ同時ニ新印紙ヲ交付スヘシ

第十一條 藥品ヲ用ヒ又ハ之ヲ配伍シテ製造シタル物品ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル效驗アリトシテ發賣スルモノハ賣藥稅法第十九條ニ依ル賣藥類似品トス但シ醫藥又ハ單ニ滋養若ハ消毒ノ效驗アリトスルモノ及ヒ大藏大臣ノ特ニ認許シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

- 一 疾病ヲ豫防スルコト
- 二 治病ニ效驗アリト謂フニ非サルモ心身ヲ爽快ニシ音聲ヲ改善シ又ハ精氣ヲ増進スルコト
- 三 皮膚毛髮ノ色澤組織ヲ變更シ又ハ身體ノ惡臭ヲ去ルコト
- 四 疥癬其ノ他皮膚ノ障害ヲ除去スルコト

第十二條 前條但書ニ依リ大藏大臣ノ認可ヲ得ムトスル者ハ其ノ物品ノ製造方法及效能ヲ記載シ見本ヲ添ヘ所轄稅務署ヲ經由シテ大藏大臣ニ申請スヘシ

第十三條 收稅官吏ハ賣藥營業者、請賣者及行商者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

第十四條 本令中賣藥營業者、請賣者及行商者ニ關スル規定ハ之ヲ賣藥類似品營業者ニ準用ス

附則 本令ハ賣藥稅法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔舊〕

遂ケ賣藥ト認メ得ラルルモノハ賣藥ノ取扱ヲ爲シ候様致度此段及通牒候也

追テ主稅局長ヘハ別紙ノ通り回答條條爲念申添候也
〔別紙〕 本月九日付往第四九四六號ヲ以テ賣藥稅法發布ニ關シ賣藥ト認メ得ヘキモノハ賣藥トシテ取扱候様地方長官ヘ通牒方御照會之趣了承則テ別紙ノ通り及通牒條條御了知相成度尙稅務官署ニ於テ賣藥トシテ課稅セムトスル場合ニハ地方長官ヘ協議ノ上其決定ニ基キ取扱候様致度爲念此段回答旁々賣申進候也(衛生局長ヨリ主稅局長宛)

〔別紙〕 今般賣藥稅法發布相成賣藥類似品ニ課稅スルコトト相成候處別紙記載ノモノニ付テハ其記載ノ如ク課稅、不課稅ヲ區別シ其他ノモノニ付テハ現品ノ性質及效用ヲ調査シ施行規則ノ規定ヲ案シ御判定相成度尤モ判定ノ困難ナルモノニ付テハ性分、用法、用量及效能ヲ記載シタル書面ニ現品ヲ添ヘ御伺出相成度此段及通牒候也(主稅局長ヨリ稅務監督局長宛)

第一 從來賣藥ト認メサリシモ賣藥ト認メ課稅スヘキモノ此項ニ掲クルモノニシテ治病ノ效能アリト稱シ公衆ヲシテ直チニ使用セシムルノ目的ヲ以テ發賣セラルルモノハ

●賣藥ト認メ課稅スヘキモノト否ラサルモノトニ關スル品目ノ件

明治三十八年五月 衛生局長 衛發第一二〇號 長通牒

今般賣藥稅法發布ニ付別紙ノ通り主稅局長ヨリ通牒ノ趣ヲ以テ照會ノ次第モ有之候ニ就テハ別紙第一ニ掲クル品目ハ其名稱ヨリスルトキハ概テ賣藥ノ如ク認メラレ候處尙篤ト調査ヲ

第八類 財務 第二章 租稅

第八類 財務 第二章 租稅

賣薬トシテ課税	沃度 仿誤散	沃度 仿誤膏	沃度 ヨシウム膏	ヨジウム膏	鹽剝合嗽劑	防寒軟膏	ホルスト眼水	トルコ大黃丸	硫酸規尼涅丸	痲病ノ妙藥	揚曹丸	骨汗波拔癩撒謨丸	サツク入バルザム	ザロール丸	齒痛丁幾	サルチル水	天然鑽水	灸代膏	解毒懷中膏
沃度 液	盤石膏	バジリ膏	白山熊膽	白色コロダイン	キニーネ丸	規那丹丸	重炭酸鐵舍利別	コム絆創膏	カスカラ錠	靈鑽泉	鐵鑽泉	鬼アライタイドク除	頭痛膏	赤萬能即治膏	冷鑽泉	吸出シ	打身貼用紙	萬中膏	

胎毒下ゲ 萬能膏 萬能燒

複方次亞鐵散舍利別

第二 醫薬ト認メ課税セサルモノ

此項ニ掲ケタルモノノ多クハ内外薬局方ニ依ルモノ又ハ新薬ト稱スヘキモノナルヲ以テ效能裝置等ニヨリ公衆ヲシテ直ニ使用セシムルノ目的判明ナルモノノ外ハ賣薬又ハ賣薬類似品トシテ課税スヘカラサルモノトス

沃度 仿誤膏	黄蠟軟膏	石炭酸軟膏	沃土 仿誤	沃土 丁幾	沃度鐵舍利別	蘆薈鐵丸	蘆薈刺刺巴丸	薄荷水	發泡膏	バルサム	グリセリン	カル、ス泉鹽
巴ザリ軟膏	吐根海葱丸	結列阿曹篤丸	複方吉納散	複方刺刺巴散	複方吐根散	コロダイン	ザルチルサン軟膏	蕃菽丁幾	バルザン油			

薄荷油	芳香散	吐根錠	ドーフル散	橙皮舍利別	薄荷	硫黃花	龍膽丁幾	流動オボデルドツク	亞鉛華軟膏	複方大黃丸	複方樟腦擦劑	骨汗波溜撒謨	瑞篤寧錠	サフラーン	酸化亞鉛末	サルチル酸	弱發泡膏	重炭酸曹達	セメンシーナ
カンフル丁幾	羯答里斯丁幾	過格魯兒鐵液	吐根酒	單軟膏	單鉛硬膏	無色沃度丁幾	苦味丁幾	樟腦	樟腦精	サリチルサン曹達	強發泡膏	稀鹽酸	キニーネ	ジグエストーゼ	水銀軟膏	英法絆創膏	絆創膏	滿俺鐵ベプトン	ホルマリン水

第八類 財務 第二章 租稅

石炭酸	乳糖	糖化素	ザヤスベブターセ	柏木ヂヤスタターセ	高橋氏改良肝油	マルツエキス	ホルマリソ	石炭酸水	ズボウトウ	次亞鐵散舍利別	第三 滋養品ト認メ課税セサルモノ	但單ニ滋養ニ效能アリト云フニ非ラスシテ他ニ疾病預防	若ハ治病ノ效能アリト稱シ發賣スルモノハ賣薬又ハ賣薬	類似品ト認メ課税スヘキモノトス	ニクエキス	肉ベプトン	乳粉	ベプトン
リゾール	黄柏越幾斯	イヒチヲール	ヂヤスタターセ	肝油	タカヂヤスタターセ	マルツヂヤスタターセ	マルチン	純良無臭肝油	綿馬越幾斯						下山含鐵肝油	次亞鐵	人參乳酸鐵粉	人參鐵粉

第八類 財務 第二章 租稅

ヘモクロビンエキス 人參 飴
 ヘモクロビン 肝油 飴
 ベプトンビーフ 含鐵養老飴
 臘腸 飴
 オットセイエキス ツマトーセ
 臘腸 飴
 含鐵肝油 雞卵水 飴
 含鐵乳劑 鐵 飴
 肝油 飴
 淺田 飴
 牛肉越幾斯 鐵ソマトーセ
 強壯鐵飴 滋養強壯飴
 ミル ク ビーフセリー
 ポビナイン オイカシン
 トロポン
 オットセイ油
 第四 消毒劑ト認メ課稅セサルモノ
 但シ單ニ消毒ノ效驗アリト云フニアラスシテ他ニ疾病豫
 防若ハ治病ノ效驗アリト稱シ發賣スル者ハ賣藥又ハ賣藥
 類似品ト認メ課稅スヘキモノトス

ロ 1 ハ 惡臭消新劑
 防 臭 劑 アイゾール
 防 臭 散 消毒散
 防 臭 液 消毒防臭散
 クレシン 臭氣散
 デシンフエクシ 七ース消毒劑
 臭氣止 加那布的油
 アルホース(液體固) 防臭油
 第五 治病ニ效驗アリト云フニアラサルモ心身ヲ爽快ニシ
 音聲ヲ改善シ又ハ精氣ヲ増進スル效驗アルモノト認メ課
 稅スヘキモノ
 口中香錠セント レモン錠
 同 快活 練薄荷
 同 エイセイ 口中香錠センセイ
 音 錠 紫金錠
 センセン
 第六 皮膚毛髮ノ色澤組織ヲ變更シ又ハ身體ノ惡臭ヲ去ル
 ニ效驗アリト認メ課稅スヘキモノ
 但白髮トナルヲ豫防スルモノハ此項ニ屬シ白髮ヲ染ムル
 モノハ除クモノトス

發毛丁 幾 ヲキガジヤコーサン
 腋香ノ藥 臭消酸
 山崎毛生液 除臭ビルピン
 毛ノハヘル香油 臭氣去膏
 全治散わきの新劑 必效散わきの良劑
 毛生液 毛生劑
 毛養液 毛生丁幾
 第七 疥癬其他皮膚ノ障害ヲ除去スルニ效驗アリト認メ課
 稅スヘキモノ
 但效能、裝置等ニ依リ賣藥ト認ムヘキモノハ賣藥トシテ
 課稅スヘキモノトス
 疣取液 アレマジマン水
 アカギレ膏 ヒビハスレ
 皮膚液

●登録税法(抄録)

明治二十九年三月二十八日
 法律第二十七號

沿革略ス
 第一條 登録稅ハ本法ノ定ムル所ニ依リ賦課徵收ス

第八類 財務 第二章 租稅

第八條 左ノ事項ヲ官簿ニ登録スルトキハ醫師、藥劑師、獸
 醫、蹄鐵工ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ
 一 新規登録
 醫師 金二十圓
 藥劑師 金十二圓
 獸醫 金十二圓
 蹄鐵工 金五圓
 假開業醫師 金五圓
 假免許獸醫 金三圓
 假免許蹄鐵工 金一圓
 二 登録事項ノ變更 每一件 金五十錢
 第十七條 登録稅ハ印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ但シ勅令ノ定ム
 ル所ニ依リ現金ヲ以テ之ヲ徵收スルコトヲ得
 第十八條 登録稅ハ總テ金一錢以上トス一錢未満ノ端數ハ一
 錢トシテ之ヲ計算ス
 第十九條 左ニ掲クルモノニハ登録稅ヲ課セス
 一 政府自己ノ爲ニスル登記又ハ登録
 二 府縣郡市町村其ノ他公共團體ニ於テ公用ニ供スル不動
 產ノ登記又ハ登録
 三 社寺、堂宇ノ敷地及墳墓地ニ係ル登記又ハ登録

第八編 財務 第二章 租稅

- 四 明治六年第十八號布告地所貸入書入規則及同八年第四百十八號布告建物書入規則ニ從ヒテ公證ヲ經タル證書面ノ權利ニ付テ債權者ヨリ申請スル登記
- 五 産業組合、産業組合聯合會、産業組合中央會、漁業組合、漁業組合聯合會、重要輸出品工業組合、重要輸出品工業組合聯合會又ハ輸出組合ニ付産業組合法、漁業法、重要輸出品工業組合法又ハ輸出組合法ニ基キテ爲ス登記
- 六 登記又ハ登錄スヘキ信託財産ニシテ委託者カ信託行爲ニ依リ信託利益ノ全部ヲ享受スヘキモノヲ委託者ヨリ受託者ニ移ス場合ニ於ケル財産權取得ノ登記又ハ登錄
- 七 信託ニ付受益者又ハ歸屬權利者ノ財産權取得ノ登記又ハ登錄
- 八 信託ノ受託者更迭ノ場合ニ於ケル新受託者ノ財産權取得ノ登記又ハ登錄

前項第六號ノ規定ハ當該信託財産ニ付受益者變更ノ登記ヲ受クル場合ニハ之ヲ適用セス此ノ場合ニ於テハ信託財産ハ其ノ變更ノ登記又ハ登錄ノ時ニ於テ受託者ニ移轉シタルモノト看做シ登錄稅ヲ課ス

明治三十年九月二十八日
衛甲第五五號

(衛生局長通牒)

今般醫師藥劑師登錄ニ關スル登記印紙取扱方ノ義訓令相成候處印紙消印ニ對シテハ殊ニ書類ノ確實ヲ要シ候ニ付醫術並藥劑師試驗及證書若クハ大學又ハ各學校ニ於ケル卒業證書ハ特ニ本證書御點檢ノ上其相違ナキヲ認メ印紙消印相成本人願書並附屬書類寫等ハ總テ從前ノ通り御進達有之度若ク又證書等ニ關シ疑敷廉モ有之候節ハ豫メ當局ニ御照會ノ上御消印相成度此段申進候也

大正十四年四月十八日
衛發第一六六號

(各地方長官宛
衛生局長通牒)

標記之件ニ關シ明治三十年九月内務省訓第八五五號ヲ以テ訓

第八編 財務 第二章 租稅

●登錄稅法施行規則(抄録)

明治三十二年五月十九日
勅令第二百五號

沿革略ス

- 第一條 印紙ヲ以テ納ムル登錄稅ハ登錄ニ關スル書類ニ收入印紙ヲ貼用シテ之ヲ納ムヘシ
- 第二條 登錄稅額五百圓以上ナルトキハ稅務署ニ申出テ現金ヲ以テ納ムルコトヲ得
- 第三條 官廳又ハ公署ヨリ登記若ハ假登記又ハ登錄若ハ假登錄ヲ登記所又ハ登錄官廳ニ囑託スヘキ場合ニ於テハ登錄稅ヲ納ムヘキ者其ノ官廳又ハ公署ニ相當印紙又ハ現金ノ領收證ヲ提出シ其ノ官廳又ハ公署ハ囑託書ニ其ノ印紙ヲ貼用シ又ハ其ノ證書ヲ添付シテ登記所又ハ登錄官廳ニ送付スヘシ

●醫師、藥劑師登錄願書ノ印紙消印方

明治三十年九月二十七日
内務省訓令第八五五號

(衛生局長通牒)

令ノ次第モ有之候處往々消印洩レ發見致候ニ付爾今右申請書完備スルトキハ之ニ消印ノ上御進達相成度
追テ外國學校卒業者ノ如キ免許資格疑ハシキモノハ其儘御進達相成度

●醫籍登錄事項訂正ニ關シ貼用スヘキ收入印紙額ノ件

明治四十年一月七日
三九衛甲第七四號

(各地方長官宛
衛生局長通牒)

醫師法並醫科醫師法施行規則第三條第一項ノ醫籍登錄事項訂正ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テ族籍、名氏、生年月日及姓ノ異動ヲ各一件トシ相當印紙ヲ貼用セシムルコトニ決定候條依命此段及通牒候也

●法人ニ於テ租稅ニ關シ事犯アリタル場合ニ關スル件

九七

明治三十三年三月十三日
法律第五十二號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル法人ニ於テ租稅(及葉煙草專賣)ニ關シ事犯アリタル場合ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 法人ノ代表者又ハ其雇人其他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ租稅(及葉煙草專賣)ニ關スル法規ヲ犯シタル場合ニ於テハ各法規ニ規定シタル罰則ヲ法人ニ適用ス但其罰則ニ於テ罰金科料以外ノ刑ニ處スヘキコトヲ規定シタルトキハ法人ヲ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二條 法人ヲ處罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

第三條 法人ヲ處罰スル裁判確定シタル日ヨリ罰金ニ關シテハ一月以内科料ニ關シテハ十日以内ニ之ヲ納完セサルトキハ民事訴訟法第六編ノ規定ニ從ヒテ其執行ヲ爲ス此場合ニ於テハ檢事ノ命令ヲ以テ執行力ヲ有スル債務名義ト同一ノ效力アルモノトス

前項ニ依リ執行ヲ爲スニハ執行前裁判ノ送達ヲ爲スコトヲ要セス

●清涼飲料稅法

大正十五年三月二十七日
法律第十六號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル清涼飲料稅法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

清涼飲料稅法

第一條 本法ニ於テ清涼飲料ト稱スルハ炭酸瓦斯ヲ含有スル飲料ヲ謂フ但シ全重量ノ百分ノ五以下ノ炭酸瓦斯ヲ含有スルモノ及全容量ノ百分ノ一以上ノ純酒精ヲ含有スルモノハ此ノ限ニ在ラス

前項ニ於テ純酒精ト稱スルハ攝氏十五度ノ時ニ於テ〇・七九四七ノ比重ヲ有スル酒精ヲ謂フ

第二條 清涼飲料ニハ左ノ區分ニ依リ清涼飲料稅ヲ課ス

- 第一種 玉ラムネノ壘詰ノモノ 七圓
- 一石ニ付
- 第二種 其ノ他ノ壘詰ノモノ 十圓
- 一石ニ付
- 第三種 壘詰以外ノモノ 三圓
- 炭酸瓦斯使用量一庇ニ付

〔舊〕

〔舊〕

第三條 清涼飲料ヲ製造セムトスル者ハ製造場一箇所毎ニ政府ノ免許ヲ受クヘシ其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

天然ニ湧出スル清涼飲料ヲ容器ニ充填スルコトハ本法ノ適用ニ付テハ之ヲ第二種ノ清涼飲料ノ製造ト看做ス天然ニ湧出スル清涼飲料ヲ原料トシテ第三種ノ清涼飲料ヲ製造スルコト亦同シ

第四條 清涼飲料稅ハ第一種及第二種ノ清涼飲料ニ付テハ製造場外ニ移出セラレタル石數ニ應シ、第三種ノ清涼飲料ニ付テハ製造場外ニ移出セラレタル清涼飲料ニ使用セラレタル炭酸瓦斯ノ量ニ應シ清涼飲料製造者ヨリ之ヲ徵收ス

第五條 清涼飲料ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ之ヲ製造場外ニ移出セラレタルモノト看做ス

- 一 製造場内ニ於テ飲用セラレタルトキ
- 二 製造場内ニ現存スルモノ公賣セラレタルトキ
- 三 製造免許取消ノ場合ニ於テ製造場内ニ現存スルトキ

第六條 清涼飲料製造者ハ毎月其ノ製造場外ニ移出シタル清涼飲料ニ付第二條ノ區分毎ニ其ノ石數又ハ炭酸瓦斯使用量ヲ記載シタル申告書ヲ翌月十日迄ニ政府ニ提出スヘシ但シ前條第二號又ハ第三號ノ場合ニ於テハ直ニ之ヲ提出スヘシ

ノ定ムル所ニ依リ納税ノ保證トシテ清涼飲料製造者ニ對シ擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

第十一條 清涼飲料ノ製造者又ハ販賣者ハ清涼飲料ノ製造出入ニ關スル事實ヲ詳細明瞭ニ帳簿ニ記載スヘシ
清涼飲料ノ製造者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ清涼飲料ノ製造ニ關シ必要ナル事項ヲ政府ニ申告スヘシ

第十二條 收税官吏ハ清涼飲料ノ製造者又ハ販賣者ノ所持ニ係ル清涼飲料、其ノ製造出入ニ關スル一切ノ帳簿書類及清涼飲料ノ製造又ハ販賣上必要ナル建築物、器具、器械、原料其ノ他ノ物件ヲ検査シ又監督上必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第十三條 製造免許ヲ受ケスシテ清涼飲料ヲ製造シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處シ直ニ其ノ清涼飲料稅ヲ徵收ス
前項ノ清涼飲料其ノ容器、器具及器械ハ之ヲ沒收ス

第十四條 清涼飲料ノ製造者第六條ノ規定ニ依ル申告ヲ怠リ又ハ詐リタルトキハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 詐偽其ノ他ノ不正行爲ヲ以テ清涼飲料稅ヲ連脱シ又ハ連脱ヲ圖リタル者ハ其ノ清涼飲料稅五倍ニ相當スル罰金ニ處シ直ニ其ノ清涼飲料稅ヲ徵收ス但シ罰金額カ二十圓ニ滿タサルトキハ之ヲ二十圓トス

第十六條 清涼飲料ノ製造者又ハ販賣者清涼飲料ノ製造出入ニ關スル帳簿書類若ハ原料ヲ隱匿シ又ハ帳簿ノ記載若ハ第十一條ノ規定ニ依ル申告ヲ怠リ若ハ詐リタルトキハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十七條 收税官吏ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ其ノ職務ノ執行ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十八條 清涼飲料ノ製造者又ハ販賣者ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ヲ犯シタルトキハ其ノ製造者又ハ販賣者ヲ處罰ス

第十九條 第十條ノ規定ニ依ル擔保ヲ提供セサル者、第十四條若ハ第十五條ノ規定ニ依リテ處罰若ハ處分セラレタル者又ハ三年以上引續キ清涼飲料ヲ製造セサル者ニ對シテハ政府ハ清涼飲料製造ノ免許ヲ取消スコトヲ得

第二十條 本法ヲ施行セサル地ニ於テ製造シタル清涼飲料ハ本法ト同一ノ稅率ヲ有スル法規ヲ其ノ地ニ於テ施行スル迄ハ之ヲ本法施行地ニ移入スルコトヲ得ス
前項ノ規定ニ違反シテ清涼飲料ヲ移入シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處シ直ニ其ノ石數ニ應シ第二條第二種ノ稅率ニ依リ算出シタル清涼飲料稅ヲ徵收ス

前項ノ清涼飲料及其ノ容器ハ何人ノ所有ニ屬スルヲ問ハス之ヲ沒收ス

第二十一條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用ヒス但シ第七條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十二條 第十一條、第十二條、第十六條乃至第十八條及第二十一條ノ規定ハ販賣ノ目的ヲ以テ炭酸瓦斯ヲ製造スル者又ハ炭酸瓦斯ヲ販賣スル者ニ付之ヲ準用ス

第二十三條 自己又ハ其ノ家族ノ用ニ供スル清涼飲料ノミヲ製造スル者ニハ本法ヲ適用セス

附則

本法ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前ヨリ引續キ清涼飲料ヲ製造スル者本法施行後一月以内ニ其ノ旨政府ニ申告スルトキハ本法施行ノ日ヨリ本法ニ依リ製造免許ヲ受ケタルモノト看做ス

●清涼飲料稅法施行規則

大正十五年三月三十一日
勅令第三十三號

朕清涼飲料稅法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

清涼飲料稅法施行規則

第一條 清涼飲料ヲ製造セムトスル者ハ製造場及製造スヘキ種類ヲ定メ其ノ住所及氏名又ハ名稱ヲ記載シタル免許申請書ヲ製造場所轄稅務署ニ提出スヘシ

第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ稅務署長ハ清涼飲料製造ノ免許ヲ與ヘサルコトヲ得

一 著シク交通不便ナル地ニ製造場ヲ設ケムトスルトキ

二 清涼飲料稅法第十九條ノ規定ニ依リ免許ヲ取消サレタル者其ノ他稅務署長ニ於テ免許ヲ與フルニ不適當ト認メタル者カ免許ヲ申請シタルトキ

第三條 清涼飲料ノ製造場ハ其ノ敷地ノ連續スルト否トヲ問ハス一製造場ト認ムヘキモノヲ謂フ

第四條 清涼飲料製造ノ免許ヲ受ケタル者ハ其ノ製造場毎ニ地所建物ノ圖面、製造用器具器械ノ目錄及清涼飲料製造方法書ヲ調製シ事業著手前所轄稅務署ニ提出スヘシ

前項ノ圖面又ハ目錄ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度申告スヘシ製造方法ヲ變更シ又ハ製造者ノ住所、氏名若ハ名稱ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ

第五條 清涼飲料ノ製造者カ製造ニ著手セムトスルトキ、一

月以上製造ヲ休止セムトスルトキ又ハ製造休止後更ニ製造ニ著手セムトスルトキハ其ノ時期ヲ定メ豫メ所轄稅務署ニ申告スヘシ其ノ申告シタル事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第六條 清涼飲料ノ製造者ハ毎年二月中ニ其ノ年三月一日ヨリ翌年二月末日迄ノ期間ニ於テ製造スル清涼飲料ニ付第一種及第二種ニ在リテハ製造見込石數、第三種ニ在リテハ炭酸瓦斯使用見込數量ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ

前項ノ見込石數又ハ見込數量ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度直ニ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第七條 清涼飲料ノ製造者死亡又ハ隱居シタルトキハ相續人ハ其ノ旨ヲ直ニ所轄稅務署ニ申告シ製造免許ノ承繼ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ヲ除クノ外清涼飲料ノ製造業ヲ承繼セムトスル者ハ製造者ト連署シタル製造免許承繼ノ申請書ヲ所轄稅務署ニ提出シ許可ヲ受クヘシ

第八條 清涼飲料ノ製造者製造場ヲ移轉セムトスルトキハ製造場ヲ定メテ移轉先ノ所轄稅務署ニ申請シ其ノ許可ヲ受クヘシ

第九條 清涼飲料ノ製造者製造場ヲ廢止セムトスルトキハ免許

取消申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第十條 清涼飲料稅法第六條ノ規定ニ依ル申告書ハ所轄稅務署ニ之ヲ提出スヘシ

清涼飲料ノ製造者前項ノ申告書ヲ提出セス又ハ稅務署長其ノ申告ヲ不相當ト認メタルトキハ稅務署長ハ其ノ課稅標準額ヲ決定スヘシ

第十一條 外國ニ輸出スル清涼飲料ニ付清涼飲料稅ノ免除ヲ受ケムトスル者ハ製造場ヨリ之ヲ移出スル都度所轄稅務署ノ承認ヲ受クヘシ

第十二條 前條ノ清涼飲料ニ付輸出ノ證明ヲ爲サムトスルトキハ移出後六月以内ニ左ノ書類ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ但シ已ムコトヲ得サル事由ニ因リ第二號ノ書類ヲ提出スルコト能ハサルトキハ所轄稅務署ノ承認ヲ受ケタル場合ニ限リ第一號ノ書類ノミヲ以テ證明ヲ爲スコトヲ得

一 輸出免狀又ハ之ニ代ルヘキ書類
二 外國輸入港稅關ノ輸入免狀又ハ外國ニ陸揚シタルコトヲ證スヘキ書類

第十三條 外國輸出ノ目的ヲ以テ製造場外ニ移出シタル清涼飲料ニシテ天災其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ死亡シタルトキハ製造者ハ其ノ事實ヲ製造場所稅務署ニ申告シ

〔備〕

テ其ノ承認ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ死亡シタル場所前項稅務署ノ管轄外ナルトキハ最寄稅務署ニ亡失ノ事實ヲ申告シテ其ノ承認ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テハ承認ヲ爲シタル稅務署ハ其ノ旨ヲ直ニ製造場所稅務署ニ通知スヘシ

第十四條 清涼飲料稅法第九條第一項但書ノ規定ニ依リ政府ノ承認ヲ受ケムトスル者ハ其ノ事由ヲ具シ製造場所稅務署ニ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テ清涼飲料カ前項稅務署ノ管轄外ニ在ルトキハ其ノ所在地所轄稅務署ニ之ヲ申請スヘシ但シ此ノ場合ニ於テハ其ノ所在地所轄稅務署ヨリ承認書ノ交付ヲ受ケテ之ヲ製造場所稅務署ニ提出スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ承認書ノ交付ヲ爲シタル稅務署ハ其ノ旨ヲ直ニ製造場所稅務署ニ通知スヘシ

製造場所稅務署第一項ノ申請ニ因リ承認ヲ爲シ又ハ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ清涼飲料稅ヲ徵收スヘシ

第十五條 外國輸出ノ目的ヲ以テ製造場外ニ移出スル清涼飲料ニ付テハ稅務署長ハ清涼飲料ノ製造者ニ對シ清涼飲料稅額ニ相當スル擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

第十六條 清涼飲料ノ製造者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ

於テハ稅務署長ハ清涼飲料ノ製造者ニ對シ第六條ノ期間ニ於ケル清涼飲料製造見込石數又ハ炭酸瓦斯使用見込數量ニ對スル稅額ノ四分ノ一ニ相當スル金額ノ擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

一 清涼飲料稅法ヲ犯シテ處罰又ハ處分セラレタルトキ
二 清涼飲料稅ニ付滯納處分ヲ受ケタルトキ
三 清涼飲料稅ノ連脫ヲ圖ルノ行爲アリト認ムルトキ

第十七條 擔保物ノ種類ハ金錢又ハ國債ニ限ル
金錢又ハ無記名國債證券ヲ擔保トシテ提供スルトキハ之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

登錄國債ヲ擔保トシテ提供スルトキハ擔保ノ登錄ヲ受ケ其ノ登錄濟通知書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ乙種國債登錄簿ニ登錄シタルモノニ在リテハ尙記名國債證券ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ提出スヘシ

擔保トシテ提供シタル國債ノ償却ヲ受クルニ至リタルトキハ稅務署長ハ擔保提供者ヲシテ直ニ之ニ代ルヘキ擔保ヲ提供セシムヘシ

第十八條 擔保物ヲ提供シタル者清涼飲料稅ヲ納付スヘキ場合ニ於テ之ヲ納付セサルトキハ擔保物ヲ以テ稅金ニ充ツ前項ノ場合ニ於テ擔保物國債ナルトキハ之ヲ公賣ニ付シ順

次ニ公賣ノ費用及税金ニ充ツ
前二項ノ場合ニ於テ不足アルトキハ之ヲ追徴シ殘金アルト
キハ之ヲ還付ス

第十九條 清涼飲料ノ製造者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記

載スヘシ

- 一 原料ノ種類及數量、他ヨリ引取リタル原料ニ在リテハ
尙引取ノ日並其ノ引渡人ノ住所及氏名又ハ名稱
- 二 使用シタル原料ノ種類、數量及使用ノ日
- 三 製造シタル清涼飲料ノ種類、數量及製造ノ日
- 四 移出シタル清涼飲料ノ種類、數量、價額及移出ノ日並
其ノ引取人ノ住所氏名又ハ名稱

小賣ノ場合ニ於テハ前項第四號ノ引取人ノ住所及氏名又ハ
名稱ノ記載ヲ要セス

第二十條 清涼飲料ノ販賣者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記
載スヘシ

- 一 引取リタル清涼飲料ノ種類、數量、價額及引取ノ日並
其ノ引渡人ノ住所及氏名又ハ名稱
- 二 販賣シタル清涼飲料ノ種類、數量、價額及販賣ノ日並
其ノ買受人ノ住所及氏名又ハ名稱

小賣ノ場合ニ於テハ前項第二號ノ買受人ノ住所及氏名又ハ

名稱ノ記載ヲ要セス

第二十一條 清涼飲料ノ製造者ハ左ニ掲クル場合ニ於テ收稅
官吏カ必要ト認メテ承認ヲ受クヘキコトヲ命シタルトキハ
其ノ承認ヲ受クヘシ

- 一 製造ニ著手セムトスルトキ
- 二 原料ヲ清涼飲料ノ製造以外ニ使用セムトスルトキ
- 三 製造場ト同一場所ニ於テ小賣販賣業ヲ兼營セムトスル
トキ
- 四 前各號ノ外收稅官吏カ指定シタル事項ヲ爲サムトスル
トキ

第二十二條 第一條、第五條、第七條乃至第九條、第十九條
及第二十條ノ規定ハ販賣ノ目的ヲ以テ炭酸瓦斯ヲ製造スル
者又ハ炭酸瓦斯ヲ販賣スル者ニ付之ヲ準用ス但シ同規定中
免除、免許取消又ハ許可ノ申請ヲ要スル事項ニ付テハ申告
書ヲ提出スルヲ以テ足ル

第二十三條 收稅官吏ハ清涼飲料又ハ炭酸瓦斯ノ製造者又ハ
販賣者ノ營業ニ關シ職務上知得タル事項ヲ他ニ漏洩スルコ
トヲ得ス

附則

本令ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔備〕

〔備〕

第三章 使用料、手数料

●官舎貸渡規則

明治九年五月十五日
太政官達第五三號

沿革 明治一〇年三月太政官達第三七號、一二月第八七
號 改正

〔院〕省〔使〕廳 府縣

明治七年七月第九十三號同八年五月第八十八號達シテ廢シ更
ニ官舎貸渡規則別紙ノ通相設條條從來ノ官舎或ハ官廳附屬ノ
家屋等貸渡候向ハ本年一月一日ヨリ宿代取立大藏省ヘ可相納
尤元金建坪等取調ノ儀〔院〕省〔使〕ハ大藏省廳府縣ハ内務省ヘ
可申出此旨相達候事

但借地料ノ儀ハ明治八年七月第百十四號布告官有地第二種
但書ノ通可相心得事

(別紙)

官舎貸渡規則

第一條 官舎貸渡ス時ハ毎月宿代取立ヘシ

清涼飲料稅法附則第二項ノ規定ニ依リ政府ニ申告セムトスル
者ハ第一條ニ準シタル申告書ニ清涼飲料稅法施行前ヨリ引續
キ清涼飲料ヲ製造スルコトノ事實ヲ具シ第四條第一項ノ書類
ヲ添ヘ所轄稅務署ニ提出スヘシ

本令施行前ヨリ引續キ販賣ノ目的ヲ以テ炭酸瓦斯ヲ製造スル
者又ハ炭酸瓦斯ヲ販賣スル者ハ本令施行後一月以内ニ第一條
ニ準シタル申告書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

大正十五年ニ限リ第六條ノ規定二月中トアルハ四月中トス

第八類 財務 第三章 使用料、手数料

但獄舎(懲役場)倉庫定番見張番並ニ鐵道各驛長各所燈明番等ハ此限ニアラス其他公務ノ都合ヲ以テ官舎貸渡ス者ト雖トモ宿代取立ルハ勿論ナレトモ該官舎ノ内公用私用ニ供スル間席ヲ區劃シタル向ハ其私用ニ供スル間席ノミ宿代取立ツヘシ

第二條 宿代ハ元金ノ八分ヨリ一割迄ノ制限トシ適宜斟酌シテ取立ツヘシ(右取立高ノ内七分ハ上納三分ハ其應ニ備置修繕費ニ充ツヘシ)

第三條 官舎新營ノ分ハ其建築費ノ總額古家作ノ分ハ買上直段或ハ當時賣買スヘキ直段ヲ以テ滿三年間ノ元金ト定メ爾後滿三年毎ニ一旦評價セシメテ元金ヲ改ムヘシ自今新營或ハ買上ノ年度ヨリ既ニ滿三年ヲ過クルモノハ此節一旦評價セシメテ元金ヲ改ムヘシ

但新營ノ分元金ハ石礎入費ヨリ計算スヘシ且貸渡ノ節修繕ノ分ハ其費額ヲ元金ニ加ヘ爾後修繕ノ費額ハ加ヘサルヘシ

第四條 宿代ハ年ヲ以テ計算スヘシト雖トモ取立方ハ月割タルヘシ
但十六日以後ニ貸渡シタル時又ハ十五日以前返却シタルトキハ半月分取立ツヘシ

警視廳 府縣

明治九年太政官第五十三號達官舎貸渡規則ノ足ラサル所ヲ補フ爲メ別紙ノ通内規ヲ定メラレ明治二十二年一月一日以降之ヲ施行ス

第一條 別表ニ提クル所ノ官吏ハ官舎ニ居住スヘキモノトス但公務上差支ナキ者ハ所屬長官ノ意見ニ由リ又ハ其認許ヲ經テ官舎ニ居住セサルモ妨ナシ

第二條 官舎相當ノ建具疊敷物窓掛煖爐通信器點火器及對客室必要ノ椅卓ニ限リ官費ヲ以テ之ヲ設クルモノトス

但大臣ノ官舎ニ限リ以上物品ノ外接客用飲食器接客室ニ備フル所ノ花瓶書棚物置臺鏡時計ハ官費ヲ以テ之ヲ設ケ且ツ公用室客室及館外ノ點火竈ニ公用室及客室ノ石炭ハ官費供用スルコトヲ得

第三條 官舎及官舎附屬ノ建物物品等ノ保存上必要ナル手入ハ一切居住人ノ自費トス

天災若クハ自然ノ腐朽ニ由リ修繕ヲ加フルコトヲ必要トスルトキハ官費ヲ以テ支辨ス

第四條 官舎居住人ノ不注意ニ因リ官舎及ヒ其附屬ノ物品ヲ毀損シタルトキハ自費ヲ以テ支辨セシム

第五條 各廳ノ便宜ニ由リ其長官ニ於テ別表外ノ官吏ヲ官舎ニ居住セシムル時ハ總テ官舎貸渡規則ニ據ルヘキモノトス

第八類 財務 第三章 使用料、手数料

第五節 (宿代上納方ハ三ヶ月毎ニ取調修繕費遺拂ノ分ハ毎年六月迄ニ精算表差出シ殘金アラハ後日ノ費用ニ充置ヘシ)

第六條 官舎外廻リ雨漏又ハ臨時大破ノ外一切ノ修繕ハ自費タルヘシ

第七條 拜借人自費建増等願出ルトキハ實地検査ノ上差支無クシテ之ヲ免許スヘシ

第八條 拜借人交換ノ節ハ篤ト検査ヲ遂ケ若シ毀損スル所アルカ又ハ附屬品等不足スル時ハ辨償セシムヘシ但自費建増等ノ存廢ハ新舊拜借人ノ示談ニ任スヘシ

官舎貸渡内規

明治二十二年一月二日
內務省訓秘乙第三二〇號

沿革 明治二十二年訓第四一六號、二十四年九月、二十五年三月八月九月、二十九年九月十月、三〇年二月四月七月九月、三一年三月、九月六日及二一日、一二月二四日及三〇日、三三年一月五日及二一日、三七年三月、四〇年八月九月、大正八年四月七月通牒、九年訓第六七五號 改正

別表

ニ居住セシムル時ハ總テ官舎貸渡規則ニ據ルヘキモノトス

總理大臣

各省大臣

內閣書記官長

內閣書記官ノ内一名若クハ二名

法制局長官

印刷局長若クハ印刷局事務官ノ内一名

樞密院議長

樞密院書記官長

樞密院書記官ノ内一名

樞密院議長秘書官

大臣秘書官

外務次官

外務省電信課長

內務次官

內務省警保局長(若クハ局長次主事)

國立感化院職員ノ内職務ニ依リ內務大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル者

(內務省地理局測候所事務ノ技師及技手)

〔内閣官報局長若クハ局長〕
 大藏省〔金庫局長若クハ局長〕
 海軍次官
 陸海軍武官ノ内職務ニ由リ特ニ官舎居住ヲ命スル者
 司法大臣官房職員課長
 司法省〔各始審裁判所〕豫審判事及上席檢事
 〔内務省〕司獄官吏ノ内職務ニ由リ特ニ官舎居住ヲ命スル者
 文部省直轄各學校圖書館及中央氣象臺職員ノ内職務ニ依リ
 文部大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル者
 種牛牧場員ニシテ特ニ官舎居住ヲ命スル者
 農商務省〔山林局試驗場〕詰官吏
 農商務大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル大阪工業試驗所職員
 小林區署各官舎詰官吏
 種馬牧場種馬育成所及種馬所員ニシテ特ニ官舎居住ヲ命ス
 ル者
 製鐵所長官同事務官二名同書記ノ内十五名
 製鐵所職員中特ニ官舎居住ヲ命スル者
 水産講習所職員ニシテ特ニ官舎居住ヲ命スル者一名
 逓信省〔郵便局長〕若クハ同局勤務ノ逓信事務官ノ内一名
 同 〔電務局長〕若クハ同局勤務ノ逓信事務官逓信技師ノ内

一名
 航路標識管理所長若クハ課長ノ内一名
 逓信大臣ニ於テ指定スル地ノ電話交換局長及電話交換支局長
 逓信大臣ニ於テ指定スル地ノ一等郵便電信局建築課、電話
 交換局及電話交換支局勤務ノ技手書記各一名
 逓信大臣ニ於テ指定スル在外各地、島嶼其他僻遠ノ地ニ在
 勤スル郵便電信局郵便局及電信局員
 逓信省〔燈臺局長〕若クハ局長
 逓信大臣指定ノ地ノ一二等郵便電信局長及支局長
 逓信省〔内信局長若クハ局長〕
 逓信大臣指定ノ地ノ一等郵便電信局各課長
 逓信省燈臺詰官吏
 〔鐵道局〕各驛長若クハ助役
 帝國鐵道〔總〕總裁、副總裁〔工務部長〕、〔運輸部長〕〔計理
 部長〕、管理局長、營業事務所長及〔逓信大臣ニ於テ指定ス
 ル〕奏任以下ノ帝國鐵道職員
 警視總監〔及副總監〕
 警視廳〔一等警視以下〕並沖繩縣警察官吏ノ内職務ニ由リ特
 ニ官舎居住ヲ命スル者
 北海道廳長官府縣知事〔警視長〕

〔備〕

〔備〕

北海道尋常師範學校長舎監
 北海道廳及沖繩縣〔司獄官吏及北海道廳鐵道部員ノ内〕特ニ
 官舎居住ヲ命スル者
 港務部長並内務大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル港務部職
 員及海港檢校所職員
 沖繩縣官吏ノ内特ニ官舎居住ヲ命スル者
 其他各廳ノ技術官ニシテ必要アルトキ各廳長官ニ於テ大藏
 大臣ト協議ノ上官舎居住ヲ命スル者
 帝室費及地方稅經濟ニ屬スル官舎ハ本表ノ外トス

●官舎用物品其他備付修繕等區
分方

明治三二年一二月七日
内務書記官通牒縣乙第一四八號

府縣

府縣知事官舎及警部長官舎用物品其他備付修繕等之儀官舎貸
 渡内規第二條ノ外左ノ區分内定相成候條此段及御通牒候也
 區分
 一 井戸車 釣瓶 釣瓶繩 井戸ポンプ 井戸水替
 右ハ官舎新築落成ノ當初一度ハ官費ヲ以テシ以後使用中ノ修

第八類 財務 第三章 使用料、手数料

繕又ハ新規取替及水替等ハ居住人ノ自費トス
 一 邸ノ内外掃除雪掻庭園樹木等手入
 右ハ總テ居住人ノ自費トス

●官舎名稱改定ノ件

大正六年九月一七日
會計課長通牒第二九一號

廳府縣

本省所管官舎名稱ハ從來區々ニ互リ附屬官舎其他第一號第二
 號ノ名稱ノ下ニ部長理事官等居住ノ向モ有之調査上不便不
 ニ付高等官居住ノ官舎名稱ハ自今其官職名ヲ冠スル事ニ一
 セラレ候條及通牒候也
 追テ右ノ主旨ニ合致セサルハ此際御改定ノ上直ニ報告相
 成度申添候

●官舎貸渡ノ節地於廳へ通知及
借地料收入方

明治九年五月二二日
太政官達第五二號

院省〔使〕廳

一〇九

官有地内ニ有之官舎貸渡候借地料ノ儀ハ其地方廳ニ於テ取調候管ニ付貸渡候都度該廳へ通知可致且收入候借地料ノ儀ハ期限ノ通其地方廳へ送付可致此旨相達候事
但從前貸渡有之分モ本文ノ通可取計事

●官舎貸渡ノ節借地料取立上納方

明治九年五月一九日
内務省乙達第六五號

府縣

院省〔使〕廳官用地ノ内ニ有之官舎ヲ貸渡候借地料取立方ノ儀ハ其地方廳ニ於テ取調候管ニ付貸渡ノ都度該廳ヨリ通知有之候ハハ相當ノ借地料取調〔當省へ可申出〕收入ノ義モ季節ニ至リ該廳ヨリ請取上納方ノ儀ハ〔昨年當省乙第二十一號達〕ノ通可取計此旨相達候事
但從前貸渡有之分モ收入手續ノ儀ハ本文ノ通可相心得事

●義務官舎居住者ヨリ敷地料徴收セサル件

明治三十二年七月二六日
内務書記官通牒埼甲第五七號

廳府縣埼玉巖手
縣ヲ除ク

本年一月一日ヨリ官舎貸渡内規實施セラレ候ニ付該内規別表ニ記載ノ官吏居住之官舎敷地料ハ徴收ニ及ハス候間此段爲念及御通知候也
追テ官廳ノ便宜ニ由リ該内規別表外ノ官吏へ貸渡ストキハ從前ノ通徴收スヘキ儀ニ有之候此段申添候也

●官舎敷地料ニ關スル件

大正二年七月一九日
地理課 依命通牒理第三〇九號
會計課

北海道廳 府縣

官舎敷地料取調方等ニ關シ明治九年當省乙第六十五號達ノ次第有之候處自今當省へ申出ニ及ハス候

●港務部職員中官舎指定ノ件

大正九年八月十日
内務省閣會第九號

〔審〕

神奈川縣知事申請 大正九年四月十五日
甲内會秘發第九五號

左記ノ諸官ノ居住スル官舎ヲ義務官舎ト致度候條明治二十一年内務省訓秘乙第三二〇號官舎貸渡内規第一條別表ニ依リ御指定相成度此段及申請候也

記

港務官

一名

首席屬

(庶務係)

藥劑手

一名

同上ニ關スル指令 大正九年八月十日
内務省閣會第九號

神奈川縣

大正九年四月十五日申内會秘發第九五號申請ニ由リ其ノ縣港務部職員中左記ノ者ニ對シ官舎居住ヲ命ス

記

一 港務官

一名

一 屬及藥劑手ノ内

各一名

●港務部所屬繫船浮標標使用料規程

第八類 財務 第三章 使用料、手数料

〔審〕

明治三十一年十月七日
逕信省告示第二百六十六號

沿革 明治四一年五月逕信省告示第五二六號、大正六年二月第一一七號、七年一月第一三三二號 改正

〔港務局〕所屬繫船浮標使用料規程

〔港務局〕所屬繫船浮標使用料規程

第一條 繫船標浮使用料ハ使用時間二十四時間ニ付左ノ區別ニ依リ之ヲ徴收ス但シ二十四時間未滿ノ端數ハ二十四時間トシテ計算ス

總噸數五千噸未滿 十 圓

總噸數一萬噸未滿 十五 圓

總噸數一萬五千噸未滿 二十三圓

總噸數一萬五千噸以上 三十圓

第二條 前條ノ使用時間ハ〔港務局〕ニ於テ使用指定ノ時ヨリ起算ス

第三條 既納ノ繫船浮標使用料ハ使用者ニ於テ實際使用セサルトキト雖モ之ヲ還付セス

●屠場使用料及屠殺料ノ新設等ハ町村制ノ規定ニ依リ許可ヲ

受クヘキヤ否ノ件

明治四十年二月六日
地甲第一號

(各地方長官宛
地方衛生兩局長通牒)

町村ノ屠場使用料及屠殺料ノ許可ニ關スル件ニ付岐阜縣ノ照會ニ對シ別紙ノ通回答候條爲御參考此段及通牒候也
岐阜縣知事照會 明治三十九年十二月二十六日
庶第五九九號

本年六月内務省令第十六號屠場法施行規則第十六號屠場法施行規則第四條ニ依レハ町村ニ於テ設立スル屠場ノ使用料及屠殺料ノ額ハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシトアルヲ以テ町村ハ當然之ヲ徵收スルコトヲ得ヘキモノノ如ク解釋セラレサルニアラスト雖右ハ單ニ其ノ料金額ノ認可ヲ受クヘキ規定ニ過キスシテ法律勅令中徵收スルコトヲ得ルノ明文ナキヲ以テ町村ハ省令ニ依リ認可ヲ受クルノ外町村制第二百二十六條若クハ同第九十一條ノ手續ヲ履行スルニアラサレハ徵收スルヲ得サル義ト存候得共爲念御意見承知致度候
地方衛生兩局長回答 明治四十年二月六日
地甲第一號

三十九年十二月二十六日庶第五九九號御照會ノ件町村ノ屠場ハ町村ノ營造物ナルヲ以テ屠場使用料及屠殺料ノ新設増額變更及之ニ關スル條例ヲ設クルニハ町村制ノ規定ニ依リ許可ヲ受クヘキモノニシテ三十九年内務省令第十六號第四條ハ町村ノ設置スル屠場ニ適用スヘキモノニアラスト存候此段及回答候也

屠場使用料及屠殺料ニ關シ疑義ニ關スル件

明治四十三年七月七日
衛玉第六三號

埼玉縣知事照會 明治四十三年六月二十七日
衛玉第六三號
屠場法施行規則第四條ノ屠殺料トハ屠場ノ使用及屠殺解體等一切ノ料金ヲ包含シ居ルモノナルヲ以テ屠場主カ自己ノ屠場ニ於テ屠畜ヲナシタルトキハ屠畜依頼者ヨリ屠場所定ノ屠殺料ヲ徵收シ又屠畜業者カ他人ノ屠場ニ於テ屠畜ヲ爲シタルトキハ屠畜依頼者ヨリ屠場所定ノ屠殺料ヲ徵收シ其内ヨリ屠場所定ノ屠場使用料ヲ屠場主ニ支拂フヘキ義ト存セラル從テ何レノ場合ニ於テモ屠殺料ト屠場使用料ト同一屠畜依頼者ヨ

【衛】

リ各別ニ徵收スルヲ得サル義ト存セラレ候モ聊カ疑義ヲ生シ候ニ付御意見承知致度差掛リタル義有之至急御回示相煩ハシ度此段及照會候也

衛生局長回答 明治四十三年七月七日
衛玉第六三號

屠場使用料及屠殺料ニ關シ客月二十七日付衛發第八三三號御照會ノ趣了承右ハ御見解ノ通り各別ニ徵收スルヲ要スル場合ハ無之キカ如ク被存候此段及回答候也

印紙ヲ以テスル歳入金納付ニ關スル件

大正九年六月二十四日
勅令第九十號

沿革 大正一二年五月勅令第二三六號、六月第二八八號
改正

朕印紙ヲ以テスル歳入金納付ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 政府ニ納ムヘキ手数料、罰金、科料、過料、刑事追徴金、訴訟費用、非訟事件ノ費用及少年法第六十一條ノ規定ニ依リ徵收スル費用ハ印紙ヲ以テ之ヲ納メシムルコトヲ

第八類 財務 第三章 使用料、手数料

【衛】

得但シ印紙ヲ以テ納メシムルコトヲ得ヘキ手数料ノ種目ハ主務大臣、朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、關東廳所轄地域ニ在リテハ關東長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官之ヲ定ム

第二條 法令ニ依リ印紙ヲ以テ租稅其ノ他ノ政府ノ歳入金ヲ納ムルトキハ收入印紙ヲ用ウヘシ
收入印紙ノ形式ハ大藏大臣之ヲ定ム

第三條 收入印紙ハ郵便局所、郵便切手賣捌所又ハ收入印紙賣捌所ニ於テ之ヲ賣捌ク賣捌ニ關スル規程ハ逓信大臣、朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、關東廳所轄地域ニ在リテハ關東長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官、關東廳所轄地域以外ノ支那ニ在リテハ外務大臣之ヲ定ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
左ノ勅令ハ之ヲ廢止ス

- 明治三十年勅令第四百五十二號
- 明治三十一年勅令第四百十號
- 明治三十二年勅令第二十六號
- 明治三十二年勅令第五十六號

第八類 財務 第三章 使用料、手数料

明治三十八年勅令第二百二十七號
明治四十年勅令第三百四十二號
明治四十二年勅令第四十一號

● 收入印紙ヲ以テ手数料ヲ納ムル時其貼付方

明治三十八年十一月十六日
大藏省令第五十一號
沿章 大正九年六月大藏省令第二一號 改正
收入印紙ヲ以テ手数料ヲ納ムルトキハ其金額ニ相當スル印紙ヲ願書其他ノ書類ニ貼付スヘシ

● 收入印紙ヲ以テ納ムヘキ手数料種目

明治三十年十月十一日
内務省令第二十八號
沿章 明治三十二年五月内務省令第一五號、七月第三〇號
三十八年六月第二〇號、三十九年六月第六號、一月第三五號、大正五年三月第三號 改正
左ノ種目ノ手数料又ハ代價ヲ收入印紙ヲ以テ納ムルトキハ其

一一四

ノ金額ニ相當スル印紙ヲ願書其ノ他ノ書類ニ貼付スヘシ

- 一 醫術開業試験手数料
 - 一 藥劑師試験手数料
 - 一 藥品其ノ他検査手数料
 - 一 (藥品其ノ他再検査手数料)
 - 一 (醫師開業免狀書換手数料(毀損亡失ニ係ルモノ))
 - 一 藥劑師免狀書換手数料(毀損亡失ニ係ルモノ)
 - 一 文官試験手数料
 - 一 (版權登録再度下付手数料)
 - 一 (版權登録訂正手数料)
 - 一 (版權免許料)
 - 一 (版權免許證明書下付手数料)
 - 一 阿片代價
 - 一 明治三十二年内務省令第二十六號第五條ニ依ル目錄簿閲覧手数料
 - 一 明治三十五年内務省令第九號第三條ニ依ル全證書交付手数料
 - 一 沖繩縣及東京府下伊豆七島、小笠原島ニ於ケル屠畜検査手数料
- 前項ニ依リ貼付シタル收入印紙ハ當該官廳ニ於テ消印ヲ爲ス

(衛)

ヘキモノトス但出願者又ハ請求者ニ於テ自己ノ便宜上消印ヲ爲スハ妨ケナシ

明治三十八年十一月十六日
大藏省令第五十號

沿章

明治三十九年一月大藏省令第三號、五月第二五號、
大正三年一月第一八號、七年八月第三七號、九年六月第二〇號 改正

收入印紙ヲ以テ納ムヘキ手数料種目左ノ如シ

- 一 賣藥法施行規則第五條ニ依ル手数料
- 二 土地臺帳謄本手数料
- 三 文官試験手数料

● 試験料其他手数料等ニ關スル收入印紙消印方ノ件

明治四十年十二月
衛發第七八號
沿章 試驗料其他手数料等收入印紙ヲ以テ徵收スルモノノ中往往消印不完全且消印脫漏ノ向有之趣相聞候ニ付將來右消印方ニ就テハ充分御注意相成候様致度爲念此段及通牒候也

(衛生局) 長通牒

第八類 財務 第三章 使用料、手数料

● 醫師、藥劑師試験及免狀書換願書ノ印紙消印方

明治三十年十月二十七日
内務省訓令九八一號
醫術開業試験並藥劑師試験及醫術開業免狀書換(毀損亡失ニ係ルモノ)出願者アルトキハ書類ヲ審査シ其不都合ナキト手数料ノ金額ニ相當スル(登記印紙)ノ貼付トヲ確メ書類ノ紙面ト貼付印紙ノ彩紋ニ掛ケ黒肉ヲ用ヒ消印シテ之ヲ通達スヘシ

(衛)

● 藥劑師免狀書換願書ニ貼用スヘキ收入印紙額ノ件

明治四十年五月二十三日
衛發第二六二號
沿章 藥劑師免狀書換ヲ出願スル場合ニ於テハ明治四十年一月七日内務省衛甲第七四號通牒ニ準シ相當印紙ヲ貼付セシムル様御取扱相成度此段及通牒候也

(各地方長官宛) 衛生局長通牒

一一五

●健全證書ノ手数料ニ關スル件

明治三十五年七月
衛甲第四七號

各地方長官(京都、群馬、栃木、山梨、滋賀、奈良、岐阜、長野、埼玉ノ各府縣ヲ除ク)宛
衛生局長通牒

健全證書交付ノ手数料徴收ノ義ニ付京都府知事ノ照會ニ對シ左ノ通回答相成候條御參考迄此段及通牒候也

明治三十五年六月
京都府知事照會 寅發衛甲第一四號

本年内務省令第九號健全證書交付手續第三條ノ手数料ハ申請アリタルトキハ證書交付ノ有無ニ不拘徴收スヘキモノト思考候處實際區區ニ相成居哉ニ聞及ヒ候ニ付爲念此段及御問合候也

衛生局長回答 明治三十五年七月
衛甲第四七號

客月三日寅發衛甲第一四號ヲ以テ健全證書ノ手数料ニ關スル御照會ノ趣了承右ハ該證書ヲ交付セサル場合ニハ手数料徴收可相成筋ニ無之ト被存候條此段及御回答候也

●内外國軍艦ニ對スル健全證書交付手数料ニ關スル件

明治四十二年十一月
衛甲第九六號

各地方長官(但埼玉、群馬、栃木、奈良、山梨、滋賀、岐阜、長野ノ各府縣ヲ除ク)宛
衛生局長通牒

明治三十五年三月當省令第九號健全證書交付手續第三條ノ手数料ハ從來軍艦商船ノ區別ナク之ヲ徴收スルノ例ニ有之候處自今内外國軍艦ニ對シテハ手数料ヲ徴收スルニ及ハサル義ト御承知相成度依命此段及通牒候也

●健全證書手数料ノ義ニ關スル件

大正五手四月十七日
衛生局回答

大阪府警察部長照會 大正五年四月十七日
一船ニ對シ二通ノ健全證書ヲ申請スルモノアリ該手数料ハ一

〔衛〕

通毎ニ徴收スヘキ義ナリヤ
衛生局長回答 大正五年四月十七日
健全證書手数料ノ件御見込ノ通

●健全證書交付手数料ニ關スル疑義ノ件

大正五年八月十五日
衛甲第二八三號

福岡縣知事照會 大正五年八月十一日
衛發第一四七三一號
明治三十五年三月内務省令第九號健全證書交付手續第三條ノ手数料徴收ノ件ニ付左ノ場合疑義相生候條何分ノ御指示相煩シ度此段及問合候也

一航海ニ付英領、米領、佛領ノ各港ニ寄港スル時ハ各官憲ニ於テ健全證書ヲ徴收スル趣ニ付該證書三通ノ必要アリテ請求セシ場合ハ一通毎ニ料金ヲ徴スルモノナルヲ將タ三通ニ對シ五圓ノ手数料ニテ差支ナキヤ

衛生局長回答 大正五年八月十五日
衛丘第二八三號

本月十一日衛發第一四七三一號ヲ以テ右ノ件御照會相成候處

右ハ一通毎ニ手数料ヲ徴收スヘキ儀ト存候

●賣藥手数料徴收ノ件

大正六年二月十六日
衛甲第二五六號

大阪府知事照會 大正六年二月七日
衛甲第七〇八號

賣藥法第十條ニ免許事項ノ變更ヲ命シタル場合ニ當該營業者カ變更免許出願ニ際シテハ官廳ノ命令ニ依リ爲スヘキ行爲ナルヲ以テ賣藥法施行規則第五條ニ依ル手数料ヲ免除シ可然乎ニ被存候ヘ共聊カ疑義有之候條貴局ノ御意見御回示相煩度候

衛生局長回答 大正六年二月十六日
衛阪第二五六號

本月七日付衛甲第七〇八號ヲ以テ標記ノ件御照會ノ趣了承右ハ手数料ヲ免除スヘキモノニアラスト存候

●賣藥營業免許(鑑札料)トシテ收入印紙ヲ貼付シタル書類ヲ收受シタルトキニ關スル件

明治三十九年九月七日
大藏省訓令第四十號

第八類 財務 第三章 使用料、手数料

明治二十五年四月大藏省訓令第十八號ヲ左ノ通改正ス
賣藥營業免許(鑑札料)トシテ收入印紙ヲ貼付シタル書類ヲ收
受シタルトキハ其ノ許可スヘキモノナルコト決定シタル後當
該主任者ニ於テ書類ノ紙面ト貼付印紙ノ彩紋トニ掛ケ黒肉ヲ
用キテ消印ヲ押捺スヘシ
前項ノ收入印紙ヲ貼付スヘキ書類ハ少クモ毎月一回上司ニ於
テ之ヲ檢閲シ貼付印紙ノ當否及ヒ消印ノ有無ヲ調査スヘシ

●賣藥部外品ノ免許手数料等ニ
關スル件

明治四十三年五月五日
勅令第二百十九號

沿革 昭和二年三月勅令第四一號 改正

賣藥部外品ノ免許手数料等ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公
布セシム

道府縣手数料令

第一條 道府縣ハ左ノ手数料ヲ徵收スルコトヲ得但シ東京府
下伊豆七島及小笠原島ニ於テハ國ニ於テ之ヲ徵收スルコト
ヲ得

一 賣藥部外品ニ關スル各種ノ免許手数料並同免許鑑札名

義書換及再渡手数料

- 一 產婆試驗手数料及產婆名簿謄本手数料
- 一 鍼術灸術按摩術「マツサージ」術柔道整復術免許試驗手
數料、同免許手数料及同免許鑑札再渡手数料
- 一 看護婦(看護婦規則ノ準用ヲ受クル者ヲ含ム)免許試驗
手数料、同免許手数料及同免狀再渡手数料
- 一 輸出獸肉罐詰其ノ他輸出獸肉製品檢査手数料及同檢査
證明手数料

一 重要物産檢査手数料及同檢査證明手数料

第二條 檢査ヲ行フ重要物産ノ種類並前條ノ手数料額及手數
料ノ免除ニ關シ必要ナル事項ハ主務大臣之ヲ定ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●賣藥部外品ノ免許手数料及手
數料免除等ニ關スル件

明治四十三年五月十三日
內務省令第十九號

沿革 昭和二年三月內務省令第一八號 改正

明治四十三年五月勅令第二百十九號ニ依ル手数料額及手数料

免除ニ關スル件左ノ通之ヲ定ム

第一條 明治四十三年五月勅令第二百十九號ニ依リ道府縣ニ
於テ徵收スル手数料ハ左記金額ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス

- 一 賣藥部外品免許手数料 一方ニ付金貳拾錢
- 一 賣藥部外品免許鑑札名義書換及再渡手数料 一回ニ付金拾錢
- 一 賣藥部外品請賣免許又ハ行商免許手数料 一方ニ付金拾錢

一 賣藥部外品請賣免許又ハ行商免許手数料 一方ニ付金拾錢

一 賣藥部外品請賣免許又ハ行商免許鑑札名義書換及再渡手
數料 一回ニ付金拾錢

一 產婆試驗手数料 金壹圓

一 產婆名簿謄本手数料 金五拾錢

一 鍼術、灸術、按摩術「マツサージ」術、柔道整復術免許試
驗手数料 各金壹圓

一 鍼術、灸術、按摩術「マツサージ」術、柔道整復術免許
手数料 各金五拾錢

一 鍼術、灸術、按摩術「マツサージ」術、柔道整復術免許
鑑札再渡手数料 各金貳拾錢

一 看護婦(看護婦規則ノ準用ヲ受クル者ヲ含ム)免許試驗手
數料 金壹圓

第八類 財務 第三章 使用料、手数料

一 看護婦(看護婦規則ノ準用ヲ受クル者ヲ含ム)免許手数料 金五拾錢

一 看護婦(看護婦規則ノ準用ヲ受クル者ヲ含ム)免許再渡手数料 金貳拾錢

一 輸出獸肉罐詰其ノ他輸出獸肉製品檢査手数料 一回ニ付金壹圓

一 輸出獸肉罐詰其ノ他輸出獸肉製品檢査證明手数料 證明書一枚ニ付金五拾錢

第二條 道府縣ハ按摩術及「マツサージ」術ニ關シ他ニ生業ヲ
營ミ難シト認ムルモノニ對シ前條ノ手数料ヲ免除スルコト
ヲ得

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●賣藥部外品免許手数料等ノ件
中疑義ノ件

明治四十四年五月一日
衛廣第四六號

第八類 財務 第三章 使用料、手数料

廣島縣知事照會 明治四十四年三月六日
明治四十四年五月發布セラレタル賣藥部外品ノ免許手数料等ニ關スル件第一號中第一號中ノ免許鑑札名義書換トアルハ單ニ讓渡讓請相續營業等ノ場合ニ於ケル書換ノミニ限ラレタル義ナルヤ又ハ單ニ改姓名若ハ製劑ノ方名改正等ノ場合ニ於ケル書換ヲモ包含セル義相生シ候條至急何分ノ御回報相成度此段及照會候也

衛生局長回答 明治四十四年五月一日
衛廣第四六號

本月六日付衛第一四一九號ヲ以テ四十三年勅令第二百十九號第一條第一號中名義書換ニ關シ御照會ノ趣了承右ハ讓渡、相續等ノ場合ニ限り改姓名、方名變更ノ如キ場合ハ之ヲ含マサル義ト御承知相成度此段及回答候也

●柔道整復術ノ試験並免許手数料徴收方ニ關スル件

大正九年五月二十日
衛岡第九二號
岡山縣知事照會 大正九年五月六日
衛第二七七七號ノ内

中ノ「鍼灸術按摩術」云々ニヨリ按摩術中ニ包含セラレ居ルモノト見做シ徴收規定ヲ制定スルモ差支無之候哉否聊カ疑義相生シ候條貴局ノ御意見承知致度此段相候也
衛生局長回答 大正十三年十一月十三日
衛醫第一四三七號
十月二十七日衛第六七二八號ヲ以テ御照會ニ係ル標記ノ件明治四十三年勅令第二百十九號第一條中ニハ柔道整復術ハ包含セサルニ付手数料徴收ハ不可然右了承相成度

●准看護婦及男子看護人手數料ノ件

大正四年十月十六日
衛奈第一三八號ノ内
(各地方長官(除奈良縣)宛)
衛生局長通牒

標記ノ件ニ付左記ノ通り照覆致候條爲參考及通牒候
奈良縣知事何 大正四年九月二十九日
本年六月内務省令第九號看護婦規則附則第六項並第七項ニヨル准看護婦及男子タル看護人ニ對シテハ明治四十三年五月勅令第二百十九號賣藥部外品其他ノ免許手数料ニ關スル件ニ據

第八類 財務 第三章 使用料、手数料

囊ニ按摩術營業取締規則ヲ柔道整復術ニ準用スル旨改正相成候處該試驗並免許手数料ハ明治四十三年勅令第二百十九號賣藥部外品ノ免許手数料等ニ關スル件ノ規定改正ナキ限り徴收シ得サルノ義ニ候哉疑義相生シ候條何分ノ御回報相煩度候
衛生局長回答 大正九年五月二十日
衛岡第九二號
本月六日付衛第二七七七號ノ内ヲ以テ御照會相成候標記ノ件ハ御意見ノ通り
追テ明治四十三年勅令第二百十九號ハ目下改正詮議中ニ候條爲念申添候

●柔道整復術試験及免許等手数料徴收ニ關スル件

大正十三年十一月十三日
衛醫第一四三七號
千葉縣知事照會 大正十三年十月二十七日
衛第六七二八號
今回本縣ニ於テ柔道整復術ノ免許試験同免許同鑑札再下付等ノ各出願者ニ對シ手数料ヲ徴收致度希望ニ有之候處柔道整復術ハ取締規定等總テ按摩術營業取締規定ヲ準用セラレ居ルヨリ本手数料徴收モ明治四十三年勅令第二百十九號第一條

リ所謂看護婦ト同様手数料ヲ徴收スルコト得ルモノニ候哉取扱上聊カ疑義ヲ生シ候ニ付至急何分ノ御指示相成度此段相候也
衛生局長回答 大正四年十月八日
電報
客月二十九日付衛五七四四號何ノ件勅令看護婦中ニハ准看護婦ヲ含ムモ男子タル看護人ヲ含マスト御承知相成度

●衛生試験所手数料ニ關スル規定

明治三十四年六月十日
内務省令第十七號
沿革 明治四一年五月内務省令第九號、大正二年七月第一號 改正
衛生試験所試験手数料ニ關スル規定左ノ通定ム
第一條 衛生試験所ニ藥品其ノ他衛生上關係アル物品ノ試験ヲ依頼スル者ハ左ノ手数料ヲ納付スヘシ
一 藥品ノ藥用適否試験ハ金一圓、但シ検査印紙ヲ貼付スルモノハ其ノ容器又ハ被包一箇ニ付別ニ金參錢以内
検査印紙貼換ハ金二十五錢及印紙ヲ貼付スヘキ容器又ハ被包一箇ニ付別ニ金參錢以内

第八類 財務 第三章 使用料、手数料

- 一 包裝ハ一箇ニ付金貳錢以上金貳拾錢以下及印紙ヲ貼付スルモノハ別ニ金貳錢
- 二 水氷及雪ノ飲料適否試験ハ化學的試験、細菌學的試験各金五拾錢
- 三 水及礦水ノ定性分析ハ金五圓定量分析金拾圓
但シ水ノ全硬度、永久硬度ノ檢定ハ各五拾錢
- 四 乳汁ノ定量分析ハ金貳圓五拾錢簡易脂肪檢定ハ金五拾錢
- 五 牛酪、煉乳、乳汁餉其ノ他乳製品ノ定量分析ハ金四圓
- 六 酒類ノ定量分析ハ金五圓
- 七 燒酎、一ブランデーノ類及酢ノ定量分析ハ金參圓
- 八 肉類及肉蒸汁ノ定量分析ハ金參圓
- 九 肉百弗類其ノ他肉製品ノ定量分析ハ金五圓
- 十 穀菽、蔬菜、果實、麵粉、素麵、茶、咖啡、菓子、調味料類ノ定量分析ハ金五圓
- 十一 砂糖、蜜、水飴類ノ定量分析ハ金參圓
- 十二 醬油、味噌類及食鹽ノ定量分析ハ金七圓
- 十三 罐詰類ノ定量分析ハ其ノ原料ノ手数料ニ準ス
但シ貯藏ノ耐否試験ハ金貳圓
- 十四 衣服料ノ纖維檢定ハ金五拾錢其ノ概量檢定ハ金貳圓

- 十五 著色料、化粧品、飲食物、飲食物用器具並ニ其ノ原料又ハ鍍布、鍍著ノ合金ニ就キ衛生上害否試験ハ金貳圓
- 十六 石鹼ノ定量分析ハ金五圓
- 十七 尿ノ糖分及蛋白質ノ有無試験ハ各金五拾錢
- 十八 石油ノ引火點檢定ハ金五拾錢
- 十九 裁判關係諸品ノ試験ハ一種ニ付金壹圓以上金貳拾圓以下
- 二十 第一號乃至第十八號ノ物品其ノ他大氣及瓦斯類、製造品又ハ天產物ノ含有成分中ノ一成分又ハ一成分以上ヲ指定シ之カ試験ヲ依頼スルモノハ定性分析ニ在リテハ一成分ニ付金壹圓一成分以上一成分ヲ増ス毎ニ金五拾錢定量分析ニ在リテハ一成分ニ付金貳圓一成分以上一成分ヲ増ス毎ニ金壹圓
但シ比重溶點沸騰點ノ檢定又ハ水分、越幾斯分、灰分ノ定量ハ各金五拾錢

〔附〕

〔附七〕

第三條 試驗其ノ他ノ急速施行ヲ依頼スル者アルトキハ衛生試驗所長ハ所務ノ都合ニ依リ之ニ應スルコトアルヘシ此ノ場合ニハ左ノ範圍内ニ於テ衛生試驗所長ノ定ムル手数料ヲ納付スヘシ

- 一 試驗ノ急速施行ハ普通手数料ノ五倍以内
但シ此ノ場合ニ於テハ検査印紙貼付ヲモ試験ニ件ヒ急速施行スルモノトス
- 二 検査印紙貼付ノミノ急速施行又ハ検査印紙貼換、印紙付藥品小分ノ急速施行ハ金三圓以内

前項ノ場合ニ於テ検査印紙貼付ニ付テハ第一條ノ規定ニ從ヒ別ニ料金ヲ納付スヘシ

第四條 報告書ノ謄本ヲ請求スル者ハ一葉ニ付手数料金拾錢其ノ翻譯文ヲ請求スル者ハ衛生試驗所長ノ定ムル所ニ依リ通ニ付手数料金五拾錢乃至金五圓ヲ納付スヘシ

第五條 試驗依頼人ノ請求ニ應シ衛生試驗所員試驗ノ爲出張シルトキハ依頼人ハ官職相當ノ旅費及ヒ試驗器具ノ運搬費ヲ負擔スヘシ

附則

第六條 本令ハ明治三十四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
第七條 明治十七年(十月)內務省告示甲第二十七號明治二十

第八類 財務 第三章 使用料、手数料

四年(七月)內務省令第十號及明治二十六年(十月)內務省令第十二號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

●内地産獸毛消毒手数料令

大正十年四月二十六日
勅令第六十七號

沿革 大正一五年四月勅令第七十七號 改正

朕内地産獸毛消毒手数料令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

内地産獸毛消毒手数料令
第一條 内地産獸毛ノ消毒ヲ行フ稅關ニ内地産獸毛ノ消毒、依頼ヲ爲ス者ハ左ノ手数料ヲ納付スヘシ

- 百斤迄 一圓
- 二百斤迄 二圓
- 五百斤迄 三圓
- 千斤迄 四圓

千斤ヲ超ユルモノニ付テハ千斤迄ハ四圓トシ其ノ千斤ヲ超ユルコト毎五百斤迄ニ付二圓ヲ加フ

瓦斯消毒ノ場合ニ於テハ前項手数料ノ五割ヲ増徴シ藥液消毒ノ場合ニ於テハ其ノ實費ヲ徵收ス

第二條 消毒ヲ依頼シタル者消毒済ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ

二日以内ニ現品ノ引取ヲ爲ササルトキハ手数料トシテ一日
毎ニ毎百斤迄ニ付五錢ヲ納付スヘシ
第三條 手数料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納付スヘシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●水泳場使用料條例ニ關スル件

昭和四年一月十一日
廣地島第一六三號

(内務省地方局長ヨリ
廣島縣知事宛知事宛回答)

水泳場使用料條例ニ關スル件

十二月五日地第九、八五一號ヲ以テ御照會有之候標記ノ件右
ハ貴官ニ於テ許可相成可然義ト存ス

地第九、八五一號

昭和年十二月五日

廣島縣知事

内務省地方局長宛

水泳場使用料條例ニ關スル件照會

市町村ニ於テ體育獎勵並保健衛生上ノ施設トシテ水泳場ヲ
設置シ一般使用者ヨリ使用料ヲ徵スヘク使用料條例ヲ設ク
ル場合該條例ハ市制町村制施行令第五十九條第三號ニ依リ
知事ニ於テ許可可然哉疑義相生候條御意見承知度候也

第四章 財務ニ關スル司法

判決例

●會計法

明治三三年
大審院判決

會計法第十條ニ所謂當該官吏トハ廣ク租稅徵收ノ資格ヲ有ス
ル者ノ謂ニシテ必シモ收入官吏ニ限ルモノニ非ス

●酒精及酒精含有飲料稅法

明治三六年
大審院判決

苟モ免許ヲ得スシテ竊ニ酒精含有料ヲ製造スルニ於テハ酒精
及酒精含有料稅法第十五條同第二條ニ從ヒ處斷スヘキモノト
ス而シテ之ヲ製造スルニ當リ納稅濟ノ清酒又ハ酒精ヲ用ユル
ト其他ノモノヲ用ユルトハ同法ノ間ハサル所ナリトス

明治三六年
大審院判決

酒精及酒精含有料稅法第八條ニ依リ免稅ヲ受ケタル酒精及ヒ
酒精含有飲料ノ原料ト雖モ其原料ヲ以テ更ニ酒精含有飲料ヲ

第八類 財務 第四章 財務ニ關スル司法判決例

製造シタルトキハ其飲料ノ造石數ニ對スル造石稅ハ之ヲ免除
セラレタルモノニ非ス

第九類 統計報告

第九類 統計 報告

第一章 統計

統計報告ニ關スル内務大臣訓示要旨並指示、注意、協議事項

●統計報告ニ關スル内務大臣訓示要旨並指示、注意、協議事項

昭和五年六月二十一日
内務大臣訓示

地方統計主任官會議開催 六月二十一日ヨリ開催セル地方統計主任官會議ニ於ケル内務大臣訓示要旨並指示、注意、協議事項左ノ如シ

一 内務大臣訓示要旨

統計事務協議ノ爲茲ニ諸君ノ會同ヲ機トシテ所懷ノ一端ヲ述ベ以テ諸君ノ留意ヲ煩ハシ度イト存シマス御承知ノ通り統計ハ行政其ノ他各般ノ施設ノ基礎トモナルベキ種メテ必須ノ資料ニアツテ社會事象ノ複雑多岐トナルニ伴ヒ其ノ必要ノ度ハ愈々大ニ加フルノテアリマス隨テ統計ノ效果ヲ舉ケ其ノ使命

〔審六〕

第九類 統計、報告 第一章 統計

ヲ完カラシムル爲メニハ常ニ社會ノ變遷推移ニ察シテ絶エス改善整備ヲ圖リ社會ノ進歩ニ適應スル調査ヲ行ハナケレバナリマセン

當省關係ノ統計事務トシテハ現在ノ處内務報告例ト港灣資源調査規則トニ依ルモノデアツテ是等ニ關シテハ常ニ改善刷新ヲ期シツツアリマスガ實務ニ當ラレル諸君カラ見テ改善ヲ要スル餘地モ尠クナイト考ヘマスカラ協議事項ハ勿論其レ以外ニ於テ尙モ統計ノ改善ニ資スベキ意見ガアリマスナラバ腹藏ナク開陳セラレテ此ノ會議ノ效果ヲ充分ニ收メタイト希望スル次第デアリマス

終リニ臨ミ一言申添エタイコトハ統計事務ハ實ニ複雑多岐ヲ極メ困難ナル仕事デアリニ拘ハラス其ノ事務ハ極メテジミテ效果モ亦直接表面ニ現ハレル事ガアリマセヌ爲メ俗ニ言フ縁ノ下ノ力持チノ感ガアリマス併シナガラ社會ノ進歩ニ伴フテ統計ノ必要ハ一層切實ニ之ヲ痛感サレルノデアリマスカラ諸君ニ於テハ其ノ責務ノ重大ナルヲ自覺セラレテ調査報告ニ關シ萬遺漏ナキヲ期セラルルハ勿論常ニ絶エズ統計ノ改善充實ニ留意セラレテ益々其ノ效果ヲ擧ゲ其ノ權威ヲ高ムル様切望シテ已マヌ次第デアリマス

指示事項

一、報告期限履行ニ關スル件

報告期限ノ履行ハ事務進捗上極メテ必要ナルニ拘ラス今尙遲延ノ尙少カラサルハ甚々遺憾トセサルヲ得ス殊ニ資源調査令ノ實施ニ伴ヒ報告期限ハ一層之ヲ恪守スルノ要アルヲ以テ之カ履行ニ關シ特ニ一般ノ注意ヲ拂ハレタシ

一、報告令内容修正ニ關スル件

報告例ノ改正ニ當リテハ其ノ程度通牒ヲ爲サシメアルニ拘ラス様式其ノ他ノ修正ヲ怠ルカ爲仍往々舊様式ニ依リ又ハ規定以外ノ事項ヲ以テ報告セラルル尙尠カラス此ノ點ニ就テハ今後特ニ留意シ必ス所定ノ様式ニ依リ報告セラレタシ

一、報告書内容検査ニ關スル件

報告書提出ニ際シ其ノ内容ノ審査疎漏若ハ校合念算ノ省略ノ爲往々照覆ヲ要スルカ如キモノアリ整理集計上支障尠カラサルヲ以テ左記事項ニ付今後格段ノ注意ヲ拂ハレタシ

- (イ) 内容ト計總計ト横計トニ付テハ校合念算ヲ嚴ニシテ不突合ノコトナカラシムルコト
- (ロ) 單位ハ必ス規定ノモノヲ用ヒラルルコト
- (ハ) 淨書ノ際記入ヲ漏シ又ハ様式所定ノ事項ヲ脱落セサル様注意スルコト

〔衛六〕

〔衛六〕

(二) 増減ノ顯著ナルモノニ對シテハ必ス備考ニ其ノ理由ヲ附記スルコト

一、警察統計報告ニ關スル件

近ク行ハルヘキ内務報告例改正ニ際シ別冊(第二) 例目中心統計報告自第三七至第四一ニ互ル警察統計調査事項ヲ之ニ加ヘラルル豫定ナルヲ以テ之方調査ヲ統計課ニ於テ擔當セラルル廳府縣ニ於テハ常ニ警察部ト連絡ヲ密ニシ敏速且正確ナル調査ノ作製ニ留意セラレタシ

一、港灣資源調査ニ關スル件

(イ) 様式第一號各項ノ調査ニ就テハ專門ニ亙ルモノアルヲ以テ統計課ニ於テ管掌セル向ニアリテハ之ヲ土木課ト連絡シテ精密正確ヲ期セラレタシ

(ロ) 港灣設備ハ十二月三十一日ニ現存スルモノハ其ノ築造物ノ永久的タルト假設タルト又規模ノ大小トチ間ハス之ヲ調査スルヲ要ス

(ハ) 地理的情況ノ調査ハ多額ノ經費ヲ要スルヲ以テ先ツ便宜簡易ナル方法ヲ以テ測定シ漸次完璧ヲ期セラレタシ
即チ例ヘハ港灣全圖作製ニ當リ實測圖ナキモノハ海面ハ海圖ヨリ陸上ハ陸地測量部圖面ヨリ所定ノ縮尺ニ擴大シ之ニ補測ヲ加ヘテ製シ又潮流潮差ノ如キニアリテハ短

第九類 統計、報告 第一章 統計

二

一、報告書調製上ニ關スル件
整理上必要アルヲ以テ製表ニ當リテハ規定ノ様式毎ニ紙數ヲ改メ作製セラルル様注意セラレタシ

二一〇一

第九類 統計、報告 第一章 統計

二、内務報告例ニ依リ從來遺達スル土木統計諸表 ニシテ様式ニ該當セザルモノ多キハ甚々遺憾トス依テ別冊第三事項ニモ適合セザルモノ多キハ甚々遺憾トス依テ別冊第三事項ニ就キ充分留意シ之レカ完備チ期セラレタシ

協議事項

一、内務報告例改正ニ關スル件
現行報告例中改正セントスル別冊(第一)事項ニ對スル意見如何

一、報告例ヲ事務、統計ノ兩報告例ニ區分方ノ件

内務報告例ノ事項ヲ其ノ目的ニ適合セシムル爲別冊(第二)ノ通之ヲ事務、統計ノ各報告例ニ改正シ以テ事務簡捷ノ實チ舉ケントス之ニ對スル意見如何

一、内務關係資源調査ニ關ルス件

本調査ニ付實察ヲ要スルノ點並其ノ他ニ對スル意見如何

●人口動態調査ノ結果表章ニ用
ウヘキ死因及疾病分類

大正十三年三月二十四日
内閣訓令第一號

人口動態調査ノ結果表章ニ用ウヘキ死因及疾病分類左ノ通定

各官廳ニ於テ調製スル統計中死亡原因又ハ疾病ニ依リテ類別スルモノハ凡テ本分類ニ據ルヘシ但シ特ニ必要アルトキハ本分類ニ據ルモノト比較對照ノ便ヲ失ハサル程度ニ各項目ヲ輯約シ若ハ細別スルコトヲ得

死因及疾病分類(縦線ヲ附シタルモノハ疾病分類ノミニ用ウ)

第一 大分類

一、流行病、地方病及傳染病

小分類番號

一乃至四二

第九類 統計、報告 第一章 統計

- 二、全身病 四三乃至六九
- 三、神経系及感覺器ノ疾患 七〇乃至八六
- 四、血行器ノ疾患 八七乃至九六
- 五、呼吸器ノ疾患 九七乃至一〇七
- 六、消化器ノ疾患 一〇八乃至一二七
- 七、泌尿生殖器ノ疾患 一二八乃至一四二
- 八、妊娠及産 一四三乃至一五〇
- 九、皮膚及皮下組織ノ疾患 一五一乃至一五五
- 一〇、骨及運動器ノ疾患 一五六乃至一五八
- 一一、畸形 一五九
- 一二、乳兒 一六〇乃至一六三
- 一三、老年 一六四
- 一四、外因死 一六五乃至二〇三
- 一五、不明ノ診斷及不詳ノ原因 二〇四、二〇五

小分類番號

- 一、腸チフス及パラチフス 一六六乃至一七二
- 再掲 腸チフス 一七三乃至一七八
- 二、發疹チフス 一七九乃至一八二
- 三、マラリア 一八三乃至一八五

第九類 統計、報告 第一章 統計

四、痘瘡	六
五、麻疹	七
六、猩紅熱	八
七、百日咳	九
八、チフテリア	一〇
九、流行性感冒	一一
一〇、コレラ	一二
一一、霍亂	一三
一二、其ノ他ノ流行病及地方病	一四、一五、一六、一七、一八、一九、二〇、二一、二二、二三、二四、二五
再掲 赤痢	一六(イ)
再掲 ベスト	一七
再掲 流行性腦脊髄膜炎	一八
一三、肺結核	一九
一四、胸膜及中樞神経系ノ結核	二〇
一五、其ノ他結核	二一
再掲 腸及腹膜ノ結核	二二
一六、癌及其ノ他ノ悪性瘍腫	二三
再掲 癌	二四
一七、腸膜炎	二五

一八、臍出血及臍軟化	二六
一九、心臓ノ器質的疾患	二七
二〇、急性氣管支炎	二八
二一、慢性氣管支炎	二九
二二、肺炎及氣管支肺炎	三〇
二三、其ノ他ノ呼吸器ノ疾患	三一
再掲 肋膜炎	三二
二四、胃ノ疾患	三三
二五、下痢及腸炎	三四
二六、蟲様突起炎及盲腸炎	三五
二七、脱腸及腸管閉塞	三六
二八、肝臓硬化	三七
二九、腎臓炎	三八
三〇、女子生殖器ノ良性腫瘍及其ノ他ノ疾患	三九
三一、産褥熱	四〇
三二、其ノ他ノ妊娠及産ニ因ル疾患	四一
三三、嚙形、先天性弱質及乳兒ニ固有ノ疾患	四二

二ノ四

七四、八三
八七、八八、九〇
九九(イ)、(ハ)
九九(ロ)、(ニ)
一〇〇、一〇一

(六)

再掲 嚙形及先天性弱質	一五九乃至一六三
三四、老衰	一五九、一六〇(イ)
三五、外因死	一六四
三六、自殺	一七五乃至二〇三
三七、其ノ他ノ疾患	一六五乃至一七四
再掲 微毒	二六乃至三〇、三八乃至四二、五〇
再掲 脚氣	乃至七〇、七二、七三、七五乃至
再掲 糖尿病	八二、八四乃至八六、八九、九一乃至
再掲 腹膜炎(産ニ因スルモノヲ除ク)	九六、一〇八乃至一一〇、一一
三八、不明ノ診断及不詳ノ原因	五、一一六、一一九乃至一二一、一
第三 小分類	二二乃至一二七、一三〇乃至一三
一、腸チフス及パラチフス	六、一四二、一五一乃至一五八
(イ) 腸チフス	三八
(ロ) 瘧疾	三五
(ハ) 赤痢	五五
(ニ) 其ノ他	五七
(イ) 肺炎併發ヲ明示セルモノ	二〇四、二〇五
(ロ) 其ノ他	二〇四、二〇五

第九類 統計、報告 第一章 統計

(ロ) パラチフス	一五九乃至一六三
二、發疹チフス	一五九、一六〇(イ)
三、再歸熱	一六四
四、マルタ熱	一七五乃至二〇三
五、マラリア	一六五乃至一七四
六、痘瘡	二六乃至三〇、三八乃至四二、五〇
七、麻疹	乃至七〇、七二、七三、七五乃至
八、猩紅熱	八二、八四乃至八六、八九、九一乃至
九、百日咳	九六、一〇八乃至一一〇、一一
一〇、チフテリア	五、一一六、一一九乃至一二一、一
一一、流行性感冒	二二乃至一二七、一三〇乃至一三
(イ) 肺炎併發ヲ明示セルモノ	六、一四二、一五一乃至一五八
(ロ) 其ノ他	三八
一二、粟粒熱	三五
一三、流行性耳不膜炎	五五
一四、コレラ	五七
一五、霍亂	二〇四、二〇五
一六、赤痢及疫痢	二〇四、二〇五
(イ) 赤痢	二〇四、二〇五
(ロ) 疫痢	二〇四、二〇五

(七)

第九類 統計、報告 第一章 統計

- 一七、ペスト
- 一八、黄熱
- 一九、黄疽出血性スピロヘータ病(ワイル氏病)
- 二〇、癩
- 二一、丹毒
- 二二、急性脊髓前角炎
- 二三、嗜眠性腦炎
- 二四、流行性腦脊髄膜炎
- 二五、其ノ他ノ流行病及地方病
 - (イ) 二口蟲病
 - (ロ) 恙蟲病
 - (ハ) 日本住血吸蟲病
 - (ニ) 其ノ他
- 二六、鼻疽及皮疽
- 二七、炭疽
- 二八、狂犬病
- 二九、破傷風
- 三〇、ミコーセ
- 再掲 アクチノミコーセ
- 三一、肺結核

- 三二、腦膜及中樞神経系ノ結核
- 三三、腸及腹膜ノ結核
- 三四、脊椎結核(ポット氏病)
- 三五、關節結核(白腫)
- 三六、其ノ他ノ臓器ノ結核
 - (イ) 皮膚及皮下組織ノ結核
 - (ロ) 骨ノ結核(脊椎骨ヲ除ク)
 - (ハ) 淋巴系ノ結核(腸間膜腺及後腹膜腺ヲ除ク)
 - (ニ) 泌尿生殖器ノ結核
 - (ホ) 其ノ他
- 再掲 結核性痔瘻
- 三七、粟粒結核
- 三八、微毒
 - (イ) 第一期
 - (ロ) 第二期
 - (ハ) 第三期
 - (ニ) 其ノ他
- 再掲 遺傳微毒
- 三九、軟性下疳
- 四〇、疥

再掲 麻疹性眼炎

- 四一、膿毒症及敗血症
- 四二、其ノ他ノ傳染病
- 四三、口腔ノ瘡及其ノ他ノ悪性腫瘍
 - 再掲 瘡
- 四四、胃、肝臓ノ瘡及其ノ他ノ悪性腫瘍
 - 再掲 食道ノ瘡
 - 再掲 其ノ他ノ瘡
- 四五、腹膜、腸、直腸ノ瘡及其ノ他ノ悪性腫瘍
 - 再掲 瘡
- 四六、女子生殖器ノ瘡及其ノ他ノ悪性腫瘍
 - 再掲 瘡
- 四七、乳房ノ瘡及其ノ他ノ悪性腫瘍
 - 再掲 瘡
- 四八、皮膚ノ瘡及其ノ他ノ悪性腫瘍
 - 再掲 瘡
- 四九、其ノ他ノ臓器ノ瘡及其ノ他ノ悪性腫瘍
 - 再掲 瘡
- 五〇、良性腫瘍(女子生殖器ノ腫瘍ヲ除ク)
- 五一、急性關節レウマチス

第九類 統計、報告 第一章 統計

- 五二、慢性レウマチス及痛風
- 五三、壞血病(スコルブト)
- 五四、ペラグラ
- 五五、脚氣
 - 再掲 乳兒脚氣
- 五六、佝僂病
- 五七、糖尿病
- 五八、貧血病及萎黃病
- 五九、粘液腺ノ疾患
- 六〇、甲状腺ノ疾患
 - (イ) バセドー氏病
 - (コ) 其ノ他ノ甲状腺ノ疾患
- 六一、副甲状腺ノ疾患
- 六二、胸腺ノ疾患
- 六三、副腎ノ疾患(アダツソン氏病)
- 六四、脾臓ノ疾患
- 六五、白血病及假性白血病
- 六六、アルコール中毒
- 六七、無機物質ニ依ル慢性中毒
- 六八、有機物質ニ依ル慢性中毒

第九類 統計、報告 第一章 統計

- 六九、其ノ他ノ全身病
- 七〇、腦炎
- 七一、腦膜炎
- 七二、脊髄癆
- 七三、其ノ他ノ脊髄及延髄ノ疾患
- 再掲 脊髄炎
- 七四、腦出血及腦卒中
- (イ) 腦出血
- (ロ) 腦栓塞及腦血栓
- 七五、原因ヲ示ササル麻痺
- 七六、麻痺性精神病
- 七七、其ノ他ノ精神病
- 七八、癲癇
- 七九、妊娠及産ニ因セサル痙攣
- 八〇、小兒ノ搐搦
- 八一、舞蹈病
- 八二、神經炎
- 八三、腦軟化
- 八四、其ノ他ノ神経系ノ疾患
- (イ) 神経痛

- 九七、鼻腔及附屬器ノ疾患
- 九八、喉頭ノ疾患
- 九九、氣管支炎
- (イ) 急性
- (ハ) 慢性
- (ロ) 其ノ他(五歳未満)
- (ニ) 其ノ他(五歳以上)
- 一〇〇、氣管支肺炎
- 一〇一、肺炎
- 一〇二、肋膜炎
- 一〇三、肺充血及肺楔狀出血
- 一〇四、肺壞疽
- 一〇五、喘息
- 一〇六、肺氣腫
- 一〇七、其ノ他ノ呼吸器ノ疾患
- 一〇八、口腔及附屬器ノ疾患
- 再掲 齒牙及齒齦ノ疾患
- 一〇九、咽頭及扁桃腺ノ疾患
- 一一〇、食道ノ疾患
- 一一一、胃及十二指腸ノ潰瘍

第九類 統計、報告 第一章 統計

- (ロ) ヒステリ
- (ハ) 神經衰弱
- (ニ) 其ノ他
- 八五、眼及附屬器ノ疾患
- 再掲 トフホーム
- 八六、耳及乳嘴竇ノ疾患
- 八七、心囊炎
- 八八、急性心臟内膜炎及急性心筋炎
- 再掲 急性心臟内膜炎
- 八九、狭心症
- 九〇、其ノ他ノ心臟ノ疾患
- 再掲 心臟瓣膜ノ疾患
- 九一、動脈ノ疾患
- 再掲 動脈硬化
- 九二、栓塞及血栓(腦ヲ防ク)
- 九三、靜脈ノ疾患
- 再掲 痔核
- 九四、淋巴系ノ疾患
- 九五、原因不明ノ出血
- 九六、其ノ他ノ血行器ノ疾患

- 一一二、其ノ他ノ胃ノ疾患
- 一一三、下痢及腸炎(二歳未満)
- 再掲 慢性下痢及腸炎
- 一一四、下痢及腸炎(二歳以上)
- 一一五、十二指腸蟲病
- 一一六、其ノ他ノ腸ノ寄生蟲病
- 一一七、蟲様突起炎及盲腸炎
- 一一八、脱腸及腸管閉塞
- (イ) 脱腸
- (ロ) 腸管閉塞
- 一一九、其ノ他ノ腸ノ疾患
- 再掲 肛門及直腸ノ疾患
- 一二〇、急性肝臟黄色萎縮
- 一二一、肝臟胞蟲
- 一二二、肝臟硬化
- 一二三、膽石
- 一二四、其ノ他ノ肝臟ノ疾患
- 一二五、脾臟ノ疾患
- 一二六、腹膜炎(産ニ因スルモノヲ除ク)
- 一二七、其ノ他ノ消化器ノ疾患

第九類 統計、報告 第一章 統計

- 一二八、急性腎臟炎
- 一二九、慢性腎臟炎(ブライト氏病)
- 一三〇、乳糜尿
- 一三一、其ノ他ノ腎臟及附屬器ノ疾患
- 一三二、排尿道ノ結石
- 一三三、膀胱ノ疾患
- 一三四、尿道ノ疾患
- 一三五、攝護腺ノ疾患
- 一三六、男子生殖器ノ疾患
- 一三七、卵巣腫脹及其ノ他ノ卵巣腫瘍
- 一三八、喇叭管炎及女子骨盤腫瘍
- 一三九、子宮ノ良性腫瘍
- 一四〇、産ニ因セサル子宮出血
- 一四一、其ノ他ノ女子生殖器ノ疾患
- (イ) 子宮炎
- (ロ) 其ノ他
- 一四二、産ニ因セサル乳房ノ疾患
- 一四三、妊娠中ノ不慮ノ出来事
- 再掲 流産
- 一四四、産ニ因スル出血

- 一四五、其ノ他ノ産ニ因スル不慮ノ出来事
- 一四六、産熱
- 一四七、産ニ因スル白股腫、栓塞及頓死
- 一四八、産ニ因スル蛋白尿及子痲
- 一四九、其ノ他ノ産後異常
- 一五〇、産ニ因スル乳房ノ疾患
- 一五一、瘰癧
- 一五二、癰
- (イ) 癰
- (ロ) 癰
- 一五三、蜂窠熱及急性膿瘍
- 一五四、白癬、禿頭病及疥癬
- (イ) 白癬及禿頭病
- (ロ) 疥癬
- 一五五、其ノ他ノ皮膚ノ疾患
- 再掲 濕疹
- 再掲 象皮病
- 一五六、骨ノ疾患
- 一五七、關節ノ疾患
- 一五八、其ノ他ノ運動器ノ疾患

- 一五九、先天性畸形
- 一六〇、先天性弱質、初生兒黃疸及鞏皮症
- (イ) 先天性弱質
- (ロ) 初生兒黃疸及鞏皮症
- 一六一、早産兒又ハ出産ニ依ル産兒ノ傷害
- 一六二、其ノ他ノ乳兒ニ固有ノ疾患
- 一六三、養育ノ不注意
- 一六四、老衰
- 一六五、毒物ニ依ル自殺
- 一六六、腐蝕性毒物ニ依ル自殺
- 一六七、毒瓦斯ニ依ル自殺
- 一六八、縊首ニ依ル自殺
- 一六九、入水ニ依ル自殺
- 一七〇、銃器ニ依ル自殺
- 一七一、刃物ニ依ル自殺
- 一七二、落下ニ依ル自殺
- 一七三、轢壓ニ依ル自殺
- 一七四、其ノ他ノ自殺
- 一七五、食物ニ依ル中毒
- 再掲 河豚中毒

- 再掲 菌毒類中毒
- 一七六、有毒動物ニ依ル中毒
- 一七七、其ノ他ノ不慮ノ急性中毒(瓦斯性ヲ除ク)
- 一七八、燒死
- 一七九、不慮ノ火傷
- 一八〇、不慮ノ窒息
- 一八一、不慮ノ有毒瓦斯中毒
- 一八二、不慮ノ溺死
- 一八三、不慮ノ銃創
- 一八四、刃物ニ依ル不慮ノ傷害
- 一八五、不慮ノ墜落死
- 一八六、鑛山及採石場ニ於ケル不慮ノ傷害
- 一八七、不慮ノ機械傷
- 一八八、轢壓ニ依ル不慮ノ傷害
- 再掲 不慮ノ轢死
- 一八九、不慮ノ獸害
- 一九〇、戰傷死
- 一九一、敵軍ニ依ル非戰鬥員ノ死刑
- 一九二、餓死
- 一九三、凍死

第九類 統計、報告 第一章 統計

第九類 統計、報告 第一章 統計

- 一九四、暑熱ニ依ル死
- 一九五、雷死
- 一九六、其ノ他ノ感電死
- 一九七、銃殺
- 一九八、斬殺
- 一九九、其ノ他ノ殺害
- 再掲 刑死
- 二〇〇、乳兒殺
- 二〇一、(イ) 骨折
- 二〇一、(ロ) 脱臼
- 二〇一、(ハ) 挫傷
- 二〇二、其ノ他ノ外因死
- 二〇三、原因不詳ノ外因死
- 二〇四、頓死
- 二〇五、不明ノ診断及不詳ノ原因
- 再掲 感冒
- 再掲 心臓麻痺
- 再掲 水腫

●公立院ニ於ケル精神病調査
票配付並ニ送付方

明治四十二年十二月
内務省令第二十七號

公私立精神病院及精神病者ヲ收容スル公私立病院ハ精神病者ノ退院毎ニ病者一名ニ付精神病者調査票一枚ヲ調製シ之ヲ半箇年分宛取纏メ一月一日ヨリ六月末日マテノ分ハ其ノ年七月末日マテ十月一日ヨリ十二月末日マテノ分ハ翌年一月末日マテニ地方廳(東京府ニ於テハ警視廳)ヲ經テ内閣統計局ニ送付スヘシ

調査票ノ用紙ハ之ヲ内閣統計局ヨリ配附ス

調査票ノ様式及記入方法ハ附録ニ依ルヘシ

本令ニ於テ精神病者ト稱スルハ精神病者監護法ニ依リ監置シタルト否ト問ハス總テ精神病ニ罹リタル者ヲ謂フ

本令ハ明治四十三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

精神病者調査票様式

精神病者調査票	
明治	年 第 號
府 縣	市 町 村
病院	大字
1. 氏名及體性	氏名 _____ 男 女 _____
2. 出生地	府縣及北海道 _____ 市 _____ 町 _____ 村 _____ 大字 _____
3. 住居地	_____
4. 發病地	_____
5. 出生ノ年月日	年 _____ 月 _____ 日 _____
6. 職業	病者ノ職業 _____ 家計ノ主ナル職業 _____
7. 戸主又ハ戸主ニ對スル關係	_____
8. 縁事上ノ關係	未婚者配偶者ノ生存スル者 離婚セシ單身者 配偶者ノ死亡セシ者
9. 宗 教	身者屬スル宗教ハ _____ 其宗教ニ對スル信仰 有 無 _____
10. 教 育	全ク文字ヲ讀ミ得ス 假字ヲ讀ミ得 漢字交リ文ヲ讀ミ得
11. 嗜 好	飲酒 常用 時々 現ニ 嘗テ 其量 _____ 不飲
	喫煙 喫 現ニ 嘗テ 不喫
12. 發病ノ年月日	年 _____ 月 _____ 日 _____ 發
13. 入院ノ年月日	明治 _____ 年 _____ 月 _____ 日 _____
14. 遺傳關係	精神病 誰カ _____ 誰カ _____ 何ヲ _____
	異常氣質 誰カ _____ 飲酒多量 誰カ _____
15. 身體的關係	自殺 誰カ _____ 犯罪 誰カ _____ 何ヲ _____
	母ハ父ノ血脈上何カ _____ 毒 酒精濫用 頭部ノ外傷 虚脱 何ノ _____
16. 精神的關係	急性傳染病 何ノ _____ 膿瘻 癩病 動脈硬化症
	妊娠 產毒 其他 _____
17. 社會的關係	一時的刺戟 感動 何ノ _____ 過勞 何ノ _____
	持續的刺戟 感動 何ノ _____ 過勞 何ノ _____
18. 病 名	其他 _____
	犯罪 種類 _____ 不良行爲 其事 _____
19. 退院(轉歸)	(1) 白癡 (2) 癡愚 (3) 變質性精神病
	(4) 早發性癡呆 (a) 破瓜性 (b) 緊張性 (c) 妄想性 (5) 個體病
20. 公費自費ノ別	(6) 躁鬱病 (a) 發揚性 (b) 鬱憂性 (c) 周期性 (d) 回歸性
	(7) 虛脫性精神病 (8) 熱性傳染病性精神病 (9) 癲癩性精神病
	(10) 癲癩性精神病 (11) 其他ノ神經病性精神病 (12) 麻痺性癡呆
	(13) 老邁性精神病 (14) 其他ノ腦病性精神病 (15) 中酒性精神病
	(16) 其他ノ中毒性精神病 (17) 以上列記外ノ精神病
	明治 _____ 年 _____ 月 _____ 日
	治癒 未治 死亡 _____ 死亡原因 _____
	公費 自費 其他 _____

第九類 統計、報告 第一章 統計

第九類 統計、報告 第一章 統計

精神病者調査票記入心得

第一條 調査票ニハ道府縣名、病院名、年次及番號ヲ記入スヘシ

番號ハ精神病者ノ治療、死亡又ハ事故ニ依ル等退院シタル順序ニ從ヒ一年間繼續スルモノトス

第二條 第一項ハ病者ノ氏名及體性ヲ記入スルヲ要ス、體性ハ男女其ノ當レル文字ノ下ニ橫線ヲ劃スヘシ

第三條 第二項、第三項及第四項ニハ病者ノ出生地、住居地及發病地ヲ劃線内ニ記入スヘシ但シ其ノ地臺灣、樺太又ハ外國タルトキハ行政區劃ニ拘ハラス其ノ地名又ハ國名ヲ記入シ航海中發病ノ場合ハ「航海中」ト記入スヘシ其ノ不詳ナル者ニ在リテハ「不詳」ト記入スヘシ

第四條 第五項ハ病者出生ノ年月日ヲ記入スヘシ日又ハ月不詳ノ者ニ在リテハ各其ノ部ニ「不詳」ト記入シ生年不詳ノ者ニ在リテハ年齢ヲ推定シ「推定年齢何歳」ト記入スヘシ

第五條 第六項ノ病者ノ從事セシ職業ヲ記入スルヲ原則トシ若シ病者自己ニ一定ノ職業無キ場合ニ於テハ「無シ」ト記入シ家計ノ主働者ノ主ナル職業ヲ記入スヘシ職業ハ農、商、工等ノ總名ニ依ラス成ルヘク細別シテ記入スヘシ

職業不詳ノ者ニ在リテハ「不詳」ト記入スヘシ

第六條 第七項ハ病者ノ一家内ニ於ケル身分即チ戶主、家族、雇人等ノ別ヲ記入スヘシ

第七條 第八項ハ病者ノ縁事上ノ關係ヲ未婚者、配偶者ノ生存スル者、離婚セシ獨身者、配偶者ノ死亡セシ獨立者ニ區別シ其ノ當レル文字ノ下ニ橫線ヲ劃スヘシ

第八條 第九項ハ病者ノ屬スル宗教及其ノ宗教ニ對スル信仰ノ有無ヲ記入スヘシ

第九條 第十項ハ病者ノ受ケタル教育ノ程度ヲ全ク文字ヲ讀ミ得ス假字ヲ讀ミ得、漢字交リ文ヲ讀ミ得ニ區別シ其ノ當レル文字ノ下ニ橫線ヲ劃スヘシ有無不詳ノ者ニ在リテハ「不詳」ト記入スヘシ

第十條 第十一項ハ病者ノ飲酒及喫煙ノ嗜好ニ付キテ入院當時現ニ其ノ嗜好アル者ハ「現ニ」ノ下ニ既ニ之ヲ廢止シタル者ハ「嘗テ」ノ下ニ橫線ヲ劃スヘシ

【補】

第十條 第十一項ハ病者ノ飲酒及喫煙ノ嗜好ニ付キテ入院當時現ニ其ノ嗜好アル者ハ「現ニ」ノ下ニ既ニ之ヲ廢止シタル者ハ「嘗テ」ノ下ニ橫線ヲ劃スヘシ

飲酒ノ嗜好アル者ニ付キテハ其ノ常用ナルカ時々ナルカヲ區別シ當レル文字ノ下ニ橫線ヲ劃シ且ツ其ノ一日ノ酒量ヲ記入スヘシ

飲酒ノ嗜好無キ者ハ「不飲」ノ下ニ、喫煙ノ嗜好無キ者ハ「不喫」ノ下ニ橫線ヲ劃スヘシ

第十一條 第十二項ハ發病ノ年月日及回数ヲ記入スヘシ發病ノ回数ハ初發、再發、三發等ニ區別シ其數ヲ「發」字ノ前ニ記入スヘシ

第十二條 第十三項ハ入院ノ年月日ヲ記入スヘシ

第十三條 第十四項ハ遺傳關係ヲ記入スヘシ

遺傳ハ少クトモ三親等以内ノ血族ニ就キテ精神病、神經病、異常氣質、飲酒多量、自殺、犯罪ノ有無ヲ明カナラシムル様其ノ當レル文字ノ下ニ橫線ヲ劃シ其ノ「誰カ」ノ部ニ血族名ヲ記入スヘシ一人ニシテ數因アリ同因ノ者二人以上アル場合ハ悉ク之ヲ列記スヘシ但シ

第九類 統計、報告 第一章 統計

第十五條 第十六項ノ病者ノ精神的原因關係ヲ記入スヘシ精神的原因關係ハ一時的精神刺激ニ因ル者ナルカ持續的精神刺激ニ因ル者ナルカヲ區別シ其ノ當レル文字ノ下ニ橫線ヲ劃スヘシ尙其ノ精神刺激ハ感動及過勞ニ別チ其ノ當レル文字ノ下ニ橫線ヲ劃シ且ツ其ノ原因ヲ「何ノ」ノ部ニ記入スヘシ

第十四條 第十五項ハ病者ノ身體的原因關係ヲ記入スヘシ身體的原因關係ハ列記中一又ハ一以上ノ當レル文字ノ下ニ橫線ヲ劃シ若シ印刷シアル文字ヲ以テ示シ能ハサル事實ナルトキハ之ヲ「其他」ノ部ニ記入スヘシ身體的原因關係不詳ノ者ニ在リテハ「不詳」ト記入スヘシ

第十三條 第十四項ハ遺傳關係ヲ記入スヘシ遺傳ハ少クトモ三親等以内ノ血族ニ就キテ精神病、神經病、異常氣質、飲酒多量、自殺、犯罪ノ有無ヲ明カナラシムル様其ノ當レル文字ノ下ニ橫線ヲ劃シ其ノ「誰カ」ノ部ニ血族名ヲ記入スヘシ一人ニシテ數因アリ同因ノ者二人以上アル場合ハ悉ク之ヲ列記スヘシ但シ

第九類 統計、報告 第一章 統計

前項ヲ以テ示シ能ハサル事實ナルトキハ「其他」ノ部ニ記入スヘシ

第十六條 第十七項ハ病者ノ社會的關係中主トシテ犯罪又ハ不良行爲ニ付キテ記入スヘシ

病者入院前ニ犯罪又ハ不良行爲アリタルトキハ其ノ當レル文字ノ下ニ横線ヲ劃シ其ノ種類又ハ事應ヲ記入スヘシ
犯罪又ハ不良行爲無キ者ニ在リテハ「無シ」ト記入シ其ノ不詳ナル者ニ在リテハ「不詳」ト記入スヘシ

第十七條 第十八項ハ十七編七目ノ病名ノ中當レル文字ノ下ニ横線ヲ劃スヘシ

病名中第四編及第六編ハ網及目ノ下ニ横線ヲ劃スルヲ原則トシ目ノ明瞭ナラサル場合ニハ網ノ下ニノミ横線ヲ劃スヘシ

病名不詳ノ者ニ在リテハ「不詳」ト記入スヘシ

第十八條 第十九項ハ入院ノ年月日ヲ記入シ且轉歸ニ付キテハ治癒、未治、死亡ニ區別シ其ノ當レル文字ノ下ニ横線ヲ劃スヘシ

死亡者ニ在リテハ其ノ直接ノ死因ヲ記入スヘシ例ハ麻痺性癱瘓ノ如キ器質的原因ヲ有スル精神病ニシテ諸症増悪シ死亡轉歸ヲ取リタル者ニ在リテハ「本病ノ爲メ」ト記入シ

又合併病ノ爲メ死亡ノ轉歸ヲ取リタル者ニ在リテハ其ノ病名ヲ記入シ若又自殺ヲ爲シタル者ニ在リテハ「自殺」ト記入スヘシ

第十九條 第二十項ハ病者ハ自費、公費又ハ其ノ他ノ費用ニ依ル入院者ナルヲ區別シ其ノ當レル文字ノ下ニ横線ヲ劃スヘシ

●精神病患者調査票配付並送付方

明治四十二年十二月二十八日
内務省訓令第九號

道府縣

本年内務省令第二十七號ニ依ル精神病患者調査票用紙ハ毎年十一月月中ニ内閣統計局ヨリ之ヲ道府縣ニ配付ス但明治四十三年分ニ限り本年十二月月中ニ配付ス道府縣ハ其ノ所管内ニ於ケル精神病院並ニ精神病者ヲ收容スル病院ノ翌年中ノ所要枚數ヲ見積リ毎年十二月月中ニ之ヲ各病院ニ配付スヘシ

各病院ヨリ送附セル精神病者調査票ハ道府縣ニ於テ其ノ枚數及番號ヲ検査シ前半年分ヲ其ノ年八年末日マテニ後半年分ヲ翌年二月末日マテニ之ヲ内閣統計局ニ送附スヘシ
精神病者調査票ハ各病院毎ニ一括ト爲シ之ニ送致目錄及病

院送致目錄ヲ添フヘシ

甲 精神病患者調査票送致目錄

明治	年	前	後	期分
精神病患者調査票送致目錄				
一	某病院	何枚		
一	某病院	何枚		
一	某病院	何枚		
一	某病院	無シ		
	備考			
道府縣名				

其ノ期間ニ全ク退院者無キ病院ニ在リテハ病院名ノ下ニ無シト記入スヘシ
備考ニハ其ノ期間ニ於ケル病院新設廢止又ハ名稱變更等ノ事實ヲ記入スヘシ

第九類 統計、報告 第一章 統計

乙 病院別精神病患者調査票送致目錄

明治	年	前	後	期分
病院別精神病患者調査票送致目錄				
一	病院名			
二	其ノ所在地名			
三	本期待調査票枚數	男女別		
四	調査票番號	自第	號至第	號
五	備考			
イ	收容シ得ヘキ患者ノ豫定數			男女別
ロ	前期ヨリ繰越患者數			男女別
ハ	本期中入院患者數			男女別
ニ	本期末殘留患者數			男女別
道府縣名				

本令ニ於ケル道府縣ノ事務ハ東京府ニ於テハ警視廳之ヲ行フ

●統計製表ノ委託ニ關スル件

昭和三年

内閣統計局ニ於テハ内閣所屬部局及職員官制第五條第二項ニ依リ各廳ニ於ケル統計製表ノ委託ニ關スル規程ヲ左ノ如ク定メタリ

統計製表ノ委託ニ關スル規程

- 第一條 各廳ハ内閣統計局ニ對シ其ノ統計ノ製表ヲ委託セムトスルトキハ本規程ノ定ムル所ニ依リ要求スベシ
- 第二條 委託廳ハ其ノ製表ノ事項及期限並經費ヲ記載シタル要求書ヲ内閣統計局ニ提出スベシ
- 第三條 内閣統計局ハ前條ノ要求書ヲ受理シタルトキハ調査ノ上直ニ其ノ諾否ヲ委託廳ニ通知スベシ
- 第四條 委託製表ニ關スル經費ハ特別ノ場合ノ外凡テ委託廳ノ負擔トス
- 第五條 本規程ニ定メナキ事項ハ内閣統計局委託廳ト協議ス

●癩患者ニ關スル統計材料ノ件

癩患者ニ關スル統計材料ヲ提供シ其統計ノ作製ヲ内閣統計局ニ依頼致度候條明年一月一日ヨリ別紙様式及其記入心得ニ依リ療養所ヲシテ之カ調査ヲナサシメ且左記順序ニ依リ發送方御取計相成度尙此際ニ限リ基礎材料トシテ本年末現在患者ニ對シ右ノ例ニ準シ療養所ヲシテ之カ調査ヲナサシメ明年一月末日マテニ其調査票ヲ取纏メ内閣統計局へ御送付相煩度依命此段及通牒候也

- 1、癩患者入院票及退院票並ニ其記入心得

- 一 療養所ハ患者ノ入院若クハ退院アル毎ニ別紙様式及其記入心得ニ依リ調査票各一枚ヲ調製シ半箇年宛取纏メ一月一日ヨリ六月末日マテノ分ハ其年七月末日マテニ七月一日ヨリ十二月末日マテノ分ハ翌年一月末日マテニ地方長官ニ進達スルコト
- 二 地方長官ハ前項ノ調査票ヲ檢査シ左ノ難形ニ依リ送致目錄ヲ添附シ直ニ内閣統計局ニ發送スルコト

明治四十三年十一月
衛第八三一八號

(東京府、大阪府、青森縣、香川縣、
熊本縣知事宛 衛生局長通牒)

目錄 雜形

送 數 目 録	何々療養所	又(ハ何々病院)
明治何年 後前分	一 癩患者入院票 自第 號 何 枚	一 癩患者入院票 自第 號 何 枚
一 癩患者退院票 自第 號 何 枚	一 癩患者退院票 自第 號 何 枚	
右 及 送 付 候 也		
年 月 日		
内 閣 統 計 局 宛		
		府 縣 名

甲 癩患者入院票

癩患者入院票	
某病院 第 號	
明治 年 第 號	
(一) 性及氏名	男 女
(二) 生年月日年.....月.....日生
(三) 發病時ノ住所府.....郡.....市.....町.....村.....
(四) 發病年月年.....月
(五) 血族近親又ハ知人中如何ノ罹リ
(六) 發病當時職業
(七) 配偶ノ關係	有 (現存、離婚、死亡) 無
(八) 生兒ノ關係	有 (現存.....死亡.....) 無
(九) 初發時ノ症狀	衄血 (屢.....稀=) 鼻塞 (強.....弱)
	斑紋初發ノ部位..... 神經症狀(知覺脫失)初發ノ部位...
(十) 入院年月日	明治.....年.....月.....日
(十一) 病 症	斑紋癩、神經癩、結節癩
(十二) 合 併 症

〔衛〕

癩患者入院票記入心得

- 第一 票ノ上部ニハ病院名、調査年次及其年次ニ於ケル番號ヲ記入スヘシ番號ハ入院ノ順次ニ依リテ附シ一年毎ニ改更スヘシ
- 第二 (一)ノ欄ニハ患者ノ體性ノ當レル文字下朱線ヲ引キ其氏名ヲ點線上ニ記入スヘシ
- 第三 (二)ノ欄ニハ患者ノ生年月日ヲ點線上ニ記入スヘシ生年月日又ハ生日不詳ノ者ニ在リテハ其點線上ニ「不詳」ト記入シ生年不詳ノ者ニアリテハ其點線上ニ「推定何才」ト記入スヘシ
- 第四 (三)ノ欄ニハ患者ノ發病時ノ住所地名ヲ點線上ニ記入スヘシ
- 府縣名、郡市名、町村名等何レカ不詳ナル者ニ在リテハ其部ノ點線上ニ「不詳」ト記入スヘシ
- 第五 (四)ノ欄ニハ發病ノ年月ヲ點線上ニ記入スヘシ年又ハ月不詳ノ者ニ在リテハ其部ノ點線上ニ「不詳」ト記入スヘシ
- 第六 (五)ノ欄ニハ患者ノ血族、近親又ハ知人中如何ナル者カ患者ノ發病當時同病ニ罹リ居リシヤ其名稱ヲ點線上ニ列記スヘシ

第九類 統計、報告 第一章 統計

血族近親及知人ノ名稱ハ左ノ別ニ依ルヘシ

- (血族) 父、母、兄弟、姉妹、父方祖父母、母方祖父母、子孫、父方伯叔父母、母方伯叔父母、遠血族 (以上列記外ノ血族ヲ包含ス)
- (近親) 夫、妻、舅姑、養父母、親族 (以上列記外ノ親族ヲ包含ス)
- (知人) 僚友 (職業又ハ作業上)、主家 (主家ノ家人)、傭人 (事業上及家庭)、師、弟子、朋友 (僚友ヲ除ク) 近隣人 (隣保ニ在リテ常ニ交際スル) 其他知人 (以上列記外ノ知人ヲ總稱ス)
- 血族近親及知人ニシテ同棲者ナリシトキハ其名稱ノ傍ニ「同棲」ト記入ヘシ、同一名稱中二人以上ノ罹病者アリシトキハ其名稱ノ傍ニ人数ヲ附記スヘシ
- 血族近親及知人中全ク罹病者ナキ者ニ在リテハ「不詳」ト記入スヘシ「無シ」ト記入シ有無不詳ノ者ニ在リテハ「不詳」ト記入スヘシ
- 第七 (六)ノ欄ニハ發病當時ノ患者ノ職業名ヲ點線上ニ記入スヘシ
- 職業名ハ農工商等ノ凡稱ニ據ラス成ルヘク細別シテ記入スヘシ

第九類 統計、報告 第一章 統計

患者自身ニ職業ヲ有セザリシ者ニ在リテハ其ノ家庭上ノ身分及職業上ノ身分ニ依リ「某業ノ家族」又ハ「某業ノ僱婢」又ハ「某業ノ従業者」又ハ「某業ノ徒弟」ト點線上ニ記入スヘシ

職業不詳ノ者ニ在リテハ點線上ニ「不詳」ト記入スヘシ

第八 (七)ノ欄ニハ印刷シアル文字ノ下ニ朱線ヲ引キ患者ハ配偶ヲ有シタル者ナルヤ否ヤノ別並ニ其配偶者ハ現ニ生存スルヤ既ニ離婚シタルヤ又ハ死亡シタルヤノ別ヲ示スヘシ

配偶トハ必スシモ戸籍上ノ配偶者ノミヲ指サス所謂内縁ノ夫妻ヲモ亦包含スルモノトス

第九 (八)ノ欄ニハ印刷シアル文字ノ下ニ朱線ヲ引キ患者ニ生兒アリタルヤ否ヤノ別並ニ其生兒ノ現在又ハ死亡ノ別ヲ示シ生存兒又ハ死亡兒ノ人数ヲ點線上ニ記入スヘシ

第十 (九)ノ欄ニハ初發時ノ症狀、中鼻腔ノ症狀、斑紋及知覺脫失初發ノ部位ヲ記入スヘシ

鼻ノ症狀ハ鼻血ハ屢々來リシヤ稀ニ來リシヤ鼻塞ハ強カリシヤ弱カリシヤノ別ヲ印刷シアル文字ノ下ニ朱線ヲ引キテ示シ鼻血又ハ鼻塞ナカリシ者ニ在リアハ其部ノ點線上ニ「無シ」ト記入シ鼻血又ハ鼻塞ノ有無不明ノ者ニ在リテハ其

ノ點線上ニ「不詳」ト記入スヘシ斑紋初發ノ部位ハ其部ノ點線上ニ成ルヘク詳細ニ記入シ其部位不明ナル者ニ在リテハ同ク點線上ニ「不詳」ト記入スヘシ

神經症狀(知覺脫失)初發ノ部位ハ其部ノ點線上ニ成ルヘク詳細ニ記入シ其部位不明ナル者ニ在リテハ同シク點線上ニ「不詳」ト記入スヘシ

第十一 (十)ノ欄ニハ入院ノ年月日ヲ點線上ニ記入スヘシ

第十二 (十一)ノ欄ニハ印刷シアル文字ノ下ニ朱線ヲ引キ入院當時ノ病症ノ別ヲ示スヘシ

病症ノ別ハ左記ニ依ルヘシ

(斑紋癩) 斑紋ノ著明ナル者ヲ云フ

(神經癩) 斑紋不明トナリ神經症狀(知覺脫失)著明ナル者ヲ云フ

(結節癩) 斑紋及神經症狀ノ有無ニ拘ラス結節又ハ滲潤アル者ヲ云フ

第十三 (十二)ノ欄ニハ入院當時患者ノ有シタル癩以外ノ併發症ヲ點線上ニ記入スヘシ

併發症若シニ以上アルトキハ其總テヲ列記スヘシ

乙癩患者退院票

〔備四〕

癩患者退院票	
某病院	
明治 年 第 號	
(一) 性及氏名	男女
(二) 入院年月日	明治...年...月...日
(三) 病症	斑紋癩・神經癩・結節癩
(四) 退院年月日	明治...年...月...日
(五) 退院ノ事由	治癒未治(事故) (逃亡) 死亡
(六) 死亡ノ原因

3、癩患者退院票記入心得

- 第一 票ノ上部ニハ病院名、調査年次及其年次ニ於ケル番號ヲ記入スヘシ
- 第二 番號ハ退院ノ順次ニ依リテ之ヲ附シ一年毎ニ改更スヘシ
- 第三 (一)ノ欄ニハ患者ノ體性ノ當レル文字ノ下ニ朱線ヲ引キ其氏名ヲ點線上ニ記入スヘシ
- 第四 (二)ノ欄ニハ入院ノ年月日ヲ點線上ニ記入スヘシ
- 第五 (三)ノ欄ニハ印刷シアル文字ノ下ニ朱線ヲ引キ病症ノ別ヲ示スヘシ

第九類 統計、報告 第一章 統計

- 第五 (四)ノ欄ニハ退院ノ年月日ヲ點線上ニ記入スヘシ
- 第六 (五)ノ欄ニハ印刷シアル文字ノ下ニ朱線ヲ引キ何レカ當レル退院ノ事由ヲ示スヘシ
- 第七 (六)ノ欄ニハ死亡者ニ於ケル死亡ノ原因ト爲リタル病名又ハ事故ヲ點線上ニ記入スヘシ
- 第八 剖檢ヲ行ヒタルモノニ在リテハ病名又ハ事故ノ傍ニ括弧ヲ附シ(剖檢)ト記入スヘシ

●教育慈惠ニ關スル統計表式ノ件

大正六年二月
發乙第三〇號

(各地方長官宛
地方衛生局長通牒)

廳府縣統計書ニ掲載相成候標記事項ノ統計ハ其ノ表式區々ニシテ之ヲ集計スル上ニモ不便尠カラズ候處客年十月内閣統計局ニ於テ統計主任協議會ヲ開キ指示セラレタル事項ヲ同年十二月十八日ヨリ二十日ニ涉リ官報彙報欄官廳事項中ニ掲載有之候ニ付自今右事項ヲ統計書ニ掲載相成候場合ハ可成該表式ニ依リ調製セラレ候様致度

●農林省統計樣式

大正十四年十月二十八日
農林省令第二十五號(抄錄)

備考	詰													
	計	其 ノ 他	蔬 菜	果 實	カ マ ボ コ	サ ザ エ	ア ハ ビ	ク デ ラ	カ ツ ヲ	サ バ	イ ロ シ	カ ニ	マ ス	サ ケ

二十(注意)

- 一、自家用ハ調査ヲ要セス
- 二、製造場數ハ其ノ年ニ於テ作業ヲ爲シタル場數ヲ記載スヘシ
- 三、乳製品、肉製品又ハ罐詰ノ製造場ニシテ他ノ一方ノ作業ヲ兼ヌル場合ニ於テモ場數ハ各別ニ之ヲ計上スヘシ
- 四、人造バタートハ乳脂以外ノ動物脂肪ニ若干ノ乳脂ヲ混シ又ハ之ヲ混セスシテ製造シ其ノ外觀恰モバター狀ヲ呈スルモノヲ謂フ
- 五、乳製品ノ其ノ他ニハヨーグルト (Yoghurt) ケフ菲尔 (Kephir) 等ヲ、肉製品ノ其ノ他ニハソーセージ (Sausage) ショルダー (Solder) 等ヲ記載スヘシ
- 六、數量ハ罐又ハ容器ノ目方ノミヲ除キ内容ノ重量ニ依ルヘシ

●資源調査法

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル資源調査法ヲ號可シ茲ニ之ヲ公布セシム

資源調査法

- 第一條 政府ハ人的及物的資源ノ調査ノ爲必要ナルトキハ個人又ハ法人ニ對シ之ニ關スル報告又ハ實地申告ヲ命スルコトヲ得
- 第二條 前項ノ資源調査ノ範圍、方法其ノ他必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第三條 當該官吏又ハ吏員ハ人的及物的資源ノ統制運用計畫

第九類 統計、報告 第一章 統計

- ノ設定及遂行ニ必要ナル資源調査ノ爲必要ナル場所ニ立入り、検査ヲ爲シ、調査資料ノ提供ヲ求メ又ハ關係者ニ對シ質問ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニハ其ノ證券ヲ携帯スヘシ
- 第三條 工業的發明ニ係リ其ノ特殊ナル業務上ノ秘密ニ屬スル事項又ハ設備ニシテ命令ニ定ムルモノニ付テハ第一條ノ報告若ハ實地申告ヲ命シ又ハ前條ノ規定ニ依リ検査ヲ爲シ、調査資料ノ提供ヲ求メ若ハ關係者ニ對シ質問ヲ爲スコトヲ得
- 第四條 第一條ノ規定ニ依リ報告又ハ實地申告ヲ命セラレタル者營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有セサル未成年者若ハ禁治産者ナル場合又ハ法人ナル場合ニハ其ノ法定代理人

又ハ理事、業務ヲ執行スル社員、會社ヲ代表スル社員、取締役、業務擔當社員其ノ他法令ノ規定ニ依リ法人ヲ代表スル者ニ於テ報告又ハ實地申告ヲ爲スノ義務ヲ有ス

第五條 第一條ノ規定ニ依リ命セラレタル報告若ハ實地申告ヲ爲サス又ハ虛偽ノ報告若ハ實地申告ヲ爲シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條 第二條ノ規定ニ依ル當該官吏又ハ吏員ノ職務執行ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シ、調査資料ノ提供ヲ爲サス若ハ虛偽ノ調査資料ヲ提供シ又ハ質問ニ對シ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條 當該官吏若ハ吏員又ハ其ノ職ニ在リタル者本法ニ依ル職務執行ニ關シ知得シタル個人又ハ法人ノ業務上ノ秘密ヲ漏洩シ又ハ竊用シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス當該官吏又ハ吏員第三條ノ規定ニ違反シタルトキ亦同シ

職務上前項ノ秘密ヲ知得シタル他ノ公務員又ハ公務員タリシ者其ノ秘密ヲ漏洩シ又ハ竊用シタルトキ罰前項ニ同シ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和四年勅令第三百二十六號ヲ以テ昭和四年十二月一日ヨリ施行)

朕資源調査令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

資源調査令

第一條 內閣總理大臣ハ資源調査法ノ施行ヲ統轄ス

第二條 各省大臣資源調査法第一條第二項ノ命令ヲ發セントスルトキハ內閣總理大臣ニ協議スヘシ

第三條 各省大臣ハ別表ノ定ムル所ニ依リ定期ニ人的及物的資源ノ統制運用計畫ノ設定及遂行ニ必要ナル資源調査ヲ行ヒ內閣總理大臣ニ報告スヘシ

第四條 各省大臣前條ノ資源調査ヲ行フニ付必要アリト認ムルトキハ關係各廳ニ對シ調査報告ヲ求ムルコトヲ得

第五條 各省大臣第三條ノ資源調査ヲ行フニ付第二條ノ規定ニ依ル命令ニ依ラスシテ必要ナル資料ヲ整備セントスルトキハ內閣總理大臣ニ協議スヘシ

第六條 內閣總理大臣人的及物的資源ノ統制運用計畫ノ設定及遂行ニ付必要アリト認ムルトキハ第三條ノ規定スルモノノ外臨時ニ關係各廳ニ對シ資源ノ調査報告ヲ求ムルコトヲ得

第七條 資源調査法第二條ノ證票ハ別記様式ニ依リ資源局ニ於テ之ヲ交付ス

第八條 工業的發明ニ係リ其ノ他特殊ナル業務上ノ秘密ニ屬

●資源調査令

昭和四年十一月二十日
勅令三百二十九號

第九類 統計、報告 第一章 統計

スル事項又ハ設備ニシテ資源調査法第三條ノ規定ノ適用ヲ受クヘキモノニ付テハ主務大臣之ヲ指定ス
主務大臣前項ノ指定ヲ爲サントスルトキハ内閣總理大臣ニ協議スヘシ

第九條 本令中各省大臣又ハ主務大臣ノ職務ハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、關東州及南滿洲鐵

道附屬地ニ在リテハ關東長官、樺太ハ在リテハ樺太長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官之ヲ行フ
附則
本令ハ昭和四年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス
軍需調査令ハ之ヲ廢止ス

擔任職	調査報告事項	摘要	調査期日	報告期日
内務省	上水道(内閣總理大臣ノ指定スルモノ) 一 水源、貯水、送水、淨水 及配水設備 イ 水源設備 ロ 貯水設備 ハ 送水設備 ニ 淨水設備 ホ 配水設備 二 給水入口 三 上水道圖	水源ノ種類、取水能力及實際ノ月別取水容量ヲ記載スヘシ 最大有效貯水量ヲ記載スヘシ 設備ノ種類、送水能力及實際ノ月送水量ヲ記載スヘシ 濾過能力及實際ノ月別濾過水量ヲ記載スヘシ 濾過アル場合ニ於テハ其ノ種類ヲ附記スヘシ 配水池、配水塔及高架水槽ノ容量並ニ配水幹線ノ配水能力及實際ノ月別配水容量ヲ記載スヘシ 計畫上ノ給水人口及一年ノ給水量ヲ記載スヘシ 内閣總理大臣ノ指定スル所ニ依リ一水源設備(二貯水設備(三)導水線及送水線(四)淨水設備(五)配水設備(六)配水	十二月末日	翌年十月末日

擔任職	調査報告事項	摘要	調査期日	報告期日
警察	一 警察職員 イ 官職別員數 ロ 兵役關係者 二 警察官署配置圖 警察電話回線圖 三 消防(内閣總理大臣ノ指定スルモノ) イ 消防職員 イ 官職別員數 ロ 警視廳官制及特設消防署規定ニ依ル職員(消防員ヲ除ク)中兵役關係者數 二 消防機關配置圖	幹線(制水弁ノ位置ヲ附記スヘシ)ヲ記載シ作製ス 道府縣別ニ記載スヘシ 以テ之ニ代フルコトヲ妨ケス 現ニ其ノ職ニ在ル者ニ付記載スヘシ 歸休兵並ニ豫備兵及巡査ニ區別スヘシ ニ限リ兵役關係者トシテ陸軍及海軍ニ區別シ陸軍關シテハ之ヲ教育者ト未教育補充兵トニ區別シ 道兵、電信兵、戰車兵、自動車兵、飛行兵及氣球兵、鐵道兵、中自動車兵、戰車兵、自動車兵(各兵科ニ屬スル者)ニ區別シ 長官並ニ其ノ他ノ指定スル所ニ依リ作製スヘシ 右ニ同シ 第二回以後ノ報告ハ圖面ノ場合ニ於テハ異動報告ヲ以テ之ニ代フルコトヲ妨ケス 現ニ其ノ職ニ在ル者ニ付記載スヘシ 警視廳官制及特別消防署規程ニ依ル職員ニ付テハ消防部長、警視、消防司令、消防士、消防機關士及消防手ニ付、消防組員中常備ノモノニ付テハ組頭、小頭及消防手ニ付區別シテ記載スヘシ 警察職員兵役關係者ノ例ニ依リ記載スヘシ 内閣總理大臣ノ指定スル所ニ依リ(一)消防署ノ配置(二)自動車等ノ配置ヲ記載シ作製スヘシ 病床十箇以上ヲ有スル病院ニ付記載シ道府縣別ニ取	十二月末日	翌年六月末日
醫院	病院(軍用ノモノヲ除ク)	内閣總理大臣ノ指定スル所ニ依リ(一)消防署ノ配置(二)自動車等ノ配置ヲ記載シ作製スヘシ 病床十箇以上ヲ有スル病院ニ付記載シ道府縣別ニ取	十二月末日	翌年十月末日

第九類 統計、報告 第一章 統計

第二章 報告

●墓地火葬場及屠場使用料許可ノ場合報告ノ件

明治四十年十月二十九日
地甲第七三號

(各府縣知事宛
地方衛生主税局長通牒)

今般墓地、火葬場、屠場使用料ノ新設増額變更等ノ許可權委任相成候處右使用料額ハ其施設及土地ノ情況ニ依リ同一ナル能ハス要ハ其地方ノ實況ニ適當シ苛重ニ渉ルナキヲ要スルモノナレハ其邊宜シク御留意御取扱若シ左ノ金額ヲ超ヘ許可相成候場合ハ其要領ヲ記シ其都度御報告有之度依命此段及通牒候也

墓地使用料	壹坪ニ付	金參圓
火葬場使用料	屍壹ニ付	金參圓
屠場使用料	屠殺ヲ含ムモノ	壹頭ニ付 金貳圓五拾錢
	屠場使用ノミノモノ	壹頭ニ付 金壹圓五拾錢

追テ條例廢止ノ條例ノ許可ニシテ元ト主務大臣ノ許可シタル條例ノ廢止ニ係ル場合ハ本文同様御報告有之度此段申添候也

●墳墓地其他ノ新設又ハ其變更等許可シタル場合稅務署ニ通知ノ件

明治四十四年二月
內務省訓第九三號

府縣社地、鄉村社地、招魂社又ハ墳墓地ノ新設又ハ其變更等ヲ許可シタル場合ニ於テ有租地力免租地ト爲ルトキ又ハ免租地力有租地ト爲ルトキハ其都度郡、市町村、字地番、地目、段別又ハ坪數及許可年月日等ヲ記シ圖面ヲ添ヘ所轄稅務署ニ通知スヘシ
右訓令ス

●清酒其他防腐劑發賣許可ノ際ハ所轄稅務監督局ヘ通報ノ件

(衛)

大正三年九月
衛省第六九七號

(各地方長官宛
衛生局長通牒)

本件ニ關シ別紙寫之通り大藏省ヨリ照會ニ付之ニ相當スルモノ許可セラレタルトキハ該通報方可然御取計相成度
(別紙)

近頃清酒又ハ醬油ノ防腐劑、清澄劑、除酸劑等トシテ諸種ノ藥品ヲ調製販賣スルモノ少カラス候條酒、醬油ノ營業者ニ於テ不知不識此等ノ藥品ヲ使用シ往々稅法ノ規定ニ違反スル場合有之稅務當局ニ於テモ亦徵稅ノ取締上誠ニ遺憾ニ存居候若シ此等藥品ヲ發賣セラル、初ニ當リ稅務當局ニ於テ其ノ品質成分效能等ヲ知悉シ稅法トノ關係ニ稽ヘ豫メ營業者ニ注意スルト共ニ適當ノ取締ヲ爲スコト、セハ官民共ニ便利ト存候間爾今各府縣ニ於テ右等藥品ノ發賣ヲ認許セラレタルトキハ其ノ品名、發賣者住所、氏名等ヲ所轄稅務監督局ヘ通報セラル、様特ニ御配慮相煩シ度此段及照會候也(大藏省主税局長ヨリ衛生局長宛)

●メチールアルコール(木精)含

第九類 統計、報告 第二章 報告

有物發見報告方ニ關スル件

大正元年八月九日
衛發第二一號

(各地方長官宛
衛生局長通牒)

メチールアルコール(木精)含有物發見ニ關シ從來其都度御報告ノ處特別(別紙様式ニ記載セル品種以外ノモノヲ云フ)ノモノヲ除ク外自今其義ニ及ハス候條當分ノ間別紙様式ニ倣ヒ半ケ年分宛取纏メ御報告相成度尤本年分(既ニ報告済ノモノヲ含ム)ハ取締規則施行前後ニ區別シ十二月末日迄ノ分ヲ一表ニ纏メ明年一月三十日限り御差出相成度此段及通牒候也

メチールアルコール(木精)含有物發見報告表

何年 自何月 至何月
廳 名

品	種	試驗個數	發見個數
酒	精		
葡萄酒			

●傳染病患者及病原體保有者週報報告ノ件

大正十三年六月二十六日
衛發第三〇七號

(各地方長官宛
衛生局長照會)

大正七年十二月二十七日衛發第九六四號及本年三月十一日衛發第一〇〇號ニ依リ報告相成居候傳染病患者及病原體保有者旬報ハ之ヲ改メテ來ル七月五日(土曜日)ニ終ル一週間ニ於ケルモノヲ最初トシ爾後每一週間ノモノニ付報告相成度追テ本文ノ通改メタルハ國際聯盟事務局へ各國ヨリ爲ス報告ハ週報ヲ以テスルノ例ニ有之此ノ例ニ做フテ便宜ト認メタルニ由ル儀ニ候條御含ミ相成度

大正十三年九月四日衛發第一〇〇號

(地方長官宛
衛生局長通牒)

傳染病々原體保有者週報ニ付テハ從來本年三月十一日衛發第一〇〇號照會ノ様式ニ依リ報告相成居候處爾今各病原體保有

者及發病者ノ下段ニ患者週報ニ準シ(本年ハ三月十一日以降)累計ヲ記入相成度

大正十三年十二月十三日

(各道府縣衛生課長宛
衛生局防疫課長通牒)

傳染病患者週報並同病原體保有者週報ニ記入スヘキ累計ハ十二月二十七日ニ終ル一週間ノモノヲ打切リ十二月二十八日ヨリ明年一月三日ニ終ルモノヨリ累計ヲ更メラレ候様致度爲念

追テ病原體保有者週報ハ異動ナキ場合ハ患者週報ニ其ノ旨添記スル等ノ方法ヲ以テシ且ツ傳染病患者週報ト同時ニ報告相成度申添候

●傳染病發生ノ場合臺灣總督府へ通報方

明治四十年九月十一日
臺甲第六五號

(衛)

(衛)

(大阪、神奈川、兵庫、長崎、廣島、福岡、熊本、佐賀、鹿兒島、沖縄)ノ府縣長官宛 衛生局長通牒
今般臺灣總督府民政長官ヨリ同地ノ一般豫防及海港檢疫施行上必要ノ趣ヲ以テ左記ノ傳染病發生ノ際ハ同總督府及基隆海港檢疫所へ通知ノ儀傳達方依頼有之候ニ付テハ該病初發ノ際ハ電報ニテ其他ハ時々書面ヲ以テ無漏通報相成様致度此段及通牒候也

左記

虎列刺、痘瘡、猩紅熱、「ペスト」、黃熱

●本邦駐在外國官憲へ法定傳染病直接通報方ノ件

大正十四年七月十三日
衛防第五四三號

(各地方長官宛
衛生局長通牒)

標記ノ件ニ關シ秋田縣知事ヨリノ照會ニ對シ別紙ノ通及回答候ニ付テハ貴官ニ對シ外國官憲ヨリ照會有之候場合ニ於テハ右ニ依リ御取計相成候

第九類 統計、報告 第二章 報告

衛生局長回答 大正十四年七月十三日
衛防第五四三號
標記ノ件ニ關シ四月二十七日附ヲ以テ照會有之候處右ハ外國海港等ニ於テ自然本邦内各地ヲ傳染病流行地ニ指定セラルル場合ヲ多カラシメ對外移民並ニ貿易等ニ關係スル次第モ有之候ニ付テハ法定傳染病ノ眞症患者數ニ限リ貴官ヨリ直接通報セラル、モ差支無之候條御了知相成度
追而本件通報先御報告相成度
(秋田縣照會略ス)

●類似虎列刺患者報告方省略ノ件

明治三十五年十二月
內務省訓第一一五四號

從來類似虎列刺發生ノ場合ニ於テ報告例ニ依リ報告シ來リタル向モ之アリシ處該症ハ急性胃腸炎所謂霍亂ト同病異名ニ付爾今報告ニ及ハス
右訓令ス

三九

●虎列刺患者發生及轉歸報告方
ニ關スル件

明治三十六年八月二十二日
衛發第二六七號

(各地方長官宛
衛生局長通牒)

虎列刺患者報告方區々ニ相成リ取扱上差支ヲ生シ候ニ付當分ノ内眞症患者發生シタルトキハ電報ヲ以テ其郡市町村名患者數ヲ報告シ又書面ヲ以テ眞症、疑似症共ニ其狀況及患者ノ轉歸ハ其都度御報告相成度此段及通牒候也

●虎列刺日報ノ様式ニ關スル件

大正九年六月三十日
衛發第四七七號

(各地方長官宛
衛生局長通牒)

虎列刺發生ノ場合ハ電報ノ外日報相成居候處右日報ハ將來別記書式ニ依リ御通報相成候様致度

追テ從來ノ日報用紙印刷餘部有之候向ハ右用紙ニ今回改正シタル事項適宜記入ノ上御通報相成差支無之候條申添候

〔衛〕

別記

虎列刺日報

大正 年 月 日 府 縣

計	郡	郡	市	眞症 疑似	新患者	本年初發以來累計		現在 患者	新保 菌者	保菌者 累計	保菌者 現在
						患者	死亡				
〃〃	〃〃	〃〃	〃〃								

備考
注意

- 一、保菌者ニシテ發病シタル場合ハ患者欄へ記入ト同時ニ保菌者累計欄ヨリ之ヲ除クコト
- 二、流行ノ特ニ著シキ郡ニ在リテハ備考欄ニ其ノ町村名及患者數ヲ記載スルコト

●「ペスト」疑似症患者電報報告ノ件

明治三十四年七月
衛甲第四〇號

(内務總務
局長通牒)

「ペスト」疑似症患者ノ發生有之候節ハ取敢ヘス電報報告ノ上尙其症候系統及鏡檢結果等ハ書面ヲ以テ詳細御報告相成度此段及通牒候也

●臺灣ヨリ來ル船舶中ヨリ「ペスト」罹病者發見ノ場合民政長官へ通報ノ件

明治三十三年六月
衛甲第七二號

(衛生局長
通牒)

臺灣總督府ヨリ照會之次第モ有之候ニ付爾今臺灣ヨリ來リタ

ルモノニシテ航海中若クハ上陸後十日以内ニ「ペスト」ニ罹リタルモノヲ發見セントキハ直ニ同府民政長官へ御通知相成度此段及通牒候也

●海外諸港又ハ臺灣ヨリ來ル船舶ノ上陸人中「ペスト」其他ノ傳染病發生ノ場合急報ニ關スル件

明治三十七年一月
兵甲第一五號ノ内

(衛生局長
通牒)

傳染病患者發生ニ關スル通報方ニ付テハ傳染病豫防法施行規則第一條規定ノ次第モ有之臨機相當御措置相成リ居ル義ト存候得共海外諸港又ハ臺灣ヨリ來航セル船舶ノ上陸人中「ペスト」、虎列刺、黃熱等ノ患者發生シ若ハ注意ヲ要スル事實アリタル場合ニ於テハ其發病ノ月日系統其他參考トナルヘキ狀況等直ニ右船舶ノ寄港及出向地其該患者ニ關係アル地ノ廳府縣ニ急報相成リ尙同時ニ本省ヘモ報告方御取計相成度爲念此段

及通牒候也

●「ペスト」患者及有菌鼠發見ノ場合通知ノ件

明治四十二年八月二日
衛省第六七六號

(衛生局長
通牒)

今般(韓國内部次官)ヨリ依頼有之候條貴管下ニ於テ自今「ペスト」發生並同有菌鼠發見ノ場合ハ其都度發生地名及其員數ヲ記シ直接同次官宛御通知相成様取計ハレ度此段及通牒候也

●猫畜飼養ト「ペスト」トノ關係ニ關シ調査報告ノ件

明治四十一年七月二十日
衛發四二五號

(大阪、兵庫、神奈川、長崎
奈良ノ府縣長官宛
衛生局長照會)

拜啓愈御清詳大賀仕候陳者猫畜飼養ト「ペスト」トノ關係ニ付調査致度存候ニ付テハ左記事項御取調相就キ候ハハ御回報相煩度尙今般「ペスト」アリタル場合又ハ除鼠の消毒方法御施行ノ際ハ該事項ニ付御注意ノ上隨時御報告相成候様致度右御依頼旁得貴意候

- 一 猫畜ヲ飼養セル家ニシテ「ペスト」患者又ハ「ペスト」鼠ノ發生シタルモノアラハ其家ノ職業、建坪概數並其所在地及發生年月
- 二 猫畜ヲ飼養セル家ニ除鼠の消毒方法ヲ施行シタル場合ノ除鼠成績並其家ノ職業、建坪概數及飼養數
- 三 各有病地及其ノ附近市町村ノ戸數ト當該市町村ノ飼猫概數

●痘瘡患者報告方ノ件

大正六年二月七日
衛發第七三號

(各地方長官宛
衛生局長通牒)

痘瘡患者發生ノ場合ハ毎日電報ノ外別紙様式ニ依リ日報相成度

痘疹患者日報

月 日 何 縣府

郡市別	發生	死亡	全治	初發以來累計		現在
				患者	死亡全治	
何市	真					
何市	疑					
何郡						
計						

備考

發生ノ狀況ヲ詳記スルコト

〔備〕

●結核又ハ「トラホーム」豫防法
施行細則中ノ規定ニ關シ通牒
之件

大正十年六月二十九日
衛發第一一〇號

各地方長官宛
山形、長野、岩手、山梨、大分、和歌山、滋賀、
愛媛、福井、神奈川、宮城、各縣
衛生局長通牒ニハ同様ノ趣旨通牒セルヲ以
テ除ク

府縣ノ制定ニ係ル結核又ハトラホーム豫防法施行細則中醫師
ニ對シ患者又ハ死者ノ所在地氏名年齢等ヲ警察官署ニ届出又
ハ通報スヘキ義務ヲ負ハシメタル向有之候得共法規ニ依リ此
等ノ義務ノ履行ヲ強制スル現在ノ狀況ニ於テハ却テ豫防ノ目
的ニ副ハサル結果ヲ生スルノ虞モ可有之被存候ニ付テハ右等
ノ規定ヲ設ケタル向ニ對シテハ適當ノ時期ニ於テ修正相成候
様致度依命及通牒候條御了知相成度

●結核健康診断及「トラホーム」
検診成績報告ノ件

大正十一年九月二十日
衛乙發第四三號

(各地方長官宛
衛生局長通牒)

結核豫防法第四條第一項第一號ニ據ル健康診断及トラホーム
豫防法第四條第一項第一號ニ據ル検診ニ關スル成績ハ爾今別
紙様式ニ依リ年二期(自一月一日至六月三十日分ハ七月末日
翌年一月末日迄ニ)御報告相成度
追テ大正十年中ニ於ケル成績表ニ準シ十月末日迄ニ御回報
相成度

〔備〕

第九類 統計、報告 第二章 報告

(様式)

結核健康診断成績表

種別	性別	健康診断ヲ受ケタル人員	患者ト決定セラレタル人員	従業禁止ヲ命シタル人員	備考	大正八年十月二十四日發給第三〇號衛生局長依命通牒第三項(甲)ノ一									
						(甲)ノ二	(甲)ノ三	(甲)ノ四	病毒蔓延ノ虞アル場所ニ居住シ若ハ其ノ場所ニ於テ職業ニ従事スル者	計女男	計女男	計女男	計女男		
計	計女男														

トラホーム検診成績表

種別	性別	検診ヲ受ケタル人員	患者ト決定セラレタル人員			従業停止ヲ命セラレタル人員	備考
			重症	輕症	疑似		
接客業者	別女男						
工場従業者	別女男						
壯丁							
其他	計女男						
計	計女男						

自大正 至大正

年年

月月

日日

備考

徴兵適齡ニ達セムトスル者又ハ徴兵延期者ニ對現在適齡者ト同様又ハ特別ニ豫備検診ヲ施行セラルル向ニ在リテハ其數壯丁ノ欄ニ掲記アリタシ

第九類 統計、報告 第二章 報告

(備考)

- 一、二、三、四、第四表ニ同シ
- 四、「其他斯種團體設立ニ係ルモノ」ノ治療所數ニ付テハ其ノ内譯ヲ備考欄ニ記載スルコト

●人及獸類脾脫疽發生ノ場合報告方ノ件

昭和四年九月二十八日
衛乙發算三三號

(内務省衛生局長ヨリ
廳府縣長官宛報告)

人及獸類脾脫疽發生ノ場合報告方ノ件照會
人及獸類ニ脾脫疽發生ノ場合ハ爾今左記事項其ノ都度報告相成度

追テ大正十五年以降昨年迄ノ分ニ付テハ郡市別並月別ニ其ノ發生數御取調ノ上報告相成度尙本年一月以降九月末迄ノ分ニ付テハ本文ニ準シ取調メ報告相成度

記

- 一、人ノ脾脫疽發生ノ場合
- イ、患者ノ住所職業氏名年齢
- ロ、發生並發見月日
- ハ、傳染系統及發生狀況

●開業醫師、齒科醫師及産婆ナキ町村並ニ公費補助開業醫師、齒科醫師及産婆調査報告ノ件

昭和五年三月二十日
衛乙發第一一號

(内務省衛生局長
廳府縣長官宛)

開業醫師、齒科醫師及産婆ナキ町村並ニ公費補助開業醫師、齒科醫師及産婆調査ノ件

標記ノ件ニ關シ至急調査ノ必要有之候間左記事項取調ノ上速ニ御回報相煩度

(一)開業醫ナキ町村調

昭和五年三月一日現在

郡	町村名	人口	醫師在住地ヨリ民家迄ノ最近並ニ最遠距離		備考
			何々村	人	
何々郡					

計					
---	--	--	--	--	--

備考

- 一、齒科醫師、産婆ニ關シテハ本表ニ準シ調査ノコト
- (二)公費補助開業醫師調 昭和五年三月一日現在

郡	町村名	補助開業醫師數	町村補助金額	府縣補助金額	補助率及條件	備考	何々郡	
							何々村	人
計								

備考

- 一、將來補助費ヲ支出シ開業醫師及齒科醫師設置ノ必要アル見込町村モ之ニ準シ調査トシテ調査ノコト
- 一、齒科醫師産婆モ本表ニ準シ調査ノコト
- 一、補助規定其ノ他參考トナルベキ事項アラバ添付ノコト

●醫師會、齒科醫師會及藥劑師會ノ施設事項調査ノ件

昭和五年五月十二日
衛乙發第一八號

(内務省衛生局長ヨリ
廳府縣長官宛照會)

醫師會、齒科醫師會及藥劑師會ノ施設事項調査ノ件
左記事項ニ關シ昭和二年以降ニ於テ議決又ハ施行セルモノア
ラバ其内容詳細取調御回報相成度
追テ各醫師會、齒科醫師會及藥劑師會ノ昭和五年度豫算明
細書一部御送付相成度申添候

記

- 一、道府縣都市區醫師會
 - 一、醫事衛生ノ研究及施設ニ關スル事項
 - 一、救療ニ關スル事項
- 二、道府縣都市齒科醫師會
 - 一、齒科醫事衛生ノ研究及施設ニ關スル事項
 - 一、救療ニ關スル事項
- 三、道府縣藥劑師會

- 一、藥事衛生ノ研究施設ニ關スル事項
- 一、施藥ニ關スル事項

●獸醫、蹄鐵工免狀等廢棄

其他報告方

明治三十五年八月一日
農商務省訓令第十六號

北海道廳 府縣

獸醫、蹄鐵工免狀又ハ其假免狀ヲ受ケタル者ニシテ廢業死亡
若クハ免狀ノ有効期限經過ノ爲之ヲ返納スル場合自今其廳ニ
於テ免狀ヲ燒棄シ毎年一月及ヒ七月前半年分ヲ左ノ書式ニ依
リ報告スヘシ

明治何年上(下)半季獸醫(蹄鐵工)免狀廢棄報告

免狀番號	族	籍	氏	名	事	由

【衛七】

第十類 警察 察

第十類 警察

第一章 通規

第一節 官制

●警察講習所官制

大正七年五月二十二日
勅令第百五十五號

沿軍 大正一二勅令第二七八號、一三年第三二二號 改正
朕警察講習所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

警察講習所官制

第一條 警察講習所ハ内務大臣ノ管理ニ屬シ警察官吏若ハ消防官吏又ハ警察官吏若ハ消防官吏タルヘキ者ニ警察及消防ニ關スル學術並其ノ運用ヲ教授スル所トス
第二條 警察講習所ニ左ノ職員ヲ置ク
所長 一人
教授 專任四人
奏任 二人

第十類 警察 第一章 通規 第一節 官制

助教授 專任二人

書記 專任二人

第三條 所長ハ内務省高等官ヲ以テ之ニ充ツ内務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所務ヲ掌理ス

第四條 教授及助教授ハ上官ノ指揮ヲ承ケ教授ヲ掌ル

第五條 書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第六條 警察講習所ニ所務ヲ輔ケシムル爲顧問ヲ置クコトヲ得

顧問ハ學識經驗アル者ノ中ヨリ内務大臣之ヲ囑託ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●警察官署名稱ノ件

大正六年十一月二十一日
内務省訓令第五號

沿軍 昭和二年内務省訓令一三號 改正 廳府縣

明治三十五年六月内務省訓令第十三號警察官署名稱ニ關スル件左ノ通改正ス
警察官署名稱ハ其ノ所在市區又ハ町村名ヲ冠セシムヘシ但

第十類 警察 第一章 通規 第二節 官制

シ土地ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ市區又ハ町村内ニ於ケル字其ノ他ノ地名ヲ冠セシムルコトヲ得
警察署ノ名稱中他ノ地方ニ同一ノモトアルトキハ前項ノ制限ニ拘ラス他ノ名稱ヲ冠セシムルコトヲ得其ノ新ニ警察署ノ名稱ヲ附スル場合ニ付亦同シ
警察官署ニハ門又ハ表入口若ハ其ノ上部ニ署名ヲ表示スヘシ

●警部補派出ニ關スル件

大正三年十月十五日
內務省訓令第十九號

廳府縣 檉 太 廳
東京府ヲ除ク

警部補派出ニ關スル件左ノ通定ム
第一條 土地狀況ニ依リ必要アルトキハ警察署又ハ〔警察分署〕所在地以外ノ地ニ警部補派出所ヲ設クルコトヲ得
第二條 警部補派出所ニ配置セラレタル警部補ニ對シテハ一又ハ二以上駐在巡查組合ノ區域ニ依リ受持區域ヲ定メ其ノ區域内ニ於ケル巡查ニ對スル監督ノ責ニ任セシムヘシ
第三條 本令施行ノ爲必要ナル規定ハ廳府縣長官之ヲ定メ內務大臣ニ報告スヘシ

附 則

本令ハ大正四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●廳府縣巡查定員令

大正十五年六月三日
勅令第四百四十一號

朕大正五年勅令第三十號廳府縣巡查定員ノ件改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

廳府縣巡查定員令

第一條 廳府縣巡查ノ定員ハ警部補ヲ通シ左ノ定限内ニ於テ土地ノ狀況ヲ斟酌シ內務大臣之ヲ定ム
市ニ於テハ人口三百乃至八百ニ付 一人
市以外ノ地域ニ於テハ人口六百乃至二千ニ付 一人
第二條 東京府ノ市以外ノ地域ニ付テハ當分ノ內前條市ニ於ケル定員ノ例ニ依ル
沖繩縣ノ市ニ付テハ當分ノ內前條市以外ノ地域ニ於ケル定員ノ例ニ依ルコトヲ得
第三條 發習中ノ巡查及請願ニ依リ配置スル巡查ハ之ヲ定員外トス

〔舊〕

第四條 本令ハ當分ノ內東京府小笠原島及伊豆七島ニ配置スル巡查ニ付テハ之ヲ適用セス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
大正十二年勅令第四百四十五號ハ之ヲ廢止ス

●地方警察職員制

昭和四年四月十七日
勅令第七十八號

朕地方警察職員制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

地方警察職員制

第一條 警察ニ關スル事務又ハ技師ニ從事セシムル爲北海道地方費又ハ府縣費ヲ以テ道廳、警視廳又ハ府縣（東京府ヲ除ク）ニ通シテ左ノ職員ヲ置クコトヲ得
事務職員
地方警察書記 專任二百五十九人以内 判任官待遇
技術職員

第十類 警察 第一章 通規 第二節 官等等級、俸給諸給

二〇一

地方警察技師 專任四十八以内 奏任官待遇
地方警察技手 專任五百五十八人以内 判任官待遇
前項職員ノ道廳、警視廳及各府縣ノ定員ハ內務大臣之ヲ定ム

地方待遇職員令第九條但書ノ規定ニ依リ俸給ヲ受ケス又ハ最低金額ヨリ低キ俸給ヲ受ケル第一項ノ職員ニシテ他ノ官職ニ在ル者ノ員數ハ主トシテ從事スル事務又ハ技術ノ職員ノ定員ノ内トシ其ノ他ノ職員ノ定員ノ外トス
第二條 地方警察書記ハ上官ノ命ヲ承ケ警察ニ關スル事務ニ從事ス

第三條 地方警察技師及地方警察技手ハ上官ノ命ヲ承ケ警察ニ關スル技術ニ從事ス

附 則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●他廳府縣警察官吏ノ派遣ヲ求ムル場合ニ於テ内務大臣ノ指揮ヲ受ケルノ件

明治四十三年十一月十日
内務省訓第五五四號
本年十一月勅令第四二七號第一項ニ依リ災害豫防又ハ取締上必要アル場合ニ於テ應援ノ爲メ廳府縣ヨリ警察官吏ノ派遣ヲ求ムルトスルトキハ豫メ派遣ヲ求ムヘキ廳府縣長官ト協定ヲ遂ケ必要ノ事由及官職別所要人員ヲ具シ直チニ本大臣ノ指揮ヲ受ケヘシ
右訓令ス

●南洋テニアン警察官派出所設置

昭和五年二月七日
南洋廳告示第一號
昭和五年二月十日ヨリサイパン支廳管内テニアン島ソソソニテニアン警察官派出所ヲ設置シテニアン島及アギーガン島一圓ヲ其ノ管轄區域トス
テニアン巡查部長派出所ハ之ヲ廢止ス

●南洋テニアン警察官派出所規定

昭和五年二月七日
南洋廳訓令第一號
サイパン支廳
テニアン警察官派出所規程左ノ通定ム
テニアン警察官派出所規程

第十類 警察 第一章 通規 第二節 官等等級、俸給諸給

【第五】

●警部補ノ俸給及給與ニ關スル件

明治四十三年三月八日
勅令第十七號
警部補ノ俸給及給與ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
〔警部補ノ月俸ハ十五圓乃至三十圓トス〕
前項ノ外警部補ノ給與ニ關シテハ巡查給與令ヲ準用ス但シ第一條乃至第四條、第十三條、第十四條ノ規定及休職給ニ關スル規定ハ此ノ限ニ在ラス

附則
本令ハ明治四十三年勅令第十二號、明治四十三年勅令第十三號及明治四十三年勅令第十四號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

三

● 巡查、看守等ノ待遇相當等級ニ關スル件

大正十一年二月二日 勅令第三百十五號

沿章 昭和四年一二月勅令三六七號 改正

陸軍 巡查、看守、憲兵上等兵、陸軍警査、海軍警査、陸軍監獄看守、海軍監獄看守、貴族院守衛、衆議院守衛及判任官ノ待遇ヲ受ケル消防手ノ待遇相當等級ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

巡查、看守、憲兵上等兵、陸軍警査、海軍警査、陸軍監獄看守、海軍監獄看守、貴族院守衛、衆議院守衛及判任官ノ待遇ヲ受ケル消防手ノ待遇相當等級ハ判任官三等以下トシ文武判任官等級區分ノ例ニ依ル

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

● 巡查給與令

明治三十九年九月二十六日 勅令第二百五十九號

沿章 明治四四年勅令第七六號、大正六年第一九一號、七年第二四三號、八年第三五一號、九年第三三三號、一二年第四四一號 改正

陸軍 巡查給與令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

巡查給與令

第一條 巡查ノ月俸ハ三十圓乃至七十圓トス但シ巡查部長タル巡查、月俸ハ其ノ最上額ヲ八十圓トス 最上額ヲ受ケ二年ヲ超エ事務練熟優等ナル巡查ニハ月額七圓以内ヲ加給スルコトヲ得但シ巡查部長タル巡查ニハ月額十圓以内ヲ加給スルコトヲ得 教習中ノ巡查ノ月俸ハ二十圓乃至三十圓トス

第二條 (削除)

第三條 月俸ノ増給ハ十圓ヲ超ユルコトヲ得ス

第四條 巡查部長タル巡查及刑事通譯其ノ他特別ノ技能ヲ有スル巡查ニハ前條ノ規定ヲ適用セス特別ノ事由アル場合ニ於ケル巡查ノ増給ニ付亦同シ

第四條ノ二 功勞記章ヲ付與セラレタル巡查ニハ一箇月二十圓以内ノ功勞加俸ヲ給ス

第四條ノ三 同一廳府縣ニ於テ五年以上勤続シ行狀方正勤務勉勵事務熟達ノ巡查ニシテ廳府縣長官ニ於テ其ノ精勤ヲ表

〔衛三〕

彰シタル者ニハ一箇月十圓以内ノ精勤加俸ヲ給スルコトヲ得 精勤加俸ヲ受クル者ニシテ他ノ廳府縣ニ轉勤シタルモノニ付亦前項ニ同シ

第四條ノ四 功勞加俸ヲ受クル巡查功勞記章ノ返納ヲ命ラレタルトキ又ハ精勤加俸ヲ受クル巡查其ノ成績佳良ナラスト認メラレタルトキハ其ノ加俸ノ支給ヲ廢止ス

功勞加俸又ハ精勤加俸ヲ受クル巡查懲戒處分ヲ受ケタルトキハ其ノ加俸ノ全部又ハ一部ノ支給ヲ廢止スルコトヲ得

第五條 休職巡查ニシテ陸海軍ヨリ受クル俸給又ハ給料ノ月額休職ヲ命セラレタル當時ノ月俸額ヨリ寡少ナルトキハ其ノ不足額ニ相當スル金額以内ノ休職給ヲ給スルコトヲ得

第六條 刑事通譯其ノ他特別ノ技能ヲ有スル巡查ニハ一箇月五十圓以内ノ特別手當ヲ給スルコトヲ得

第七條 非番ノ日ニ於テ臨時勤務ニ服シタル巡查ニハ一日二圓以内ノ勤務手當ヲ給スルコトヲ得

第八條 訓練中ノ巡查ニハ一箇月二十圓以内ノ訓練手當ヲ給スルコトヲ得

第九條 巡查ニハ一箇月二十四圓以内ノ宿料ヲ給スルコトヲ得

第十類 警察 第一章 通規 第二節 官等等級、俸給諸給

第十條 月俸ハ新任、増俸、減俸及復職ノ場合ニ於テハ其ノ翌日ヨリ、退職ノ場合ニ於テハ其ノ當日迄日割ヲ以テ給ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ其ノ全額ヲ給ス

一 職務上ノ傷痕又ハ疾病ニ由リ其ノ職ニ堪ヘス誤職シタル者

二 廢廳ノ爲退職シタル者

三 身體若ハ精神ノ衰弱又ハ事務ノ都合ニ依リ退職ヲ命セラレタル者

四 休職ヲ命セラレタル者

五 在職中死亡シタル者

休職當月復職シタル者ニハ其ノ月ノ月俸ハ更ニ之ヲ給セス

第十一條 休職給ハ休職ノ翌月ヨリ之ヲ給ス

休職給、手當金及宿料ノ給與ニ關スル規定ハ廳府縣長官之ヲ定ム

第十二條 病氣ノ爲執務セサルコト六十日ヲ踰ユル者又ハ私事ノ故障ニ依リ執務セサルコト二十日ヲ踰ユル者ハ日割ヲ以テ月俸ノ半額ヲ減ス但シ公務ノ爲傷痕ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ又ハ眼忌ヲ受クル者ハ此ノ限ニ在ラス

附則 (大正九年勅令第三百三十三號) 本令ハ大正九年八月分ヨリ之ヲ適用ス

第十條 警察 第一章 通規 第二節 官等等級、俸給諸給

従前ノ規定ニ依リ俸給ヲ受クル者別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ現ニ受クル俸給額ニ付大正九年勅令第二百五十七號附則第二項第五號乃至第七號及第三項ノ規定ニ準シ算出シタル金額ノ俸給ヲ受クルモノトス但シ其ノ金額ニ圓未満ノ端數アルトキハ之ヲ圓位ニ滿タシム

● 巡查俸給支給規則

大正元年十一月十六日
内務省令第十三號

巡查俸給支給規則左ノ通之ヲ定ム

巡查俸給支給規則

第一條 巡查ノ月俸ハ毎月末日ヲ以テ支給ノ定日トス但シ廳府縣長官土地ノ狀況ニ依リ必要アリト認ムルトキハ毎月二十五日以後ニ於テ適宜支給日ヲ定ムルコトヲ得
前項支給ノ定日休日ニ相當スルトキハ順次繰上トス
第二條 月俸支給方ハ別ニ規定スルモノノ外文官俸給支給細則ノ例ニ依ル

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

● 警察官吏内國旅費規則

大正九年十一月五日
内務省訓令第二十五號
大正一〇年二月内務省訓令第三號、一四年二月第五號、昭和五年五月第一四號改正
廳 府 縣

警察官吏内國旅費規則左ノ通改正ス

警察官吏内國旅費規則

第一條 警察官吏ノ旅費ハ本則ニ定ムルモノノ外内國旅費規則及内務省所管旅費規定ニ依ル
第二條 巡查ノ普通旅費額ハ第一號表ニ依リ之ヲ支給ス
第三條 官設鐵道ニ依リ旅行シタル者ニ對シテハ通行税及急行料金ヲ除ク外左ノ區分ニ依リ鐵道賃ヲ支給ス但シ特別ノ事由ニ依リ割引鐵道乘車券ヲ使用セサル場合ニハ各其ノ額ヲ支給ス
一、一等運賃ヲ支給スヘキ場合ニ在リテハ其ノ運賃ノ半額
二、二等運賃ヲ支給スヘキ場合ニ在リテハ其ノ運賃ノ六割三分
三、三等運賃ヲ支給スヘキ場合ニ在リテハ其ノ運賃ノ額

〔附五〕

第四條 警察官吏ノ所屬警察署又ハ(警察分署)管轄内ニシテ在勤廳所在地ノ市町村外ニ出張ノ場合ハ普通旅費ヲ支給セス左ノ區分ニ依リ日當及宿泊料ヲ支給ス但シ特別用務ノ爲臨時出張シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

區分	日當一日ニ付	宿泊料一夜ニ付
警視	二圓 以內	六圓 以內
警部及警部補	一圓十錢 以內	四圓 以內
巡查	九十錢 以內	三圓十錢 以內

第五條 警察官吏ニ對スル所屬警察署又ハ(警察分署)管轄内ノ巡廻旅費ハ月額ヲ定メ之ヲ支給スルコトヲ得

前項ノ月額ハ特別ノ事由アルモノヲ除クノ外警視、警部及警部補十八圓以內巡查十二圓以內トス

第六條 在勤廳所在地ノ市町村内ノ出張ニシテ用務ノ性質上已ムヲ得ス宿泊ヲ要シタルトキハ第四條ニ定ムル宿泊料ヲ支給スルコトヲ得

月額旅費ノ支給ヲ受クル者公務ノ都合ニ依リ宿泊シタルトキ亦前項ニ同シ

第六條ノ二 第四條及第五條ノ場合ニ於テ巡廻地ノ狀況又ハ

第十條 警察 第一章 通規 第二節 官等等級、俸給諸給

〔附八〕

公務上ノ必要ニ依リ已ムヲ得ス鐵道、船舶又ハ車馬ニ依リ旅行シタルトキハ鐵道賃及船賃ニ付テハ本則ニ依ル定額、車馬賃ニ付テハ其ノ實費ヲ支給ス

第七條 警察官吏朝鮮、臺灣、樺太又ハ千島國內旅行スルトキハ内務省所管朝鮮、臺灣、樺太又ハ千島國內旅費、規則ノ定ムル所ニ依リ旅費ヲ支給ス但シ巡查ノ旅費額ニ付テハ本則第二號表ニ依ル

第八條 旅費ハ地方ノ狀況ニ依リ廳府縣長官ニ於テ之ヲ減少シ又ハ其ノ全部若ハ一部ヲ支給セサルコトヲ得

附 則

本則ハ大正九年六月一日以後ノ旅行ニ付之ヲ適用ス但シ第三條ノ規定ハ同年十一月五日以後ノ旅行ニ付之ヲ適用ス
大正九年六月一日前轉任ヲ命セラレ又ハ新ニ任用セラレ若ハ任用スル爲召喚セラレタル者同日以後ニ著任シタルトキハ本則ニ依リ赴任手當及移轉料ヲ支給ス
前項ニ規定スル者ノ家族大正九年六月一日以後新任地ニ到着シタルトキハ本則ニ依リ家族移轉料ヲ支給ス
大正七年九月内務省訓令第十四號ハ之ヲ廢止ス

第一號表

區別	鐵道貨	船貨	車馬賃		日當一日ニ付				宿泊料一夜ニ付	食卓料一夜ニ付	移轉料
			一里ニ付	甲	乙	甲	乙	甲			
甲額	二等運賃	二等運賃	七十五錢	二圓五十錢	二圓二十錢	四圓五十錢	四	四	二	四	百圓以内
乙額	三等運賃	三等運賃	六十錢	二	一圓八十錢	三圓五十錢	三圓十錢	一圓二十錢	五	五十圓以内	

- 一、巡查部長タル巡查及月俸五十五圓以上ノ巡查ニハ甲額、月俸五十五圓未滿ノ巡查ニハ乙額ヲ支給ス
- 二、鐵道運賃ニハ通行稅ヲ含ム
- 三、鐵道運賃ノ等級ニ階級ニ區分スルモノニ在リテハ甲額ヲ受クル者ハ上級ノ運賃、乙額ヲ受クル者ハ下級ノ運賃、其ノ等級ヲ設ケサルモノニ在リテハ其ノ乘車ニ要スル運賃ヲ支給ス
- 四、特別ノ必要ニ依リ上級車ニ乘車シタルトキハ其ノ運賃ヲ支給ス
- 五、八十五軒以上ノ旅行ニ在リテハ普通急行料金を支給ス
- 六、百七十軒以上ノ特別急行列車ニ乘車シタル場合ニ於テハ特別急行料金を支給ス
- 七、特別ノ必要ニ依リ普通急行列車又ハ特別急行列車ニ乘車シタル場合ニ於テハ前二號ノ規定ニ拘ラス其ノ乘車ニ要スル急行料金を支給ス
- 八、船賃ハ旅客運賃(通行稅、艀船賃、棧橋賃、寢食料及普通運賃ノ外別ニ食費ヲ)及急行料金を依リ鐵道貨ノ例ニ準シ之ヲ支給ス

第二號表

區別	車馬賃	日當一日ニ付				食卓料	支度料
		一里ニ付	甲	乙	甲		
甲額	一圓二十錢	三圓五十錢	二圓五十錢	六	二	七十五圓以内	
乙額	九十錢	二圓五十錢	二	四圓五十錢	一圓二十錢	三十五圓以内	

- 一、鐵道貨、船賃ハ第一號表ニ依ル
- 二、巡查部長タル巡查及月俸五十五圓以上ノ巡查ニハ甲額、月俸五十五圓未滿ノ巡查ニハ乙額ヲ支給ス

●警察官吏内國旅費規則ニ關スル件

昭和五年八月十一日
内務省發警第三三號

(内務省警保局長ヨリ
廳府縣長官宛通牒)

警察官吏内國旅費規則ニ關スル件
官吏其ノ他ノ者ニ對スル旅費減額ニ關スル件七月十日内務省發會第五一七號ヲ以テ通牒相成候處警察官吏内國旅費規則第一號表中ノ乙額ヲ支給スヘキ者ニ付テハ事情已ムヲ得サルモノト認ムル場合ニ限リ前記通牒中一項末段ノ趣旨ニヨリ現在

第十類 警察 第一章 通規 第二節 官等等級、俸給諸給

●旅費支給ニ關スル件

昭和五年七月一日
群第七號

(内務省警保局長ヨリ
群馬縣知事宛回答)

旅費支給ニ關スル件回答
六月二十日附會第一五五號ヲ以テ會計課長宛御照會ニ係ル條記ノ件ハ別紙大正十四年九月九日千葉縣照會ニ對スル回答ニ依リ御了知相成度
追テ明治三十三年八月十日官崎縣知事電報照會兼任地滞在
中日當宿泊料支給方ノ件ハ現在ニ於テモ適用可然モノト存

會第一五五號

昭和五年六月二十日

群馬縣知事

内務大臣官房會計課長宛

旅費支給ニ關スル件照會

警部補ノ在勤セサル署(乙地)ニ於テ署長(警部)病氣療養中
警察部(甲地)勤務者(警視、警部)ヲシテ該署兼務ヲ命ジタ
ル場合旅費支給上ニ付左記ノ通疑義相生候間至急何分ノ御
回示相煩度

記

- 一、兼務者甲乙兩地間ヲ旅行シタル場合日常及往復ノ鐵道
賃、車馬賃ヲ支給シ差支無之哉
 - 二、兼務者乙地ニ滞在シタル場合滞在中ノ日常及宿泊料ハ
支給スヘカラサルモノトシテ取扱可然哉
 - 三、兼務者乙地ニ滞在中日常及宿泊料ヲ支給セサル場合ハ
現行本縣旅費規程ニ依ル月額旅費全額ヲ支給シ差支無之
哉
- 尙明治三十三年八月十日宮崎縣電報照會兼任地滞在中日常
宿泊料支給方ノ件ニ關シ同日ノ貴官回答ハ現在ニ於テモ適
用可然モノニ候ヤ

大正十四年九月九日千葉縣照會ニ對スル回答

(警發乙第一〇六六號警保
局長ヨリ千葉縣知事宛)

旅費支給方ニ關スル件回答

八月五日附會第七四九號會計課長宛御照會ニ係ル概記ノ件
左記ニ依リ御了知相成度

記

本件ノ場合ハ現在勤務ヲ其儘トシ署長事務取扱ヲ兼務セシ
ムル場合ナルヲ以テ警察署へ出張中ハ管内巡廻共普通旅費
ノ支給ヲ要シ巡廻月額旅費ハ之ヲ支給スルノ限ニアラス
右旅費ニシテ他トノ均衡上過給ニ亘ルト認ムル場合ハ警察
官内國旅費規則第八條ニ依リ適當ノ制限ヲ加フルコトヲ得
大正十四年八月七日千葉縣照會(會第七四九號千葉縣ヨ)
旅費支給方ニ關スル件
縣廳所在地外ノ警察署長タル警部病氣引籠中署長事務取扱
ヲ本廳勤務ノ警部(巡查教習所教官)ニ命シ取扱期間中警察
署ニ引續キ勤務セシムル場合ノ旅費支給方ニ關シ差懸リ左
記甲乙丙ノ如キ疑義ヲ生シ候モ甲ノ如ク取扱相成可然哉至
急何分ノ御回答相成度此段及照會候也
附記七月二十日病氣引籠中署長事務取扱ヲ命ス

〔審八〕

〔審八〕

記

- 甲、事務取扱ヲ命シタル警部出張下命ニヨリ警察署ニ滞在ス
ル場合ハ滞在中管内巡廻ニハ署長相當ノ月額旅費及本廳間
ノ往復ニハ普通旅費ヲ支給スヘキモノトス
- 乙、本件ノ場合ハ教習所教官ト署長事務取扱ノ職ヲ並有スル
モノナルヲ以テ警察署ニ引續キ滞在勤務ノ期間ニ對シテ出
張滞在ナルニ依リ本人相當ノ普通旅費及管内巡廻ニ對シテ
ハ署長相當ノ月額旅費ヲ支給スヘキモノトス
- 丙、署長事務取扱ヲ命シタル警部ハ警察署ニ引續キ滞在ヲ要
シ事實上教習所教官タルノ事務ヲ探ルコト能ハサルモノナ
レハ警察署へノ旅費ハ赴任ナルニ依リ赴任旅費ヲ支給シ事
故止ミテ本廳又ハ他ニ勤務ヲ命シタル場合ハ相當赴任旅費
ヲ支給スヘキモノトス

●警察官吏公務運賃割引證及囚

徒運賃割引證様式

昭和五年五月三十一日
内務省訓第七四三號

廳府縣(但東京ヲ除ク)

警察官吏公務運賃割引證及囚徒運賃割引證様式左記ノ通相定

メ昭和五年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正二年四月内務省訓第二一〇號警察官吏等鐵道乘車公務證券
及證明書様式ハ之ヲ廢止ス

第一號 警察官吏公務運賃割引證様式

第十類 警察 第一章 通規 第二節 官等等級、俸給諸給

用紙鹿ノ子又ハ洋紙厚紙 寸法縦十二糎横九糎

表

昭 和 年 月 日 發 行	發 行 擔 任 官 職 氏	區	氏 使 用 者 年 身 齡 分	間	至 自	區 界
		乘 車 引 船 等 率 級	等	年	年	
名 印		公務運賃割引證				

裏

注 意

一、本證ハ公務ヲ以テ旅行ノ場合ニ限り使用シ得ルモノニシテ番號、使用者ノ身分、姓名、年齢及發行日付ハ發行者之ヲ記入シテ本人ニ交付スルモノトス

二、本證ニ依リ往復乗車券ヲ購求セントスルトキハ本證ニ枚ヲ提出スルモノトス

三、本證ニ依リ團體乗車券ヲ購求セントスルトキハ一人一乗車船區間ニ付本證一枚ヲ提出シ當該團體ノ引率者又ハ代表者ノ割引券氏名欄ニ「何某外何名」ト記載シ其ノ他ノ割引證ニ對シテハ乗車船區間、身分、氏名等ノ記載ヲ省略スルコトヲ得

四、本證ハ他人ニ讓渡スルコトヲ得ス

五、本證記載事項ヲ訂正シタル場合ニ於テハ左ノ證明アルモノニ限り之ヲ有効トス

(一) 發行者ノ記入スヘキ事項ニ付テハ發行者ノ認印

(二) 使用者ノ記入スヘキ事項ニ付テハ使用者ノ認印

六、本證ノ有効期間ハ發行ノ日共三十日トス

備考 一、表面左方下部ヨリ右方上部ニ幅〇・二糎ノ赤色斜線一條ヲ劃ス

第十類 警察 第一章 通規 第二節 官等等級、俸給諸給

表

昭 和 年 月 日 發 行	發 行 者	乘 車 引 船 等 率 級	年 使 用 者 氏 名 齡 分	間	至 自	區 界
		三	年	年	割	
名 印		公務運賃割引證				

第二號 因徒運賃割引證樣式

用紙及寸法 第一號割引證ニ同シ

備考 一、表面左方下部ヨリ右方上部ニ幅〇・二糎ノ赤色斜線一條ヲ劃ス

四、本證ハ他人ニ讓渡スルコトヲ得ス

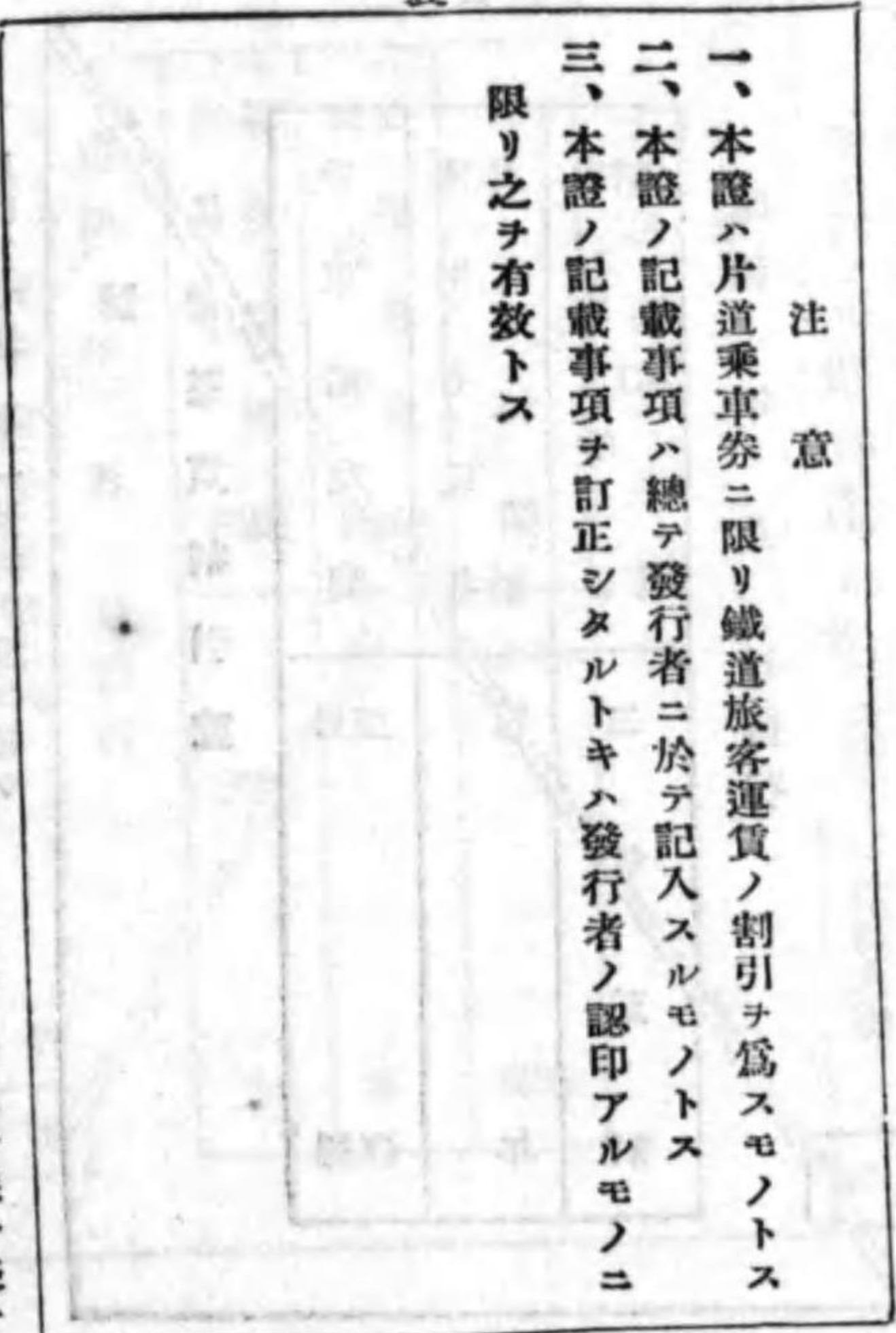
五、本證記載事項ヲ訂正シタル場合ニ於テハ左ノ證明アルモノニ限り之ヲ有効トス

(一) 發行者ノ記入スヘキ事項ニ付テハ發行者ノ認印

(二) 使用者ノ記入スヘキ事項ニ付テハ使用者ノ認印

六、本證ノ有効期間ハ發行ノ日共三十日トス

裏



- 注意
- 一、本證ハ片道乗車券ニ限り鐵道旅客運賃ノ割引ヲ爲スモノトス
 - 二、本證ノ記載事項ハ總テ發行者ニ於テ記入スルモノトス
 - 三、本證ノ記載事項ヲ訂正シタルトキハ發行者ノ認印アルモノニ限り之ヲ有效トス

備考 表面左下部ヨリ右方上部ニ幅〇・二種ノ赤色斜線一條ヲ劃ス

●警察官吏鐵道乗車公務運賃割引證ニ關スル件

昭和五年五月三十一日
 内務省鐵警第二號
 (内務省警保局長ヨリ
 廳府縣長官宛(但東京ヲ除ク)通牒)

鐵道乗車公務運賃割引ニ關スル件
 警察官吏鐵道乗車公務運賃割引證並因徒運賃割引證様式別紙訓令ノ通相定メラレ候ニ付至急新様式ノ割引證調製使用セシメラレ度候右申進候
 追テ新様式ノ割引證調製迄當分ノ間從來ノ公務證券ヲ其ノ儘使用シ一、二等ニ乗車差支無之候條爲念

〔第六〕

●巡査給與品及貸與品規則

明治三十年十月二日
 勅令第三百三十九號

巡査、明治三六年勅令第九〇號、四一年第一三五號、大正二年六一號、七年第三六二號、一一年第三五九號、一二年第四九號、昭和二年第八號、三年六月第一〇七號改正

既巡査給與品及貸與品規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

巡査給與品及貸與品規則

第一條 巡査ニ給與スヘキ品目左ノ如シ

第十類 警察 第一章 通規 第二節 官等級、俸給諸給

- 一 帽
- 一 冬服
 - 一 夏服
 - 一 甲種外套
 - 一 乙種外套又ハ防水布製長マント
 - 一 日覆
 - 一 下襟
 - 一 手袋
 - 一 冬肌著
 - 一 夏肌著

〔第六〕

第十類 警察 第一章 通規 第二節 官等等級、俸給諸給

一靴下
一長靴
一短靴
前項ノ外土地ノ狀況又ハ勤務ノ性質ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ得テ特種ノ制帽、又ハ外套、防寒具、脚絆及グートルヲ給與スルコトヲ得

第二條 巡查ニ貸與スヘキ品目左ノ如シ

- 一 帽 歐章
 - 一 肩章
 - 一 領章
 - 一 刀又ハ短刀
 - 一 刀緒
 - 一 刀帶又ハ短刀帶
 - 一 外套及被服ノ鈕釦及釦
 - 一 帽頭紐留
 - 一 外套締革
 - 一 手帖
 - 一 捕繩
 - 一 呼子笛
- 前項ノ外乘馬勤務ノ巡查ニハ拍車ヲ貸與ス

前二項ノ外土地ノ狀況又ハ勤務ノ性質ニ依リ水筒ヲ貸與スルコトヲ得

第三條 給與品ハ現品ヲ以テスヘシ但シ下襟手套冬肌著夏肌著靴下長靴短靴ハ代料ヲ以テ下附スルコトヲ得
制服ノ著用ヲ要セサル特別ノ勤務ニ服スル巡查ニハ任命ノ際前項ノ規程ニ依リ給與シ其ノ後ハ總テ代料ヲ以テ下附スルコトヲ得

第四條 給與品ノ員數及使用期限ハ左ノ如シ但シ已ムヲ得ヤル事情アルトキハ員數ヲ増減シ及使用期限ヲ伸縮スルコトヲ得

- 一 帽一箇 十二箇月
- 一 冬服一組 二十四箇月
- 一 夏服二組 四箇月
- 一 甲種外套一著 二十四箇月
- 一 乙種外套又ハ防水布製長マント一著 二十四箇月
- 一 日覆一箇 四箇月
- 一 下襟四箇 四箇月
- 一 手套二箇 六箇月
- 一 冬肌著二組 八箇月
- 一 夏肌著二組 四箇月

一靴下二足 一箇月
一長靴一足 十二箇月
一短靴二足 十二箇月

乘馬勤務ノ巡查ニハ短袴及長靴ヲ給シ袴及短靴ヲ給セス短袴ハ冬服ニ在リテハ上衣一著ニ付二著ヲ以テ一組トシテ之ヲ給シ長靴ハ其ノ使用期限ヲ十二箇月トシ二足ヲ給ス
乘馬勤務ニ非サル巡查ニモ短袴ヲ給スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ上衣一著ニ付袴及短袴各一著ヲ以テ一組トス但シ七地ノ狀況ニ依リ短袴ヲ貸與品ト爲スコトヲ得
特種ノ制帽、又ハ外套、防寒具、脚絆及グートルノ給與員數及使用期限ハ樺太廳長官又ハ廳府縣長官之ヲ定ム
本條使用期限ノ外廳府縣長官ハ保存期限ヲ定ムルコトヲ得

第五條 貸與品ハ退職休職轉職死亡ノ際之ヲ返納スヘシ使用期限ノ終ラサル給與品亦同シ但シ給與品ノ代料ヲ以テ下付シタルモノハ使用殘期ニ相當スル金額ヲ返納スヘシ
第六條 貸與品又ハ使用期限ノ終ラサル給與品ヲ毀損紛失シ代品ヲ交付スル場合ニ於テ其ノ毀損紛失過失怠慢ニ出タルモノナルトキハ辨償ノ責ニ任スヘシ

附 則

第十類 警察 第一章 通規 第二節 官等等級、俸給諸給

第七條 本令ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス但シ本令施行ノ際既ニ給與シタル現品ニハ之ヲ適用セス

● 巡查給與品及貸與品規則ヲ警部補ニ準用スル件

明治四十三年三月八日 勅令第二十一號

朕巡查給與品及貸與品規則ヲ警部補ニ準用スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
巡查給與品及貸與品規則ノ警部補ニ之ヲ準用ス

附 則

本令ハ明治四十三年勅令第十二號、明治四十三年勅令第十三號及明治四十三年勅令第十四號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

● 宿直等ノ食料給與並特別用文具備付ノ件

明治二十四年三月三十日 勅令第二十七號

朕明治六年大藏省達第六十一號及明治二十二年閣令第四號

廢止ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
明治六年大藏省達第百六十一號及明治二十一年閣令第四號ハ
本年三月三十一日限り廢止ス但宿直又ハ徹夜勤務使役ノ者ニ
ハ適宜食料ハ代料
現品又ハ給與シ又特別用ノ文具ハ官廳ニ備ヘ
テ使用セシムルコトヲ得

第三節 任用、試験、教習

● 巡查採用規則

明治二十四年九月三日
内務省訓令第二十一號

沿意 明治二四年内務省訓令第二三號、二五年第一三號、
二六年第一九號、二七年第一〇號、二八年第八號、
三〇年第一七號、三二年第三五號、三三年第二七
號、三七年第六號、大正元年第二九號、一二年
第二號、昭和五年四月第七號改正

巡查採用規則左之通り相定ム

- 第一條 巡查ハ試驗ノ上採用スヘキモノトス但シ左ニ記載シ
タル者ハ此限リニアラス
一 曾テ判任官以上ノ職ヲ奉シタル者及文官任用令(第三條)
ニ依リ判任文官タルノ資格ヲ有スル者
二 巡查精勤證書ヲ有スル者
三 曾テ巡查ノ職ヲ奉シ退職後滿五年ヲ經過セサル者

(第五)

四陸軍兵卒ニシテ現役滿期トナリ又ハ戰時召集ヲ解除セラ
レ下士適任證書ヲ有スル者

第二條 巡查志願者ハ品行方正年齡二十年以上三十年未滿ニ
シテ徵兵ニ相當セス且ツ左ノ諸項ニ抵觸セサル者タルヘシ但
シ特別ノ技能ヲ有シ又ハ曾テ巡查ノ職ヲ奉シタル者ニシテ年
齡四十年未滿ナルトキハ巡查志願者タルコトヲ得

一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者但シ所犯情狀ノ酌量スヘ
キ者ニシテ滿期後三年ヲ經過シ改悛ノ狀著シト認メラル
ルトキハ此限ニ在ラス

二 賭博犯處分規則ニ依リ懲罰ニ處セラレタル者
三 巡查懲罰例又ハ「官吏懲戒例」ニ依リ免職セラレ若クハ
故ナク巡查ヲ辭職シ二年ヲ經過セサル者

四 身分不相應ノ負債アル者又ハ家資分散者タル宜告ヲ受ケ
未タ復權ヲ得サル者又ハ從前身代限ノ處分ヲ受ケ未タ辨
償ノ義務ヲ終ヘサル者

五 酒癖アル者又ハ暴行ノ癖アル者

第三條 巡查體格ノ検査ハ左ノ諸項ニ適合スル者ヲ以テ合格
トス
一 體質善良ナル者即チ左ニ記載スル等ノ缺所ナキ者
四肢完具セサル者但執筆把握ニ差支サル指ノ萎小彎屈強

(第五)

直等ノ類ハ此限リニアラス
胸腔機關及腹内臟器若クハ皮膚病較著ノ疾病アル者但較
著ノ疾病ニアラサルモ全身筋機關ノ機能減衰ノ者亦同
シ

服裝又ハ運動ニ不便ナル者
贅生物畸形等容貌醜惡ナル者

二 身幹一・五八米以上ニシテ胸圍約身長ノ半ニ等シキ者
三 兩眼共視力三分ノ二以上ニシテ辨色力完全ノ者
四 聽力二米ノ距離ニ於テ低語ヲ聽識シ得ル者

五 言語應答明瞭ニシテ充分ノ發聲ニ堪ユル者
六 精神完全ナル者即チ精神病及神經病(鬱癡癲狂癡狀及舞
踏癩癩等ノ病)ナキ者

第四條 巡查技藝ノ試験ハ左ノ諸項ニ適合スル者ヲ以テ合格
トス

- 一 (削 除)
 - 二 本邦歴史及地理ノ大略ニ通スル者
 - 三 假名交リノ論文及普通往復文ヲ作り得ル者
 - 四 算術加減乗除ヲ爲シ得ル者
 - 五 普通ニ楷書又ハ行書ヲ書キ得ル者
- 第五條 巡查ノ試験ハ警部二名以上立合ノ上警察消防練習所

一三

第十類 警察 第一章 通規 第三節 任用、試験、教習

長又ハ巡查教習所長之ヲ施行スヘシ但シ止ムヲ得サル場合ニ於テハ特ニ試験官ヲ指定シ立合官ナクシテ施行スルコトヲ得

第六條 試験ノ上巡查ニ採用スヘシト定リタル者ハ警視廳ニ於テハ〔巡查本部長〕、北海道廳及府縣ニ於テハ〔警部長〕

親ク左ノ諸件ヲ宣告シ警書ヲ徴シタル上採用ス可シ
一 巡查タル者ハ官吏服務規律ヲ恪守スヘキハ言フ俟タス常ニ上官ノ命令ヲ遵守シ勤務中ハ勿論勤務ニ服セサルトキト雖モ猥ニ政治ノ是非得失ヲ論評スルカ如キコト決シテアルマシキ事

一 巡查タル者ハ常ニ人民ノ保護者タルコトヲ記憶シ之ニ對シ丁寧親切ヲ旨トシ而モ之ト相狎昵スルカ如キコトナク職務上ニ於テ負擔スル百般ノ責務ハ最モ嚴正忠實ニ之ヲ踐行スヘキ事

一 巡查タル者ハ一端奉職ノ上ハ他念ナク職務ニ從事シ五箇年未滿ニシテ一身ノ故ヲ以テ辭職スルカ如キコト決シテアルマシキ事

一 巡查タル者ハ自身ハ勿論家族ニ至ル迄専ラ品行ヲ正シクシ警察官吏タリ又其家族タル體面ヲ汚損スルカ如キ所業決シテアルマシキ事

第七條 巡查タルヘキ者ヨリ呈セシムヘキ誓文ハ左ノ如シ但前條各官ノ面前ニ於テ本人ヲシテ自書捺印セシム可シ

誓文

某 儀

今般何〔廳府縣〕巡查志願仕候ニ付御採用ヲ被ルニ於テハ官吏服務規律ヲ恪守仕ルヘキハ勿論人民ニ對シテハ丁寧親切ニ職務ヲ執行シ且ツ總テノ法律命令ヲ遵守シ職任上百般ノ責務ハ嚴正忠實ニ踐行仕ルヘク又奉職五箇年ニ滿タスシテ一身ノ故ヲ以テ自ラ職務御免相願候様ノ儀決シテ無之且ツ自身ハ勿論家族ニ至ル迄品行方正ニ相保チ警察官吏タリ又其ノ家族タル體面ヲ汚損致シ候様ノ所業決シテ仕マシク依テ誓文如件

〔明治〕 年 月 日

府縣國郡市町村番地身分

何 某實印

第八條 〔新ニ採用スル巡查ハ先ツ三級俸ヲ給スヘシ其陸軍現役滿期ノ下士及巡查精勤證書ヲ有スル者ニ係ルトキハ直ニ二級俸ヲ給スルコトヲ得但陸軍現役滿期ノ下士ニシテ士官適任證書ヲ有スル者ハ特ニ一級俸ヲ給スルコトヲ得〕

〔誓〕

●警部、警部補又ハ消防士特別任用學術試験及實務考査規程

大正九年九月十六日
内務省令第二十九號

警部、警部補又ハ消防士特別任用學術試験及實務考査規程左ノ通定ム

警部、警部補又ハ消防士特別任用學術試験及實務考査規程

第一條 判任文官特別任用令ニ依ル警部及警部補又ハ消防士特別任用ニ付學術試験及實務考査ヲ行フ爲廳府縣ニ考試委員ヲ置ク

考試委員ハ廳府縣各三名トシ須要ニ應シ其ノ本廳勤務ノ高等官中ヨリ廳府縣長官之ヲ命ス

第二條 學術試験ハ左ノ區分ニ依リ各其ノ科目ニ從ヒ之ヲ行フ

一 警部及警部補特別任用ノ爲ニスル學術試験ニ付テハ左ノ科目ニ從フ
一 憲法、行政法ノ大意

第十類 警察 第一章 通規 第三節 任用、試験、教習

〔誓〕

二 刑法、刑事訴訟法、裁判所構成法

三 警察ニ關スル諸法規

四 算術

二 消防士特別任用ノ爲ニスル學術試験ニ付テハ左ノ科目ニ從フ

一 憲法、行政法、刑法ノ大意

二 消防ニ關スル警察諸法規

三 消防機械ノ構成及其ノ使用法

四 瓦斯、電氣其ノ他ノ危險物ニ對スル消防上ノ取扱法

五 算術

前項ノ外學術試験ハ廳府縣長官ノ必要ト認ムル科目ニ就キ仍之ヲ行フコトヲ得

第三條 實務考査ヲ爲スニハ監督ノ任アル上官ノ意見ヲ徵シ考査表ニ照合シテ優劣ヲ判定スヘシ

第四條 前條ノ考査表ハ廳府縣長官ノ定ムル所ニ依リ之ヲ備ヘ監督ノ任アル上官ヲシテ左記項目ニ從ヒ隨時記入セシメ置クヘシ

一 品性、素行ニ關スル事項
二 姿勢禮式服裝其ノ他紀律ニ關スル事項

第十類 警察 第一章 通規 第三節 任用、試験、教習

- 三 職務執行ノ當否
 - 四 勤務ノ勉否
 - 五 書類報告ノ整否
 - 六 其ノ他考査上必要ト認ムル事項
- 第五條 學術試験及實務考査ノ合格者ニハ左ノ雛形ノ合格證書ヲ付與ス

試験成績優劣ノ順序ニ依ル

第 號	合格證書	廳府縣巡查 氏 名	年月日生
判任文官特別任用令ニ依ル警部及警部補特別任用ノ學術試験及實務考査ニ合格シタルコトヲ證ス			
年月日	考試委員	官位勳等 氏 名	官位勳等 氏 名

● 巡查教習概則

明治三十年七月七日
内務省訓令第十五號

沿革 大正一二年内務省訓令第三號、昭和五年四月第八號改正

廳府縣 東京府 除ク

巡查教習概則左ノ通相定ム

巡查教習概則

- 第一條 初テ採用シタル巡查ニハ四月以上必要ナル學科及實務ヲ教習スヘシ
- 前項ノ教習期間ハ特別ノ事由アルトキハ之ヲ三月迄ニ短縮スルコトヲ得
- 警察官タリシ經歷ヲ有スル者及學術ノ素養アル者ニ對シテハ前二項ノ規定ニ拘ラス教習ノ期間ヲ短縮シ又ハ教習ノ全部若ハ一部ヲ省略スルコトヲ得
- 第二條 教習ハ巡查教習所ニ於テ之ヲ行フヘシ但實務教習ハ警察署ニ於テ先任巡查ノ部伍ニ加ヘテ之ヲ行フコトヲ得
- 第三條 (警部)長ハ時々巡查教習所ニ臨ミ教習ノ方法ヲ監督シ且教習中ノ巡查ニ對シテ訓授スヘシ

第十類 警察 第一章 通規 第三節 任用、試験、教習

試験成績優劣ノ順序ニ依ル

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第 號	合格證書	廳府縣消防手 氏 名	年月日生
判任文官特別任用令ニ依ル消防士特別任用ノ學術試験及實務考査ニ合格シタルコトヲ證ス			
年月日	考試委員	官位勳等 氏 名	官位勳等 氏 名

第四條 教習ノ成績ハ教習期限ノ終末ニ於テ試験スヘシ

第五條 教習ヲ受クル巡查教習期間中缺席三十日以上ニ及ビタルトキ又ハ教習成績ノ試験ニ合格セザルトキハ更ニ相當教習ヲ經ルニ非サレハ實務ニ服セシムルコトヲ得ス但臨時警戒ヲ要スルニ當リ巡查ノ人員ニ不足ヲ告グルトキハ實務ヲ補助セシムルコトヲ得

第六條 教習ヲ終リタル巡查ハ六月以上警察署詰勤務ニ服セシメ專ラ實務ノ教養ヲ施スヘシ

前項ノ期間ハ特別ノ事由アルトキ又ハ成績優良ナル者ニ付テハ適宜之ヲ短縮スルコトヲ得

第七條 本則施行ノ爲必要ナル條項ハ廳府縣長官之ヲ定メ内務大臣ニ報告スヘシ

第八條 明治十九年内務省訓令第一二四號ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

第四節 分限、服務、賞罰

●巡查看守休暇概則

明治十八年七月三十日
内務省達番外

沿革 明治二八年内務省訓令第一號 改正

警視廳 北海道廳 府縣東京府
ヲ除ク

巡查看守休暇概則左ノ通相定候條其細目順序ハ適宜相定可届
出此旨相達候事

但本文ニ概觸スル從前ノ指令ハ取消候事

巡查看守休暇概則

第一條 巡查看守ハ常ニ定員ノ充足ヲ要スルヲ以テ休暇ヲ許
サ、ルヘキモノナレトモ其勤務上差支ナキニ於テハ皆勤ノ
者ニ限リ特ニ慰勞ノ爲メ休暇ヲ與フルコトヲ得

第二條 休暇ノ日數ハ左ノ割合ニ從フ
休暇日數
一ヶ年間皆勤ノ者 三週間

半ヶ年間皆勤ノ者

壹週間

前項ノ外五箇年已上皆勤ノ者ニハ一週間以内十箇年已上皆
勤ノ者ニハ三週間以内特ニ休暇ヲ與フルコトヲ得

第三條 非番父母祭日及職務上負傷者ノ缺勤日數ニ算入セス

第四條 休暇日數ハ數年ニ通算シテ併與スルヲ得ス

●警察賞與規則

明治三十二年十月十日
勅令第四百二號

沿革 明治三四年勅令第一二號、四三年第二〇號、四四年
第一一八號、大正一一年第一二八號 改正

朕警察賞與規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

警察賞與規則

第一條 警察賞與ハ内務大臣ノ定ムル規定ニ從ヒ警察上特ニ
功勞アリト認ムル者ニ對シテ行フモノトス

第二條 北海道地方費警察費又ハ府縣警察費ヨリ給與ヲ受ケ
ル警部補、巡查其ノ他ノ吏員ニ行フヘキ賞與ニ要スル費用
ハ北海道地方費警察費又ハ府縣警察費ヲ以テ支辨シ其ノ他
ノ賞與ニ要スル費用、國庫ノ負擔トシ賞與ヲ行フ廳府縣ニ

〔舊〕

屬スル費用ヲ以テ支辨スヘシ

第二條ノ二 本令中内務大臣ノ職務ハ領事館ノ管轄區域内ニ
在リテハ外務大臣、朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リ
テハ臺灣總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、關東州及南滿
洲鐵道附屬地ニ在リテハ關東長官、南洋羣島ニ在リテハ南
洋廳長官之ヲ行フ

第三條 本令ハ明治三十二年十月十五日ヨリ施行ス

附 則 (大正十一年勅令第二百二十八號)

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十年勅令第百十三號及明治四十四年勅令第二十三號ハ
之ヲ廢止ス

●警察賞與規則施行細則

明治四十三年十二月二十九日
内務省令第三十二號

沿革 昭和二年内務省令第四六號 改正

警察賞與規則施行細則左ノ通改正ス

警察賞與規則施行細則

第一條 警察官吏、消防官吏其ノ他警察事務ニ從事スル者ニ

第十類 警察 第一章 通規 第四節 分限、服務、賞罰

シテ警察上特ニ功勞アリト認ムル者ニ對シテハ左ノ區別ニ

依リ所屬廳府縣長官之ヲ賞與ス

一 賞與金 五拾圓以内ノ賞與

二 賞 詞

功勞拔群一般ノ龜鑑ト爲ルヘキ者ニ對シテハ内務大臣ノ認
可ヲ受ケ金三百圓迄ノ特別賞ヲ授與スルコトヲ得但シ非常
ノ異變ニ際シ又ハ其ノ他特ニ重大ナル危險ヲ冒シタル場合
ニ於テ特別ノ必要アリト認ムルトキハ其ノ金額ヲ五百圓迄
上スコトヲ得

第二條 消防組員又ハ消防員ニシテ水火災警戒防禦ニ關シ功
勞アル者ニ對シテハ前條ノ規定ヲ準用ス

第三條 前二條ノ功勞者ニシテ賞與前刑事被告人ト爲リ又ハ
懲戒處分ニ依リ其ノ職ヲ免セラレ又ハ文官分限令第十一條

第一號第二號ニ依リ休職ヲ命セラレタルトキハ賞與ヲ行ハ
サルモノトス

第四條 職務ノ爲ニスルニ非スシテ左ノ事項ニ關シ特ニ功勞
アリト認ムル者ニ對シテハ第一條ノ區別ニ依リ之ヲ賞與
ス

一 犯罪人ノ逮捕又ハ捜査

二 人命救助

第十類 警察 第一章 通規 第四節 分限、服務、賞罰

三 水火災、傳染病流行其ノ他災害、事變ニ於ケル警戒、防禦又ハ救護

四 急遽ノ際警察官ニ對シテ爲シタル協力
前項第一號ニ依ル賞與ハ確定判決ニ至ラスト雖犯罪ノ事實明白ナリト認ムヘキトキハ之ヲ行フコトヲ得

第五條 前條ニ依ル賞與ハ左ノ區別ニ依リ廳府縣長官之ヲ行フ
一 前條第一號ノ場合ニ在テハ最初ニ犯罪人ヲ受取リタル官署所在地ノ廳府縣

二 前條第二號及第三號ノ場合ニ在テハ行爲地所轄廳府縣

三 前條第四號ノ場合ニ在テハ協力ヲ受ケタル警察官所屬廳府縣

第六條 第四條ノ功勞者ニシテ賞與前處刑セラレタルトキハ賞與ヲ行ハサルコトアルヘシ

第七條 功勞者賞與前ニ死亡シタルトキハ賞與ノ金額ハ左ノ順位ニ從ヒ其ノ家ニ在ル親族ニ之ヲ給ス但シ同順位間ニ在テハ其ノ親等ノ最モ近キ者ヲ先ニシテ同親等間ニ在テハ男ハ女ニ、同性間ニ在テハ長ハ幼ニ先ツ
一 配偶者

二 直系卑屬
三 直系尊屬
四 兄弟姊妹

附 則
本令ハ明治四十四年一月三日ヨリ之ヲ施行ス

●軍事警察賞與ノ件

明治四十年一月二十九日
勅令第五號

朕軍事警察賞與ノ件ヲ裁可シ之ヲ公布セシム
軍事警察上特ニ功勞アリト認ムル者ニ對シテハ陸軍大臣ノ命ニ依リ賞與ヲ爲スコトヲ得

附 則
本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●軍事警察賞與規程

明治四十年三月十八日
陸軍省達第十三號

沿 董 昭和三年一〇月陸軍省達第四〇號 改正
軍事警察賞與規程左ノ通定ム

軍事警察賞與規程

第一條 軍事警察上功勞アリト認ムルトキハ所管長官ニ於テ金三十圓以内ノ賞與ヲ爲スコトヲ得

第二條 前條給額以上ノ賞與ヲ爲スノ必要アルトキハ所管長官ヨリ陸軍大臣ニ申請スヘシ

第三條 功勞者賞與前死亡シタルトキ又ハ所在不明ナルトキハ賞與金ハ陸軍大臣ノ認可ヲ受ケ最近親族ニ給スルコトヲ得

第四條 功勞者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ賞與セス但シ第二號ノ場合ニ於テ功績顯著ニシテ一般ノ利益ト爲リタルトキハ此ノ限ニ在ラス

一 功勞者賞與前禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ又ハ憲兵ニシテ懲戒處分ニ依リ官職ヲ免セラレタルトキ
二 自己又ハ親族ノ利害ニ關スル事件又ハ被害者ト利害ヲ共ニスルトキ

●刑務賞與規則

大正十一年十月十四日
司法省令第二十六號

沿 董 昭和二年一二月司法省令第二九號 改正
刑務賞與規則左ノ通相定ム

第十類 警察 第一章 通規 第四節 分限、服務、賞罰

第十類 警察 第一章 通規 第四節 分限、服務、賞罰

- 一 配偶者
 - 二 直系卑屬
 - 三 直系尊屬
 - 四 兄弟姊妹
- 第五條 功勞者賞與前ニ於テ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ刑務所職員懲戒處分ニ依リ官職ヲ免セラレ若ハ文官分限令第十一條第一項第二號ニ依リ休職ヲ命セラレタルトキハ賞與ヲ行ハス

● 巡查〔看守〕精勤證書授與規則

明治二十二年五月二十五日
内務省訓令第二十一號

- 巡查〔看守〕精勤證書授與規則左ノ通相定ム
- 巡查〔看守〕精勤證書授與規則
- 第一條 精勤證書ハ巡查〔看守〕ノ精勤ヲ證シ其名譽ヲ表スルモノトス
 - 第二條 精勤證書ハ警察署長〔若クハ典獄〕ノ具狀ニ依リ廳府縣長官審査ノ上之ヲ授與スルモノトス
 - 第三條 精勤證書ハ左ノ諸項ニ適合スルモノニ授與スヘシ

- 一 行狀方止
 - 二 勤務勉勵
 - 三 事務熟達
 - 四 滿三年奉職
- 第四條 第三條ニ適合ノモノト雖トモ左ノ事項ニ該當スルモノハ精勤證書ヲ授與スルコトヲ得ス
- 一 官吏服務規律ニ違背シ若クハ巡查懲罰例ニ依リ月俸一箇月百分ノ二十以上ノ罰金ヲ科セラレタルモノ及ヒ月俸百分ノ二十以下ノ罰金ト雖トモ一年二回以上ニ及フモノ
 - 二 奉職後刑法其他ノ法律規則ニ依リ處分ヲ受ケタルモノ
- 第五條 精勤證書ヲ所持スルモノニシテ退職後再任ヲ求ムルトキハ試験ヲ爲サシテ採用スルコトヲ得
- 但年齡制限及體格試験ハ此ノ限ニアラス
- 第六條 水火災若クハ盜難等ニ罹リ精勤證書ヲ亡失シタルトキハ再ヒ之ヲ授與スヘシ
- 第七條 約勤證書ヲ受ケタル後其行狀修ラス若クハ第四條ノ事項ニ該當スルモノアルトキハ其證書ヲ沒收スルコトアルヘシ
- 第八條 精勤證書ハ左ノ鑰形ニ依リ調製スヘシ

用紙鳥ノ子紙 一ノ中ハ執モ朱書



● 巡查懲罰例

明治九年八月五日
内務省達乙第九十二號

廳府縣〔東京府ヲ除ク〕

巡查懲罰例別紙之通改正候條此旨相達候事

〔別紙〕

巡查懲罰例

- 第一條 凡職務ノ規則ニ違背シ及ヒ怠慢失誤アル者ハ其情狀ヲ審案シ俸給一ヶ月百分ノ一ヨリ少カラス一ヶ月ヨリ多カラサル〔罰金ヲ科シ〕輕キ者ハ呵責ニ止ム
- 第二條 凡犯狀ノ職務ヲ耻カシムルニ係ル者ハ免職ス
- 第三條 凡〔罰金〕未タ完納セサル中免職死亡等ニ係ル者ハ追徴スルコトヲ免ス
- 第四條 凡〔罰金〕ハ毎月ノ俸金ヲ控除シテ完納セシム但月俸ノ三分ノ一ヲ過クルコトヲ得ス
- 第五條 凡官物ヲ遺失及毀損スル者ハ相當ノ〔罰金ヲ科シ〕尙其代價ヲ賠償セシム

第五節 配置、點檢、巡閱

● 巡查配置及勤務概則

明治三十年七月七日
内務省訓令第十六號

沿章 明治三四年内務省訓令第九號、四二年第二號、四三年第二號、大正四年第九號、一二年第二一號、昭和三年八月第一六號 改正
廳府縣(東京府ヲ除ク)

巡查配置及勤務概則左ノ通相定ム

巡查配置及勤務概則

- 第一條 巡查ハ巡查部長並内勤外勤勤務刑事及教習中ノ巡查ニ區別シ其ノ配置及勤務ノ方法ハ廳府縣長官之ヲ定ム但内勤ニハ便宜職員ヲ用ユルコトヲ得
- 巡查部長ニ補セラレタル巡查ハ兼テ警部警部補ノ職務ヲ補助ス
- 第二條 外勤巡查ニ關シテハ其ノ受提區畫ヲ定メ二乃至六ノ受提區ヲ以テ一組合區ト爲ス
- 第三條 警察署所在地ニ於テハ組合毎ニ巡查派出所ヲ設ケ交代勤務セシムベシ但土地ノ狀況ニ依リ巡查派出所ヲ設ケス

又ハ巡查駐在所ヲ設クルコトヲ得

前項ニ依リ巡查派出所又ハ巡查駐在所ヲ置キ又ハ之ヲ置キスシテ巡查立番所ヲ設クルコトヲ得
土地ノ狀況ニ依リ必要アルトキハ前二項ノ例ニ依リ警察署(警察分署)所在地隣接ノ地ニ巡查派出所又ハ巡查立番所ヲ設クルコトヲ得

- 第四條 警察署(警察分署)所在地ニアラサル地ニ於テハ巡查駐在所ヲ設ケ受持巡查ヲシテ受持區内ニ駐在セシムベシ但駐在巡查組合ノ區域ニ依リ其ノ組合内二名以上ノ巡查ヲ一巡查駐在所ニ駐在セシムルコトヲ得
- 巡查駐在所ハ巡查ノ居所ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得
- 巡查駐在所ノ外一又ハ二以上駐在巡查組合ノ區域ニ依リ巡查部長派出所ヲ設クルコトヲ得
- 第五條 水上警察ノ爲必要アルトキハ便宜ノ地ニ巡查派出所ヲ設ケヘシ
- 第六條 請願ニ依リ巡查ヲ配置スルトキハ請願者ノ費用ヲ以テ巡查派出所ヲ設ケヘシ
- 第七條 臨時必要アリテ受持巡查ニアラサル巡查ヲ派遣スルトキハ便宜ノ地ニ巡查出張所ヲ設クルコトヲ得
- 第八條 巡查部長派出所ニ配置シタル巡查部長ハ其ノ受提區ノ件

〔備四〕

〔備四〕

● 東京市等ニ於ケル巡查配置及勤務ニ關シ特別規定ヲ設クルノ件

明治三十六年四月二日
内務省訓令第七號

沿章 大正七年内務省訓令第一三號 改正

警規 廳

東京市、八王子市及其ノ附近郡部ニ於ケル巡查配置及勤務ニ關シテハ明治三十年訓令第十六號巡查配置及勤務概則ニ依リス内務大臣ノ認可ヲ經テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

● 銀行諸會社及人民等ヨリ巡查配置ヲ請願スル者ノ取計方

明治十四年四月十八日
内務省達乙第二十二號

警規 廳 府縣 東京府ヲ除ク

二五

- 域内ノ巡查ニ對シ監督ノ責アルモノトス巡查派出所巡查駐在所及巡查出張所ニ配置シタル巡查部長ノ其ノ派出所駐在所及出張所ニ於ケル他ノ巡查ニ對スルモ亦同シ
- 第九條 巡查ノ勤務時間ハ毎日勤務ノ巡查ニ在テハ八時間乃至十二時間隔日勤務ノ巡查ニ在テハ十四時間乃至十八時間トス
- 交通事務巡查其ノ他特殊ノ勤務ニ從事スル巡查ノ勤務時間ハ前項ノ規定ニ依ラス内務大臣ノ認可ヲ得テ廳府縣長官之ヲ定ムルコトヲ得
- 第十條 警察署(警察分署)請願ノ巡查及警察署(警察分署)所在地ニ在ル巡查ハ毎朝其ノ半數ニ對シ其ノ他ノ巡查ハ毎月召集シテ點檢ヲ行ヒ實務及法令ノ應用ニ關スル事項ヲ訓授又ハ應問スヘシ
- 第十一條 非常召集ノ方法ハ廳府縣長官之ヲ定ム
- 警察署長(警察分署長)ノ行フヘキ非常召集ハ毎年一回以上之ヲ行ヒ其ノ成績ヲ警部長ニ報告スヘシ
- 第十二條 本則施行ノ爲必要ナル條項ハ廳府縣長官之ヲ定メ内務大臣ニ報告スヘシ
- 第十三條 明治二十一年内務省訓令第六四〇號ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

第十類 警察 第一章 通規 第五節 配置、點檢、巡閱

第十類 警察 第一章 通規 第五節 配置、點檢、巡閱

銀行又ハ諸會社又ハ町村協議或ハ人民一己ヨリ其費用ヲ納メ
巡査ノ配置ヲ請願スル者ハ自今開屆請願ノ場所ヘ配置不苦候
條該費收支方ハ國庫下渡金地方稅等ニ連帶セス別ニ其帳簿ヲ
調製シ毎年地方稅收出精算書ト同時ニ報告スヘシ此旨相達候
事

但本文配置ノ巡査ハ一般ノ成規ニ從ヒ異同無之様取計フ可
シ

警察操典

大正十三年十二月十七日
內務省訓令第十八號

警察講習所 廳府縣(東京府)

警察操典左ノ通定ム

警察操典

第一章 總 則

第一條 教練ノ目的ハ警察官吏ヲ訓練シテ諸制式ニ習熟セシ
ムルト共ニ體力氣力ヲ鍛ヒ同時ニ紀律嚴正ニシテ精神鞏固
ナル警察力ヲ練成シ以テ警察諸般ノ要求ニ適應セシムルニ
在リ

第二條 警察官署長及警察官吏ノ教養ヲ掌ル官衙又ハ部署ノ

長ハ操典ヲ遵守シテ能ク部下及生徒ヲ教育シ教練ノ目的ヲ
達スヘキ責任ヲ有ス

本廳勤務ノ警察官吏ノ教練ニ付テハ警察部長(警視廳ニ在
リテハ警務部長)其ノ責ニ任ス

第三條 教練ノ順序ヲ逐ヒテ之ヲ行ヒ其ノ經過ヲ急遽ナラシ

ムヘカラス之カ實施ニ方リテハ常ニ熱心懇切事ニ從ヒ且些
末ノ事項ト雖苟モ紀律ニ關スルモノハ決シテ之ヲ等閑ニ附
スヘカラス

第四條 指揮官ハ特ニ其ノ態度及服裝ヲ正シクシ常ニ自ラ活

潑嚴正ナル動作ノ模範ヲ示スコトニ勉ムヘシ

第五條 指揮官ノ意圖ハ號令若ハ命令ニ依リ告達ス

號令及命令ハ確乎タル決意嚴正ナル態度ヲ以テ下スヘシ
號令ハ明快ナル音調ヲ以テ發唱シ命令ハ簡明確切ナルヲ要
ス

號令ヲ豫令及動令ニ分ツヘキ場合ニ於テハ豫令ハ明瞭ニ長
ク動令ハ活潑ニ短ク發唱シ其ノ間ニ適當ナル時間ヲ存スヘ
シ

第六條 教練ヲ行フニ際シテハ部下ニ其ノ目的精神ヲ説明シ

其ノ心得ヘキ要點ヲ會得セシメ之ヲ實施ノ上ニ現ハサシム
ルコト緊要ナリ

ルコト緊要ナリ

第七條 指揮官部隊ヲ指揮スルニ方リテハ抜刀セサルモノト
ス

第二章 各個教練

要 則

第八條 各個教練ノ目的ハ警察官吏ヲ訓練シテ諸制式ニ習熟
セシムルト同時ニ警察精神ヲ鍛ヒ紀律ヲ練リ部隊教練ノ確
乎タル基礎ヲ作ルニ在リ

第九條 各個教練ニ於テ感染シタル弊習ハ常ニ固著シテ之ヲ
除去スルコト難ク各個教練ノ不完全ハ部隊教練ニ於テ之ヲ
補フコト亦難シ故ニ各個教練ハ綿密嚴格ニ之ヲ行ヒ必要ア
ル場合ニ於テハ其ノ動作ヲ分チテ丁寧懇切ニ説明シ反覆練
習スルコトヲ要ス

第十條 教練ノ要旨ハ巧妙ニ在ラスシテ熟練ニ在リ熟練ハ教
育ノ懇切ナルト復習ヲ厭ハサルトニ依リテ得ラル故ニ各個
教練ハ絶エス之ヲ行フヲ必要トス

不動ノ姿勢

第十一條 不動ノ姿勢ハ教練ニ於ケル基本ノ姿勢ナリ警察精
神内ニ充溢シ外嚴肅端正ナラサルヘカラス

第十二條 不動ノ姿勢ヲ取ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

第十類 警察 第一章 通規 第五節 配置、點檢、巡閱

氣ヲ著ケ

兩踵ニ一線上ニ揃ヘテ之ヲ著ケ兩足ハ約六十度ニ開キテ齊
シク外ニ向ケ兩膝ハ凝ラスシテ之ヲ伸シ上體ハ正シク腰ノ
上ニ落チ著ケ脊ヲ伸シ且少シク前ニ傾ケ兩肩ヲ稍々後ロニ
引キ一様ニ之ヲ下ケ兩臂ハ自然ニ垂レ右掌ヲ腹ニ接シ指ハ
輕ク伸シテ之ヲ竝ヘ中指ヲ概ネ袴ノ縫目ニ當テ左掌ハ指ヲ
輕ク伸シテ之ヲ竝ヘ力鞘ヲ押ヘ頭ヲ眞直ニ保チ口ヲ閉
チ兩眼ハ正シク之ヲ開キ前ノ方ヲ直視ス

第十三條 休憩ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

休 ム

先ツ左足ヲ出シ爾後片足ヲ舊ノ所ニ置キ其ノ場ニ立チテ休
憩ス休憩中ト雖許可ナクシテ談話スルコトヲ得ス

右(左)向、半右(左)向及後向

第十四條 右(左)向或ハ半右(左)向ヲ爲サシムルニハ左ノ號

令ヲ下ス

右(左)向ケ——右(左)

或ハ

半右(左)向ケ——右(左)

左足尖ト右足トヲ少シク上ケ左踵ニテ九十度或ハ四十五度
右(左)ニ向キ右踵ヲ左踵ニ著ケテ同線上ニ揃フ

第十五條 後向ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

廻ハレ——右

右足ヲ其ノ方向ニ引キ足尖ヲ僅ニ左踵ヨリ離シ兩足尖ヲ少シク上ケ兩踵ニテ後ロニ廻ハリ次ニ右踵ヲ左踵ニ引キ著ク

行 進

第十六條 行進ハ勇往邁進ノ氣概アルヲ要ス

第十七條 速歩ノ一步ノ長サハ踵ヨリ踵マテ七十五糎ヲ其ノ速度ハ一分時間ニ百十四歩ヲ基準トス

速歩行進ヲ起サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

前へ——進メ

豫令ニテ左手ヲ以テ刀柄ヲ握ル勅令ニテ左股ヲ少シク上ケ脚ヲ前ニ出シ右足ヨリ七十五糎ノ所ニ脚ヲ伸シツツ踏ミ著ケ同時ニ概本胸ヲ伸シ全ク體ノ重ミヲ之ニ移ス左足ヲ踏ミ著クルト同時ニ右足ヲ地ヨリ離シ左脚ニ就キテ示セシ如ク右脚ヲ前ニ出シテ踏ミ著ケ行進ヲ續ケ頭ヲ眞直ニ保チ右臂ヲ自然ニ振ル

第十八條 止ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス勅令ハ通常足ノ地ニ著カムトスルトキ下スモノトス

分隊——止レ

後ロノ足ヲ一步前ニ踏ミ出シ次ノ足ヲ引キ著ケテ止リ左手

ヲ下ロス

第十九條 行進間右(左)向ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

勅令ハ通常右(左)足ノ地ニ著カムトスルトキ下スモノトス

右(左)向ケ前へ——進メ

左(右)足ヲ約半歩前ニ足尖ヲ内ニシテ踏ミ著ケ體ヲ右(左)方ニ向ケ右(左)足ヨリ新方向ニ行進ス

第二十條 行進間斜行進ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス勅令ハ通常右(左)足ノ地ニ著カムトスルトキ下スモノトス

斜ニ右(左)へ——進メ

左(右)足ヲ約半歩前ニ足尖ヲ内ニシテ踏ミ著ケ體ヲ半右

(左)方ニ向ケ右(左)足ヨリ新方向ニ行進ス
直行進ニ復セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

斜ニ左(右)へ——進メ

斜行進ヲ爲スト同法ヲ以テ直行進ニ復ス

第二十一條 行進間後向ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス勅令ハ通常右足ノ地ニ著カムトスルトキ下スモノトス

廻ハレ右前へ——進メ

左足ヲ約半歩前ニ足尖ヲ内ニシテ踏ミ出シ兩足尖ニテ百八十度右方ニ旋回シ續キテ行進ス

第二十二條 速歩行進間行進ヲ容易ナラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

ヲ下ス

步調止メ

正規ノ歩法ヲ守ルコトナク速歩ノ歩長ト速度トニ依リ姿勢ヲ崩スコトナク行進ス再ヒ正規ノ歩法ヲ取ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

步調取レ

第二十三條 足踏ミヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

足踏ミ——進メ

後ロノ足ヲ一步前ニ踏ミ出シ其ノ場ニ於テ進ムコトナク少シク膝ヲ屈メ交々兩足ヲ踏ミ著ケテ調子ヲ取ル
更ニ行進セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス勅令ハ通常左足ノ地ニ著カムトスルトキ下スモノトス

前へ——進メ

左足ヨリ踏ミ出シ續キテ行進ス

第二十四條 駢歩ハ一步ノ長サヲ踵ヨリ踵マテ約八十五糎トシ其ノ速度ハ一分時間ニ約百七十歩トス

駢步行進ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

駢歩——進メ

豫令ニテ左手ヲ以テ刀柄ヲ握ルト同時ニ左手ヲ握リ腰ノ高

サニ上ケ肘ヲ後ロニス

勅令ニテ左脚ヲ前ニ出ス其ノ法兩脚ヲ少シク屈メテ僅ニ左股ヲ上ケ右足ヨリ約八十五糎ノ所ニ踏ミ著ケ次ニ左脚ト同法ヲ以テ右脚ヲ前ニ出シ常ニ體ノ重ミヲ踏ミ著ケタル足ニ移シ右肘ヲ自然ニ振リ續キテ行進ス

一分隊——止レノ號令ニテ二歩前進シタル後後ロノ足ヲ一步前ニ踏ミ出シ次ノ足ヲ引キ著ケテ止リ兩手ヲ下ス

駢步行進ヨリ速歩行進ニ移ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

速歩——進メ

二歩前進シタル後速歩ニ移リ右手ヲ下ロシ續キテ行進ス

第二十五條 駢步行進間ノ諸動作ハ速歩行進間ニ於ケル要領ニ準シテ行フ但シ通常速歩ニ於ケルヨリモ一步前ニ勅令ヲ下スモノトス

第三章 小隊教練

要 則

第二十六條 小隊教練ハ小隊ヲシテ小隊長ノ意圖ニ從ヒ衆心一致能ク警察精神ヲ發揚シ部隊運動ヲ爲シ得ル如ク練成スルヲ主眼トス

第二十七條 小隊教練ヲ準備スル爲小隊教練ノ規定ニ從ヒ先ツ分隊ヲ以テ教練ヲ行フヘシ但シ號令中「小隊」ノ語ヲ「分

隊ニ換フ

第二十八條 本章ニ掲クル諸運動ハ專ラ正面向ニ就キ規定ス
背面向ニ於ケル運動ハ之ニ準シテ行ヒ其ノ要領ヲ會得セシ
ムルヲ以テ足レリトス

編成

第二十九條 小隊ハ概ネ身幹ノ順序ニ從ヒ前後二列ニ排列シ
テ横隊ヲ作ル其前後ニ立チタル二人ヲ伍ト謂フ人員奇數ナ
ルトキハ左翼ノ第二列ヲ缺ク之ヲ缺伍ト謂フ後列員ハ前列
員ノ背ヨリ胸マテニ八十五釐ノ距離ヲ取リテ正シク前列員
ニ重ナリ同方向ニ位置ス各列員ノ間隔ハ左手ヲ腰ニ當テ肘
ヲ側方ニ張りタルトキ輕ク左隣員ノ右肘ニ觸ルルヲ度ト
ス

小隊ノ各伍ハ第一列ニ於テ右ヨリ左ニ番號ヲ附ス之ヲ小隊
ノ正面トス

分隊ハ小隊内ニ於テ右翼ヨリ順序ニ番號ヲ附ス
小隊ノ兩翼ニ各其ノ翼ノ分隊長ヲ置ク其ノ他ノ分隊長ハ分
隊ノ中央任ニ重ナリ後列ヨリ二歩ノ所ニ位置ス之ヲ押伍ト
謂フ

隊形

第三十條 小隊ノ隊形ハ横隊及側面縱隊トス横隊ハ主トシテ

(左)ノ方ニ整頓ス

整頓翼ノ分隊長ハ速ニ整頓ノ基礎ヲ定ムル爲反對翼ノ分隊
長ヲ目標トシ先ツ己ニ近キ二三列員ノ位置ヲ正シ逐次ニ整
頓ヲ正ス反對翼ノ分隊長ハ必要アル場合ニ於テハ己ニ近キ
二三列員ノ位置ヲ正シ以テ整頓ヲ補助ス
「直レ」ノ號令ニテ小隊ハ頭ヲ正面ニ復ス其ノ位置ニ於テ整
頓セシムルニハ單ニ「右(左)へ——準へ、直レ」ノ號令ヲ
下ス

右(左)向及後向

第三十三條 横隊右(左)向ヲ爲セハ偶數員(奇數員)ハ奇數員
(偶數員)ノ右(左)ニ出テ伍ヲ組ミ四列員相並ヒ側面向トナ
ル

兩翼分隊長及押伍列ニ在ル者ハ各其ノ位置ニ在リテ右(左)
向ヲ爲ス

側面向ニ在リテ左(右)向ヲ爲セハ伍ヲ解キ正面向ト爲ル

第三十四條 横隊後向ヲ爲セハ兩翼分隊長及缺伍ハ前列ニ就
ク

行進

第三十五條 直行進ハ常ニ右方ニ嚮導ヲ取ル若シ左方ニ取ル
トキハ特ニ之ヲ示スヘシ

集合及短距離ノ運動ニ側面縱隊ハ主トシテ運動ニ用フ

整頓

第三十一條 整頓完全ナルトキハ各列員ハ整頓線上ニ正シキ
姿勢ヲ取り頭ヲ右(左)ニ廻ストキ右(左)ノ眼ヲ以テ其
ノ右(左)隣員ヲ視他ノ眼ヲ以テ全線ヲ視通スコトヲ得ルモ
ノトス

列員整頓線ニ就クトキハ足ノ位置ヲ正シクシ頭肩又ハ上體
ヲ前後ニ出スコトナク正確ナル姿勢ヲ以テスルヲ必要ト
ス

第三十二條 小隊ヲ整頓セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

嚮導(何)歩前へ

兩翼分隊長ハ刀柄ヲ握ルコトナク前進シ小隊長ハ其ノ位置

ヲ正ス

次ニ左ノ號令ヲ下ス

右(左)へ——準へ

直レ

「準へ」ノ號令ニテ小隊ハ刀柄ヲ握ルコトナク前進シ最後ヲ
一步ヲ縮メ少シク整頓線ノ後方ニ止リ次ニ頭ヲ右(左)ニ
廻ハシ小歩ニテ靜ニ整頓線ニ就ク但シ後列及押伍列ニ在ル
者ハ先ツ正シク前方ノ列員ニ重ナリテ距離ヲ取リ次ニ右

小隊長ハ號令ヲ下スニ先タチ通常行進目標ヲ右(左)翼分隊
長ニ示スモノトス

小隊ハ一齊ニ行進ヲ起シ嚮導ニ從ヒテ行進シ嚮導ハ列員ニ
關スルコトナク正規ノ歩長ト速度トヲ保チ與ヘラレタル日
標ニ向ヒ若ハ正面ト直角ニ行進ス

各列員ハ嚮導ノ方ニ整頓スル爲頭ヲ廻スコトナク常ニ隣員
ニ注意スヘシ然レトモ一般ニ整頓ハ歩長及速度ノ齊一ト間
隔ノ保存トニ依リテ保テ得ルモノトス

行進中嚮導ヲ他翼ニ取ルヲ要スルトキハ「嚮導左(右)」ノ
號令ヲ下スヘシ

第三十六條 行進中列員ノ守ルヘキ要件左ノ如シ

嚮導何レノ方ニ在ルモ常ニ頭ヲ正シク保ツコト

整頓翼ヨリ押シ來ルトキハ之ニ從ヒ反對ノ方ヨリ押シ來ル
トキハ之ヲ支フルコト

整頓線ヨリ進ミ或ハ後レ又ハ間隔ヲ失ヒタルトキハ漸次ニ
恢復スルコト

障礙物等ニ遭遇シ行進シ能ハサルトキハ直ニ左右ニ之ヲ避
クルコトナク足踏ヲ爲シ隣員等ニ妨ナキニ至リ速ニ舊位置
ニ復歸スヘシ

若シ歩ノ違ヒタルトキハ踏替ヲ爲シ速ニ整頓翼ノ方ナル隣